

平成30年度
しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

平成30年3月31日

沖縄県立芸術大学
附属研究所

平成30年度

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 事業報告書

平成31年3月31日

沖縄県立芸術大学 附属研究所

発刊にあたって

沖縄県立芸術大学は平成28年度から2年間にわたって「沖縄県立芸術大学ハワイ大学等交流事業」を展開してきました。そのなかで附属研究所では鈴木耕太講師を代表としてハワイ大学等と交流しながら「しまくとうば事業」を推進させ、本年度からは「しまくとうば実践教育プログラム開発事業」という、教育における「しまくとうば」を実践する事業として本格的にスタートさせました。

本年度は沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の実技科目「地謡実技」「琉球舞踊実技」「組踊実技」という3つの科目において、前期・後期の合計30コマの授業に「しまくとうば」の特別講師を招き、所作や歌唱法などを実技指導する際に「しまくとうば」を用いて教授する講義を行いました。また、座学の「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」の講義にも上述の特別講師を招き、実技の授業では語っていない芸談等を「しまくとうば」で語っていただく事によって、実技教育と語学教育の連携を試みました。

さらに、教育現場における「しまくとうば」の導入を促進するために、授業中の教員と学生の会話、そして教員から学生への呼びかけの文例を「しまくとうば」に訳し、戦前生まれで首里出身の話者の音声データを収録した『授業で使える『しまくとうば』文例集』も作成しました。また、「琉球舞踊実技」における「しまくとうば」を用いた実践教育をする際に用いる補助教材の開発なども開始しました。

そして本年度事業では、ハワイ大学マノア校における約20年に及ぶ「しまくとうば」関連講義の実践を学んできました。もはや「しまくとうば」の教育は、沖縄だけでなく、世界的に共通する言語教育である事を痛感するとともに、本事業の実践結果が今後の沖縄県内外における言語教育の一つの指針となっていくことを願っております。

2019年3月

沖縄県立芸術大学附属研究所

所長 久万田 晋

平成30年度 しまくとうば実践教育プログラム事業 事業報告書 目次

附属研究所所長挨拶

— 目次 —

しまくとうば実践教育プログラム事業報告書

1 はじめに	1
2 実施概要	2
3 実践教育プログラムについて	5
3-1 地謡実技	5
3-2 舞踊実技	7
3-3 組踊実技	10
3-4 学生による授業評価アンケート	12
3-4-1 学生アンケート結果 (H30・前期)	12
3-4-2 学生アンケート結果 (H30・後期)	14
3-5 琉球語関連科目について	16
4 授業で使える「しまくとうば」文例集について	20
5 琉球舞踊におけるしまくとうば副教材について	25
6 ハワイ大学 (ヒロ校・マノア校) 調査概要	33
6-1 調査研究概要	33
6-2 ハワイ調査報告	35
6-2-1 2018年度ハワイ調査報告 (西岡)	35
6-2-2 ハワイ大学ヒロ校およびマノア校訪問調査報告 (高良)	38
6-3 ハワイ調査ミーティング録	43
7 「誇らしや しまくとうば」講演会概要	50
7-1 第3回アンケート結果	52
7-2 第4回アンケート結果	59
8 第1回・第2回「誇らしや しまくとうば」講演会講演録	63
8-1 第1回講話テープ起こし	63
8-2 第2回講話テープ起こし	79
9 事業報告会概要・アンケート結果	99
9-1 事業報告会概要	99
9-2 アンケート結果	100
10 資料 (当事業の新聞掲載、平成30年度のしまくとうば事業関連資料など)	102
10-1 新聞掲載記事	102
10-2 平成30年度しまくとうば実践教育授業録画日一覧	106

しまくとうば実践教育プログラム開発事業報告書

1 はじめに

今年度から事業名が「沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業」となり、しまくとうば実践教育とその方法、教材研究、そして普及活動という事業内容となった。本年度は平成29年度に行った授業実践のデータをもとに、しまくとうばを実践的に講義へ導入する方法として琉球舞踊に関する副教材を作成することを研究会で取り組んだ。また、授業中で使える教員と学生の会話の文例「授業で使える『しまくとうば』文例集」を作成した。

また、研究調査活動として、ハワイ大学ヒロ校へ赴き、言語教育における先進教育の調査を行った。今回の調査は、昨年度から新たな課題として考えている、現在開講されている「琉球語」の上級クラスの設置を実現できるかを検討するためである。言語の上級クラスのあり方や、言語教育カリキュラムの実例、ハワイ語の教材作成の現状などを学ぶことができた。さらに、ハワイ大学マノア校において、約20年間の実績がある、日本語コース学生を対象にしたしまくとうばの講義の内容、そして2019年春学期よりスタートされるしまくとうばと沖縄の伝統文化を教えるクラスについて担当教員のカーリー氏からお話を伺った。

上記の事業を行った今年度の「沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育研究会（以下「研究会」）」のメンバーは以下の通りである。

鈴木耕太（附属研究所：事業代表者）

高良則子（全学教育センター）

麻生伸一（全学教育センター）

仲嶺伸吾（音楽学部琉球芸能専攻）

比嘉いずみ（音楽学部琉球芸能専攻）

阿嘉修（音楽学部琉球芸能専攻）

波照間永吉（沖縄県立芸術大学名誉教授）

西岡敏（沖縄国際大学教授、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

仲原穰（県立芸大非常勤講師、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

平成30年度は毎月2回の研究会を開催した。附属研究所の鈴木を中心として、音楽学部琉球芸能専攻でのしまくとうばによる授業実践を4月から翌年1月までの通年で行うために、外部専門家、全学教育センターとともにカリキュラムについて研究し、実践した。授業実践の内容および本事業の報告の詳細はそれぞれ別項をご参照いただきたい。

平成30年度の「沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業」の事業計画は以下の通りであった。

1. しまくとうば実践教育プログラム開発研究会（毎月2回開催）。[担当：全員]
2. 前期3科目・後期3科目の実践教育を行う。[授業実施担当：仲嶺・比嘉・阿嘉]
3. 「琉球語I」へゲストスピーカーを招き、「実践教育プログラム」との連携を図る。[担当：仲原]
4. しまくとうば講演会（第3回：7月・第4回：11月）。[担当：全員]
5. 実践教育におけるしまくとうばキーワードの蒐集（データの集積および編集）
6. ハワイ大学ヒロ校への視察（言語教育カリキュラム先進事例のヒアリング）。
7. ハワイ大学マノア校への視察（しまくとうば教育事例のヒアリング）。
8. 附属研究所および、琉球芸能専攻の「しまくとうばによる施設表示」の作成・実行。
9. 「琉球舞踊実技」における副教材の研究開発。
10. 授業における教員—学生間の会話事例集の作成および刊行。
11. 事業報告会の実施（2019年2月16日）。

本事業は教育現場に「しまくとぅば」を導入、実践し、琉球芸能を教授するときにおいて、「しまくとぅば」でしか表現出来ない独特の「わざ」や表現を学習することで、学生の表現力や作品理解力などを総合的に高めようというねらいから行われた事業である。本年度の事業成果については、各章に詳細を掲載した。次年度以降も「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」は継続する。本年度の結果を踏まえ、よりよい教育プログラムを作成し、琉球芸能における「しまくとぅば」の用語を充実させていきたい。

2 実施概要

平成 29 年度、しまくとぅば実践教育プログラム研究会では毎月 2 回の定例研究会において以下の内容などを検討し、実施した。

まず、平成 29 年度と同様に「地謡実技」「舞踊実技」「組踊実技」の 3 科目について、しまくとぅばで芸能を教わってきた先達を「特別講師」として招聘し、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の教員が実技を指導する講義において、芸能を指導する際に用いられる用語や、衣裳・小道具・楽器などの名称など、芸能に関わる用語を「特別講師」に語ってもらい、教員と学生が学ぶ、という教授方法を取り決め、実施した。そして、実技授業を担当する教員にそれぞれの授業を担当する「特別講師」を選定してもらい、研究会の承認を経て、「特別講師」の先生方へ事業内容を説明し、4 月から通年で授業実践を担当する特別講師が決まった。特別講師は「地謡実技」が大湾清之先生、「舞踊実技」が宮城幸子先生、「組踊実技」が金城清一先生となった。各特別講師の先生方のプロフィール等は、次の授業実践の報告に譲ることとする。

また、2018 年 7 月 13 日と 2018 年 11 月 9 日に開催された「しまくとぅば講演会」の企画内容についても研究会で議論し、実施した。講演会は昨年度同様、しまくとぅばのみで芸能を語る、という企画である。今年度は前年度の継続として、第 3 回が琉球古典音楽安富祖流人間国宝の照喜名朝一氏、第 4 回は組踊立方で国の無形文化財保持者（総合認定）の眞境名正憲氏が登壇された。

研究会では『琉球芸能用語事典（仮）』を作成するために「琉球芸能用語事典部会（以下、部会とする）」を発足した。担当者は西岡を部会長とし、鈴木・波照間・仲原・仲嶺・比嘉・阿嘉の 7 名が会員である。部会では、実践授業で出たしまくとぅばのキーワードを蒐集するとともに、文献などから琉球芸能の用語を蒐集し、本事業の最終年度（平成 34 年を予定）に『琉球芸能用語事典（仮）』を刊行する事を目標としている。今年度は前述のキーワードの蒐集及び、実践授業における副教材の開発、施設名のしまくとぅば表記、授業におけるしまくとぅばでの応答語の研究開発を行った。

今年度はしまくとぅば実践教育科目と、一般教育科目である「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」をカリキュラムとして連携させるため、琉球舞踊の特別講師でおる宮城幸子先生と組踊実技の特別講師の金城清一先生を「琉球語Ⅰ」（5 月 31 日・12 月 20 日実施）に、琉球舞踊実技の宮城幸子先生を「琉球語Ⅱ」（7 月 12 日実施）に登壇いただいた。

今年度の実施事項を時系列で示すと以下の通りである。

【平成 30 年】

- 4 月 3 日 第 1 回 しまくとぅば実践教育研究会
- 4 月 9 日 授業録画（舞踊実技Ⅰ）
- 4 月 5 日 第 1 回 事典作成部会
- 4 月 16 日 授業録画（舞踊実技Ⅰ）
- 4 月 19 日 授業録画（組踊実技Ⅰ）
- 4 月 23 日 授業録画（舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ）
- 4 月 24 日 第 2 回 しまくとぅば実践教育研究会
- 4 月 26 日 第 2 回 事典作成部会

4月30日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
5月 7日 第3回しまくとうば実践教育研究会、授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
5月10日 第3回事典作成部会、授業録画(組踊実技Ⅰ)
5月14日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
5月21日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
5月24日 授業録画(組踊実技Ⅰ)
5月28日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
5月29日 第4回しまくとうば実践教育研究会
5月31日 「琉球語Ⅰ」特別授業(講師:宮城幸子)、授業録画(組踊実技Ⅰ)、第4回事典作成部会
6月 4日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡)
6月 6日 平成29年度ハワイ大学等交流事業報告書納品
附属研究所の各部屋および施設へしまくとうば名称を掲示
6月11日 第5回しまくとうば実践教育研究会、授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
6月12日 第5回事典作成部会
6月13日 授業録画(組踊実技Ⅲ)
6月14日 授業録画(組踊実技Ⅰ)
6月18日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
6月20日 授業録画(組踊実技Ⅲ)、琉球放送「ウチナー紀聞」取材1日目
6月21日 授業録画(組踊実技Ⅰ)
6月25日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)、「ウチナー紀聞」取材2日目
6月26日 第6回しまくとうば実践教育研究会
6月27日 授業録画(組踊実技Ⅲ)、「ウチナー紀聞」取材3日目
6月28日 「ウチナー紀聞」取材4日目(琉球語Ⅰ)、授業録画(組踊実技Ⅰ)
7月 2日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
7月 4日 授業録画(組踊実技Ⅲ)
7月 5日 授業録画(組踊実技Ⅰ)
7月 9日 授業録画(舞踊実技Ⅰ)
7月11日 授業録画(組踊実技Ⅲ)
7月12日 「琉球語Ⅰ」特別授業(講師:金城清一氏)
7月13日 第3回しまくとうば講演会(講師:照喜名朝一氏、聞き手:金城裕幸氏)
7月15日 琉球放送「ウチナー紀聞」放映
7月18日 授業録画(組踊実技Ⅲ)
7月23日 授業録画(舞踊実技Ⅰ・地謡実技Ⅲ)
7月24日 第7回しまくとうば実践教育研究会
7月25日 照喜名氏と金城氏へ講演会のお礼状を送付
7月27日 「ウチナー紀聞」(7/15放映分) DVDを特別講師へ送付
8月15日 第8回しまくとうば実践教育研究会
8月17日 第6回事典作成部会
8月31日 第9回しまくとうば実践教育研究会
9月 7日 第7回事典作成部会
9月11日 第10回しまくとうば実践教育研究会
9月12日 しまくとうば文例集(挨拶マニュアル)の音声録音協力者へ謝金支払
9月13日 琉球芸能専攻教室等のしまくとうば名称を貼り替え
9月14日 舞踊しまくとうば解説書のイラスト作画を学生アルバイトへ依頼

- 9月19日 解説書のイラスト用写真を撮影
- 9月25日 第11回 しまくとぅば実践教育研究会
- 10月 1日 授業録画(地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 10月 2日 第8回 事典作成部会、眞境名正憲氏へ講師依頼文書を送付
- 10月 8日 授業録画(地謡実技Ⅳ)
- 10月 9日 第12回 しまくとぅば実践教育研究会
- 10月15日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 10月21日 第9回 事典作成部会
- 10月22日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 10月23日 第13回 しまくとぅば実践教育研究会
- 10月29日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 11月 5日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 11月 9日 第4回 しまくとぅば講演会(講師:眞境名正憲氏)
- 11月12日 授業録画(地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 11月13日 第14回 しまくとぅば実践教育研究会
- 11月14日 眞境名氏へ講演会のお礼状を送付
- 11月19日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 11月26日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 11月27日 第15回 しまくとぅば実践教育研究会
- 12月 3日 授業録画(地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 12月 4日 第10回 事典作成部会
- 12月10日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)、
【ハワイ調査】調査団5名(鈴木、波照間、高良、西岡、仲原)がハワイへ出発。
- 12月11日 【ハワイ調査】ハワイ大学ヒロ校にて、ハワイ語学部の教員とミーティングを行う。
同日午後、ハワイ島ヒロからオアフ島ホノルルへ移動。
仲宗根良江先生(仁風会USA金武良章琉球芸能研究所ハワイ支部代表)とミーティングを行う。
- 12月12日 【ハワイ調査】ハワイ大学マノア校の聖田京子名誉教授、カーリー講師とミーティングを行う。
- 12月17日 授業録画(組踊実技Ⅳ・地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 12月25日 第16回 しまくとぅば実践教育研究会

【平成31年】

- 1月 7日 授業録画(地謡実技Ⅳ・舞踊実技Ⅳ)
- 1月 9日 授業録画(琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組))
- 1月10日 第17回 しまくとぅば実践教育研究会
- 1月16日 授業録画(琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組))
- 1月21日 授業録画(舞踊実技Ⅳ)
- 1月22日 『授業で使える「しまくとぅば」文例集』の音声確認用CD受領
- 1月23日 授業録画(琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組))
- 1月28日 授業録画(舞踊実技Ⅳ)
- 1月29日 第18回 しまくとぅば実践教育研究会
- 2月 7日 第19回 しまくとぅば実践教育研究会
- 2月12日 第11回 事典作成部会
- 2月16日 平成30年度 事業報告会

2月25日 『授業で使える「しまくとうば」文例集』納品
 2月27日 報告書原稿を入稿
 2月28日 第20回 しまくとうば実践教育研究会
 3月 5日 第12回 事典作成部会
 3月 6日 第21回 しまくとうば実践教育研究会
 3月19日 第22回 しまくとうば実践教育研究会
 3月29日 平成30年度報告書 納品

3 実践教育プログラムについて

3-1 地謡実技

実践授業1：地謡実技Ⅲ・Ⅳ（担当者：仲嶺 伸吾）

授業期間 前期：平成30年4月23日～平成30年7月23日
 後期：平成30年10月1日～平成31年1月7日

授業回数 前期13回、後期13回

対象学年及び受講人数 前期・後期 2年生4名

特別講師について

大湾 清之（おおわん きよゆき）72歳／琉球古典音楽安富祖流演奏家、笛奏者

昭和41年 安富祖流師範宮里春行氏に師事すると同時に、笛を安富祖流師範大浜長栄氏に師事。

昭和61年 国指定重要無形文化財「組踊」保持者認定（総合指定）

平成 7年 沖縄県指定無形文化財沖縄伝統音楽安富祖流保持者認定

平成18年 沖縄県立芸術大学音楽学部 琉球古典音楽コース助教授（採用）

平成21年 国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者認定（総合指定）

平成24年 沖縄県立芸術大学音楽学部 琉球古典音楽コース教授（退職）

*古典音楽演奏家、横笛演奏家、安富祖流の演奏様式の研究
 安富祖流昔節の神髄をタイトルに4回の研究発表会を主催

しまくとうばのキーワード

ユシリヤビラ	意味：ごめんください。
ウニゲーサビラ	意味：よろしく願います。
ナーチルジル ナータマシダマ	意味：三線の絃3つのそれぞれの役目、持ち分。
アケジュバ	意味：トンボの羽。
カチナガシ クンクンシ	意味：書き流し工工四。現存する一番古い楽譜。
ワタイジン	意味：絃と絃の間を抑揚をつけて移る歌い方。
キーチキティケーリヨー	意味：気を付けて帰ってね。
ウーヅル（男絃）	意味：三線の第一絃。低い音
ナカジル（中絃）	意味：三線の第二絃。中音
ミーヅル（女絃）	意味：三線の第三絃。高音
キーチキティケーリヨー	意味：気を付けて帰ってね。
ゴケイジョウ（五開鐘）	意味：王府が決めた、三線の名器五つの総称。
ワクガワケイジョウ（湧川開鐘）	意味：五開鐘の1つ。
ニンシダケイジョウ（西平開鐘）	意味：五開鐘の1つ。
アマダンジャケイジョウ アマダンジャ開鐘	意味：五開鐘の1つ。

マサル	意味：勝る、増える。
童 ワラビ	意味：子供、娘とも解釈もできる。
イチダミシ	意味：ひとつの定め事。
クンパイ	意味：我慢する。そのままの音を伸ばす。
イシレー	意味：ゆっくり。
ケーイグシ	意味：飛び越える。
コウキカラ マタウニゲーサビラ	意味：後期からまたお願いいたします。
サンシンヌ チンダミ ウニゲーサビラ	意味：三線の調弦をお願いいたします。
イナグフリムン	意味：気が狂った女。
フィットヌスビトゥ	意味：人さらい。

学生の反応・コメント

「まさる」の意味が、「勝る」と「増える」の二通りあることがわかり、疑問に思っていた歌詞の意味が理解できた（前期第7回の授業にて）／喜歌劇「仲直り三良小」のしまくとぅばの意味がわかり楽しかった。（前期第8回の授業にて）／「ナーチルジルナータマシダマシ」という言葉について、三線の絃には、それぞれの役目があることが理解することができた。（後期第8回の授業にて）／抜拍子、波突き吟、抜き吟、多くの吟法が学ぶことができて、演奏に応用して行きたい。（後期第13回授業にて）

今年度の授業について

地謡実技は、琉球古典舞踊（老人踊・女踊・若衆踊・二才踊・打組踊）及び雑踊の様々な演目曲を習得する授業である。今年度は、2年生を対象に、地謡実技Ⅲ（前期）と地謡実技Ⅳ（後期）の授業を進めた。昨年度は、しまくとぅばを取り入れた授業にしていく方法として、芝居役者の仲嶺眞永氏に特別講師を依頼し、学生が研究室に入るときの挨拶、授業開始、終わりの挨拶など、授業で使用する基本的な言葉を首里方言で実践した。

今年度は、特別講師として、大湾清之氏に琉球古典音楽安富祖流の演奏様式と理論についての解説をお願いした。歌三線に関するしまくとぅばとして、チンダミ、ナーチルジルナータマシダマシ、ワタイジン、ウスバチケーラチなどの言葉の意味や技法、また、組踊「執心鐘入」をしまくとぅばで解説して頂いた。歌三線についての専門用語をわかりやすくコラム形式で進めたため有意義な授業になったと感じる。

また、学生達について、昨年度の後期からしまくとぅばの特別講師が加わることで、興味深く授業を受けるようになった。始めの頃の授業では、特別講師がいることで少し緊張しているようだったが、徐々にしまくとぅばに慣れ、今では廊下で会った時にしまくとぅばで挨拶するほどになった。今年度、大湾清之氏に歌三線の演奏についてのしまくとぅばを解説して頂き、特に安富祖流の演奏様式や理論を学べたことは、学生達にとって貴重な体験だったと思う。

今年度の反省点としては、学生の理解を深めるため、歌詞のしまくとぅばの解説に時間をかけてしまい、実際に歌を教える時間が短くなってしまったことが数回あった。また、学生にしまくとぅばを早く習得させるため、夏目漱石の「吾輩は猫である」のしまくとぅば版の読み合わせをしたが、地謡実技の授業に合わないの見直して、歌三線の技法や歌詞のしまくとぅばを説明する形式に戻した。

次年度への展望

これまでの授業で習ったしまくとぅばを、普段から積極的に使うよう指導したい。また、安富祖流の授業を実験的にしまくとぅばで行ってきたが、野村流の学生達もしまくとぅばでの授業に興味を示しているので、野村流の教員も実践していけるよう促していきたい。



地謡実技Ⅲの様子1



地謡実技Ⅳの様子2

3-2 舞踊実技

実践授業2：琉球舞踊実技Ⅰ、Ⅳ（担当者：比嘉 いずみ）

実施期間 前期：平成30年4月2日～平成30年7月23日

後期：平成30年10月1日～平成31年1月28日

授業回数 前期15回、後期15回

対象学年及び受講人数 前期 1年生1名、院修士1年生1名（聴講）

後期 2年生3名、院修士1年生1名（聴講）、院博士1名（聴講）

特別講師について

宮城 幸子（みやぎ ゆきこ）85歳／真踊流佳幸の会 会主

昭和26年に琉球舞踊真踊流家元の眞境名佳子師に入門

昭和26年に沖縄タイムス芸術選奨大賞を受賞

平成8年には沖縄県指定無形文化財沖縄伝統舞踊技能保持者に認定

平成15年に沖縄県文化功労賞受賞

平成21年には国指定重要無形文化財保持者に認定

眞境名佳子師匠からしまくとぅばでの舞踊指導を受けており、当時の指導法を体得し、伝授できる重鎮な舞踊家の一人である。

特別講師の主な出演歴

昭和42年 1月	国立劇場第1回琉球芸能公演（伊野波節・むんじゅる）〔国立劇場（東京）〕
昭和60年12月	真踊流第1回宮城幸子独演会「ひとり舞」（かせかけ、伊野波節、作田、諸屯） 〔タイムスホール〕 第2回平成3年
平成13年10月	真踊流佳幸の会宮城幸子独演会（稲まづん・伊野波節・諸屯・本花風・花風） 〔タイムスホール〕〔三越劇場（東京）〕
平成14年 3月	第4回沖縄研究国際シンポジウムドイツ大会「琉球芸能公演」（諸屯） 〔日本文化会館（ケルン）・連邦美術展示館（ボン）〕
平成16年 1月	国立劇場おきなわ開場記念式典（かぎやで風〔老女〕）（諸屯）（稲まづん）
平成21年10月	第64回文化庁芸術祭主催 重要無形文化財「琉球舞踊」指定記念 琉球舞踊特選会 （諸屯）〔国立劇場（東京）〕
平成22年 3月	沖縄タイムス社主催「宮城幸子顕彰公演 一期一会」 （伊野波節 諸屯 本花風 みやらびナークニー）〔国立劇場おきなわ〕
平成23年10月	琉球伝統芸能 欧州三カ国公演（稲真積）〔パリ日本文化会館〕10/28,29 〔ケルン日本文化会館〕10/31（諸屯）
平成28年 3月	国立劇場開場50周年記念 組踊「執心鐘入」と琉球舞踊 （作田）〔国立劇場（東京）〕
平成30年 1月	国立劇場おきなわ開場十五周年記念特別公演 企画公演 琉球舞踊と組踊「辺戸の 大主」（老人老女）〔国立劇場おきなわ〕

しまくとぅばキーワード

宮城先生は、琉球舞踊の中で姿勢・歩みの基本が最も大切であると繰り返し話され、それを体得するために、的確なしまくとぅばの表現で丁寧に指導して頂いた。また、踊りを踊るときの意識として、手足は胴体を使って動かし、その時息使いが大切であると、表現法のポイントを教えて頂いた。

シチャワタンカイ	アギイリユン	意味：下腹に「あげ」をいれる＝腰を入れる	
ネーチリー	イリーヨー	意味：腰を入れる	
マチジカラ	チビヌミーマディ	ティーチ	
		意味：頭の前から尻のつけ根までひとつ（体幹）	
シナヌナーカンカイ	アシイッティ	シナトウバサングートウ	メインカイ
			意味：砂の中に足を入れ、それを飛ばさないように足を前へ出す
アッチュシン	モーイヤンドー	意味：歩いているだけで踊りになっている事が大切	
ンジティ	タチュルウツピサーニ	モーイヤンドー	
			意味：出羽から立羽までも踊りの表現でなくてはいけない
アッチヨヌナイネー	ウドウインチュラサン		
			意味：歩き方ができれば、踊りも美しい
サンシン	ヌ	チルフミヨー	意味：三線のチル（絃 or 音）をふみなさい
ドゥーテーシ	ウグチュル	意味：胴体で動く	
クシ	イシリヨー	意味：腰を据えて	
シングアーヤ	カネー	意味：芯は要	
ジクタティティ	ミグラセー	意味：軸を立てて	回す
ドゥーテーシ	メインカイ	ウッチャカレー	
			意味：胴体で前に寄りかかる
ヒサヌハバヤ	ドゥーヌカタヌハバ		
			意味：足幅は自分の肩幅（二才踊りの基本立ち）
サンシンヌ	チルヌユインサーニ	アッチュン	
			意味：三線の弦の余韻で歩む
ヤファッテングアー	ヒサ	ハニリヨー	
			意味：柔らかく足先を跳ねる
ヒサバカー	ヤラサングートウ	ドゥーテーシ	アッチュン
			意味：足だけ前に歩くのではなく胴と一体で歩く
メーホーヤー	ナラングトウ	ウヌマーマー	ウッチャカレー
			意味：前に倒れすぎず、そのまま前によりかかる
スリケーラングトウ	メインカイ	ウッチャカレー	
			意味：反り返らないように、前に寄りかかる
ヌバングートウ	メインカイ	ウッチャカレー	
			意味：腰を伸ばしすぎず、前に寄りかかる
クシイシティアトウヤ	ヌチュル	意味：腰を落とし回転した後は、息を抜くだけ	
ヤーヌ	ハシラヌグトウ	シンイリヨー	
			意味：家の柱のように芯を立てる
アユミナイネー	フカヌモーイン	ナイン	
			意味：歩みができれば他の踊りもできる
クシイシティ	ヒッタティレー	意味：腰を据えて引き上げる	

シチャワタンカイ アギイッティ メーンカイ ウッチャカレー

意味：下腹にあぎを入れて、前に寄りかかる

ハナリラングートゥー ユルミイッティ

意味：(軸から)離れないようにして緩める

イリーシトゥ マジュン イチヌチュン ティーチナユン

意味：下腹にあげを入れるのと同時に、上半身の息を抜くことで一体となる(上半身と下半身を一つに繋ぐ)

リクチャーアラン ドゥーシドゥ ウビール

意味：理屈ではなく体で体得する

学生の反応・印象に残った言葉(前期・後期)

《前期》

- ①「砂ぬ中んかい足入って、くり飛ばさんぐーとう、出じゃせー」「胴体一さーに、覚びーりよー」など、一つ一つに深い意味がこめられていて、毎週の授業でしまくとうばを聞くうちに、自然と体に入ってきているのを実感しました。

“継続は力なり”という言葉同様に、しまくとうばを実践で使うことを心掛けていき、習得したいと思います。

- ②1つ1つの動きに対してのイメージがし易くなり、体が自由に動いてくれるようになった。琉球舞踊の実技授業を通して、うちな一口を学ぶことができ、とても体得がしやすかった。言葉のイメージと動作がしっくりすることを感じ、伝統芸能をうちな一口で学ぶことの大切さを実感した。

《後期》

- ①先生方に(しまくとうばで)ご指導して頂ける環境は、本当にありがたいことだと思いました。ずっとこのような授業を受けていきたいです。
- ②この授業を受けたことで、しまくとうばに対する意識が高くなったように思います。これからも続けてほしいです。
- ③くしいしれー
- ④めーんか、うっちゃかれー、技術だけでなく沖縄の精神を受け継ぐ

今年度の授業について

「琉球語I」の講義科目と連携して授業が行えたことはとてもよかった。特別講師の先生方から直接教わっていない学生達も、琉球語の大切と伝統文化を継承する意義を感じたようであった。宮城幸子先生が授業で話された「大事なものは技だけではなく、沖縄人の魂、精神、心を受け継ぎ、伝えることが大切である」という貴重な言葉が、学生達にとって印象深い言葉になったようであった。

「琉球舞踊I」の授業では、基本を体得することを目標としている為、歩み・姿勢・回転の3つの基本を、イメージしやすいしまくとうばを使いつつ、集中して基本習得の修練を行い、その成果が回を重ねるごとに感じられた。また宮城先生は、繰り返し使われる重要な言葉の他に、新しい表現の言葉も増え、改めて芸能におけるしまくとうばが多くあることに気づいた。

基本練習の際、学生が個々人で自分の動きやイメージを確認しながら、反復練習を行うようになった。宮城先生がよく話される「ドゥーテーシ ウビーリヨー」という言葉を意識しているようにも感じられた。「アッチュシン モーイヤンドー」という言葉通り、学生達の歩んでいる姿が次第に美しくなり、一人一人の表情も、とてもよくなってきた。

今年度は、前期「舞踊実技I」・後期「舞踊実技IV」の授業で「しまくとうば実践教育プログラム事業」を行ってきたが、学生達の習熟度がかなり上がり、基本の大切さや、自分自身の身体の特徴や癖を再確認できたように感じられた。

生活様式の変化により、現在の学生たちは体の使い方も変わってきている中で、特別講師の

宮城幸子先生の的確なしまくとぅばを用いた指導のおかげで、改めて文化芸能を継承する中で、言葉の果たす役割が大きいことを実感できた。

次年度への展望

芸能におけるしまくとぅばを一つでも多く拾い上げ、ウチナーの芸能文化(技・精神・魂)を次世代に繋ぐことを目的に、世界各地で活用できる「琉球舞踊の基本」テキスト(写真・イラスト・しまくとぅばによる動作の解説・動画つき)と、芸能用語事典の完成を目指したい。



舞踊実技Ⅰの様子1



舞踊実技Ⅳの様子2

3-3 組踊実技

実践授業3：組踊実技Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、琉球舞踊組踊Ⅳ(組)(担当者：阿嘉 修)

授業期間 前期：平成30年4月19日～平成30年7月18日、
後期：平成30年10月15日～平成31年1月23日

授業回数 前期14回、後期10回

対象学年及び受講人数 前期 1年生1名、2年生4名、院2年生1名
後期 2年生3名、4年生2名、院2年生1名

特別講師について

金城 清一(きんじょう せいいち) 78歳／玉城流翠扇会家元
初代玉城盛義に師事
重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)
沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者
沖縄県文化功労章受章
玉城流金城清一「組踊会」主宰

しまくとぅばキーワード

チランカイ インジャチ

意味：表情に出す

ミミガクムン

意味：耳学問

カンシル スタン

意味：こういう風にやった

ワジャヤ マギサタン

意味：技は大きかった

チラヤ ウフェー ウッチンターシェー

意味：顔は少し伏せなさい

ウレーシーグリサン

意味：これはやりにくい

オオジャ アギレー

意味：扇子は上げなさい

ユメナカー ティーウィー

意味：世の中は自分より上はいっぱい居る

ティーアギーン

意味：手を上げる

トウンケーティ

意味：振り向く

サンシン ヒチミ シェータクトウ	意味：三線を弾いていたので
チム フガンデー フカ ンンチョータン	意味：気に食わなかったら、外をみていた
トー、チケー	意味：はい、突きなさい
カガン ヌ メンカイ	意味：鏡の前で
イバサタン	意味：狭かった
アンシルスンドー	意味：ああする
カンシルスンドー	意味：こうする
マジュン、モーイルバーネー	意味：一緒に踊るときに
ムヌカムシン	意味：食事する
ミーワジャ	意味：眼技
ミーアーチ	意味：目を合わせて
チムアーチ	意味：気持ちを合わせる
ウヌマーマー	意味：そのまま
ミグティ	意味：まわる
イシティ	意味：おさえて
クダミティ、アッケー	意味：踏んで歩きなさい
ミグレー	意味：回ринаさい
ウヌマーマー	意味：そのまま

学生の反応・コメント

【前期】（※第5回目、第7回目、第9回目、第11回目は2年生、それ以外は1年生が対象）

難しい顔をしているが、学ぶ姿勢は見える。（第2回目）／しまくとうばを使うと少し戸惑っているように感じる。（第3回目）／しまくとうばでの小道具の名称は慣れていないので、興味を持っているように感じた。（第4回目）／なかなか聞けない先生方（玉城盛儀、眞境名由康、宮城能造、親泊興照）の話に興味を持っていた。所々のしまくとうばに戸惑っていたが、ニュアンスで分かっているように感じた。（第5回目）／組踊の発音はまだまだ慣れてなく、難しそうに感じた。（第6回目）／清一先生から直接しまくとうばでの組踊指導していただいて、緊張はしていたが学生は喜んでいて。（第7回目）／普段耳にする、聞きなれたしまくとうばは話せていた。（第8回目）／清一先生の使うしまくとうばが理解できているように感じた。（第9回目）／しまくとうばでの会話を前回より増やしたが、難しそうにしていた。（第10回目）／回を重ねるごとにしまくとうばのヒアリングが出来ているように思う。（第11回目）／しまくとうばでの会話はまだ難しそうだった。（第12回目）

【後期】（※第1～9回目は2年生、第8～10回目は4年生が対象）

初めて聞くしまくとうばの単語に関心を示していた。（第1回目）／先達の先生方から教わった、気持ちや動作を表すしまくとうばに感動をしていた。（第2回目）／聞き取りが出来ていて、言われた通りに所作していたので、しまくとうばを理解しているようだった。（第3回目）／動きを表すしまくとうばに関心を表していた。（第4回目）／しまくとうばに慣れてきたようだった。（第5回目）／なかなか聞けない先達の先生方の話を興味深そうに聞いていた。（第6回目）／初めて耳にする言葉を繰り返して言うようになった。（第7回目）／学生達に先生の話すしまくとうばを理解しているか尋ねると、聞きなれているので大丈夫そうであった。（第8回目）／初めて聞くしまくとうばに感動していた。（第9回目）／初代玉城盛儀先生の指導や、その時代の創作舞踊・新作組踊・稽古の話を楽しそうに聞き入っていた。（第10回目）

今年度の授業について

昨年度は小波則夫先生に組踊で使用される衣装や小道具などのしまくとうばをご指導頂き、今

年度は金城清一先生に組踊の所作などのしまくとぅばをご指導頂いた。組踊の所作の中でも特に、初代玉城盛儀先生の指導方法を「しまくとぅば」で指導して頂いた。「トゥンケーレー」「ナーヒンイシティ」「アマワリ ンンチ アーシェー」「タチ ヤ カンシル ムッチュンドー」などの言葉や、初代玉城盛義先生がこだわっていた「シ」の発音が三種類あり役によって使い分けられていた事を教わった。また、盛義先生について、「サンシン ヒチガチー モーイ ナラーチョーミシェータン」、「チム フガンネー フカーンンチ ムノー イランタンヨ」「アンシ マタ ムノー イラントウ モーイ ナライルバーネー シンシータタチ モーラチ 確認ソータン」など、しまくとぅばでお話が聞けた。今回受講した学生は、前年度に小波先生からしまくとぅばの指導を受けていたので、ある程度のヒアリングは出来ていた。

今回は、清一先生に組踊の所作をしまくとぅばで指導して頂き、初めて聞く言葉に多少の戸惑いがあったようだが、徐々に慣れてきていた。また、聞きなれないしまくとぅばを学生自らがリポートするなど、所作を表すしまくとぅばを自主的に覚える姿勢がみられた。今年度は、普段、我々の組踊の稽古で使われているしまくとぅばで指導をして頂いて、学生にはいい経験となった。学生からは、将来しまくとぅばで指導することが夢だと感想があったので良かった。反省点としては、私のリードが足りなく、指導でよく使われているしまくとぅばが引き出せなかった部分があった。次年度は清一先生への質問を増やし、しまくとぅばの指導をより深くして頂けるようにする。

次年度への展望

今年度から、金城清一先生による組踊の専門的なしまくとぅばの指導をして頂いた。次年度は大学院生の授業にも取り入れ、更にレベルアップした組踊の専門的なしまくとぅばでの指導を行いたい。



組踊実技Ⅲの様子1



琉球舞踊組踊実技(組)Ⅳの様子2

3-4-1 学生アンケート結果（H30・前期）

H30年度前期 県芸しまくとぅば実践教育事業 授業評価アンケート

実施日時：平成30年7月

対象：琉球芸能専攻学生

I. 対象授業名と受講者数、アンケート回収枚数

受講者合計12名、うちアンケート回収枚数9枚

内訳：「地謡実技Ⅲ」4名、4枚／「琉球舞踊実技Ⅰ」2名、1枚／「組踊実技Ⅲ」6名、5枚

※前年度から継続して受講している人数…地謡実技4名、組踊実技5名

Ⅱ. 質問と結果

1. この授業を受けるまで、

- ①しまくとうばに接する機会はどのくらいありましたか。
 ②しまくとうばをどれくらい理解できましたか。
 ③しまくとうばを意識していましたか。

質問1－①

選択肢	人数
ほぼ毎日	1
週に数回	6
月に数回	1
年に数回	1
ほとんどない	0
計	9

質問1－②

選択肢	人数
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	4
半分程度理解できた	3
3割程度理解できた	2
ほとんどわからなかった	0
計	9

質問1－③

選択肢	人数
はい	9
いいえ	0
どちらでもない	0
計	9

2. この授業を受けている間、

- ①授業内で使用されたしまくとうばをどれくらい理解できましたか。
 ②しまくとうばを以前より意識していましたか。
 ③授業外でしまくとうばを使用する機会はどのくらいありましたか。
 ④しまくとうばによる実技指導は標準語での指導と比べて体得しやすいと感じましたか。

質問2－①

選択肢	人数
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	6
半分程度理解できた	2
3割程度理解できた	1
ほとんどわからなかった	0
計	9

質問2－②

選択肢	人数
はい	8
いいえ	1
どちらでもない	0
計	9

質問2－③

選択肢	人数
増えた	7
減った	0
変化なし	2
計	9

質問2－④

選択肢	人数
はい	7
いいえ	0
どちらでもない	2
計	9

3. 今後について、

- ①しまくとうばに接する機会を増やしたいと思いますか。
 ②しまくとうばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。
 ③しまくとうばでの実技の授業をまた受けたいと思いますか。

質問3－①

選択肢	人数
はい	9
いいえ	0
計	9

質問3－②

選択肢	人数
はい	9
いいえ	0
計	9

質問3－③

選択肢	人数
はい	9
いいえ	0
計	9

4. 「琉球語基礎」、「琉球語Ⅰ」、「琉球語Ⅱ」を受講されましたか。(複数回答可)

選択肢	人数
琉球語基礎	5 (2)
琉球語Ⅰ	6 (2)
琉球語Ⅱ	0

※括弧内の数字は重複して受講した人数

5. 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご記入ください。

- ・もっとしまくとぅばにふれあう機会がほしいです
- ・先生がコロッとおっしゃる言葉が琉球語で言うところのこのように言うのだなと改めて学ぶことができました。前よりも意識することができました。
- ・「砂ぬ中んかい足いってい くりとぅばさんぐーとぅ んじゃせー」、「どうーてーさーに うぶりよー」など一つ一つに深い意味がこめられていて、毎週の授業でこの「しまくとぅば」を聞くうちに自然と体に入ってきているのを実感しました。継続は力なりという言葉同様にしまくとぅばを実践し使っていき、習得したいです。
- ・にふえーでーびたん、うにげーさびら、ゆしりやびたん
- ・「ゆしりやびたん」覚えました

3-4-2 学生アンケート結果 (H30・後期)

H30 年度後期 県芸しまくとぅば実践教育事業 授業評価アンケート

実施日時：平成 31 年 1 月

対象：琉球芸能専攻学生

I. 対象授業名と受講者数、アンケート回収枚数

受講者合計 12 名、うちアンケート回収枚数 13 枚 (※)

内訳：「地謡実技Ⅳ」4 名、4 枚／「琉球舞踊実技Ⅳ」5 名、5 枚／「組踊実技Ⅳ」3 名、「琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組)」3 名、4 枚

※組踊実技Ⅳと琉球舞踊実技Ⅳの両方を受講した 3 名含む

II. 質問と結果

1. この授業を受けるまで、

- ①しまくとぅばに接する機会はどのくらいありましたか。
- ②しまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
- ③しまくとぅばを意識していましたか。

質問 1-①

選択肢	人数
ほぼ毎日	1
週に数回	7
月に数回	5
年に数回	0
ほとんどない	0
計	13

質問 1-②

選択肢	人数
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	6
半分程度理解できた	5
3割程度理解できた	2
ほとんどわからなかった	0
計	13

質問 1-③

選択肢	人数
はい	11
いいえ	1
どちらでもない	1
計	13

2. この授業を受けている間、

- ①授業内で使用されたしまくとうばをどれくらい理解できましたか。
 ②しまくとうばを以前より意識していましたか。
 ③授業外でしまくとうばを使用する機会はどのくらいありましたか。
 ④しまくとうばによる実技指導は標準語での指導と比べて体得しやすいと感じましたか。

質問2－①

選択肢	人数
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	7
半分程度理解できた	5
3割程度理解できた	1
ほとんどわからなかった	0
計	13

質問2－②

選択肢	人数
はい	12
いいえ	1
どちらでもない	0
計	13

質問2－③

選択肢	人数
増えた	11
減った	0
変化なし	2
計	13

質問2－④

選択肢	人数
はい	12
いいえ	0
どちらでもない	1
計	13

3. 今後について、

- ①しまくとうばに接する機会を増やしたいと思いますか。
 ②しまくとうばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。
 ③しまくとうばでの実技の授業をまた受けたいと思いますか。

質問3－①

選択肢	人数
はい	13
いいえ	0
計	13

質問3－②

選択肢	人数
はい	13
いいえ	0
計	13

質問3－③

選択肢	人数
はい	13
いいえ	0
計	13

4. 「琉球語基礎」、「琉球語Ⅰ」、「琉球語Ⅱ」を受講されましたか。(複数回答可)

選択肢	人数
琉球語基礎	5 (3)
琉球語Ⅰ	3 (1)
琉球語Ⅱ	4 (2)
無回答	6

※括弧内の数字は重複して受講した人数

5. 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご記入ください。

- ・日本語では伝わらないような言葉の表現が組踊の所作とマッチして、しまくとぅばのニュアンスは大事だと感じました。
- ・「めーんかいいうっちゃかれー」、「技術だけでなく、沖縄の精神を受け継ぐ」
- ・「くしいしれー」
- ・先生方がご指導して下さっている環境は本当にありがたいことだと思いました。ずっとこのような授業を受けていきたいです。
- ・この授業を受けることで、しまくとぅばに対する意識が高くなったように思います。これからも続けてほしいです。

3-5「琉球語」関連科目について（仲原 穰）

担当教員：「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」「琉球語基礎」仲原 穰（沖縄県立芸術大学非常勤講師）

実施期間：平成30年4月5日～平成30年7月19日（琉球語Ⅰ）、平成30年10月11日～平成31年2月12日（琉球語Ⅱ）、平成30年4月9日～7月23日（琉球語基礎）

授業回数：「琉球語Ⅰ」（15回）、「琉球語Ⅱ」（15回）、「琉球語基礎」（15回）

受講年次：「琉球語Ⅰ」 琉球芸能専攻 学部2年生6人、3年生1人、4年生4人

（聴講：院〔修士〕1年生1人、〔博士〕1年生1人）

「琉球語Ⅱ」 琉球芸能専攻 学部2年生5人、3年生1人、4年生4人

（聴講：院〔修士〕1年生1人）

「琉球語基礎」琉球芸能専攻 学部2年生3人

（他学部：1～3年生 美術・工芸学部 6人、音楽学部5人）

1. 科目について

上記のうち、「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」は、音楽学部琉球芸能専攻の「選択科目」として開講された科目であり、受講生は「琉球芸能」の専攻の学生のみである。一方、「琉球語基礎」は全学教育センターの科目であり、本学の学生すべてが受講することが可能である。

ただし、「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」は、「琉球語基礎」を1年次、あるいは2年次に受講し、その後で受講することを期待し、2年生～3年生を対象として設置した科目である（今年度はカリキュラム編成の関係上4年生も受講している）。

「琉球語基礎」では、生活する上で必要となる基礎的な単語を中心に構成された科目であるが、単語のみならず、動詞や形容詞の簡単な活用、主な助詞などを学び、単語と単語をつなぎ合わせて、短い文を作るところまでを目標にした科目である。「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」ではゆっくり単語を覚える時間を取ることが難しいため、琉球芸能専攻の学生にも「琉球語基礎」を受講することが望ましい。当研究会の琉球芸能専攻の先生方にも薦めていただき、本年度は3人の学部2年生の受講があった。

なお、沖縄県立芸術大学では、琉球芸能専攻の科目との関わりから琉球古典語とのつながりの深い、首里方言を中心とした講義を行っている。

2. 本事業との関わり

「地謡実技」「舞踊実技」「組踊実技」のしまくとぅば実践教育プログラムと「琉球語」関連科目との関わりについて述べる。実技ではそれぞれの科目の「特別講師」が担当教員とタッグを組み、しまくとぅばを用いた指導を行うが、「琉球語」関連科目は「座学」で語学として「しまくとぅば」を学ぶために設置された科目群である。

上記の実技の科目を受講する学生にとって、特別講師の話すことば（＝しまくとぅば）は、彼らが日常使用したり、耳にしたりすることばと大きくかけ離れており、会話内容を十分似聞き取るこ

とができるレベルにない。ただし、実技とともに声を掛けるため、通常の会話よりは場面指示により理解できる内容もみられる。しかし、実技を止めての補足説明や解説の場面では理解できない文や単語、表現が多くみられる。

そのような状況にある受講生らが実技を通して少しずつ「しまくとうば」を理解していけるための「素地づくり」にあたるのが「琉球語」関連科目である。一部の例外はあるが、実技を受講している学生の多くは「琉球語」関連科目も受講している。双方で共に学び、その相乗効果によって、「しまくとうば」の理解度がどんどん上がっている。

3. 実技科目との関わり

昨年度と大きく変化した授業内容としては実技科目との関わりを実現させたことである。昨年度は、実技で行われている実践授業と「琉球語」関連授業の座学の授業との関わりがなかった点が反省点として出された。

そのため、「琉球語」関連授業のなかでも、特に「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」では、実技でご協力いただいた「特別講師」の先生方を琉球語の授業にゲストスピーカーとして招いて「しまくとうば」による講話を実施した。

実技の講義はコースごとに開設されており、講義を受講できない学生も多くいるため、特別講師から直接「しまくとうば」による授業実践を学べない学生も意外に多い。彼らにとって、琉球芸能の大先輩である特別講師の「講話」を聞くことが大きな財産である。また、「琉球語」関連の講義の受講生のなかには、特別講師と担当教員による講義を受講している学生もいるが、彼らにとっても特別講師の話す「しまくとうば」の「再確認」や「復習」にもなっているという。さらに語学の授業で身に付けた「しまくとうば」の基礎力を実践的に確認できるというメリットもある。

4. 今年度の取り組みと結果

今年度は、「琉球語Ⅰ」で2回（「琉球舞踊」宮城幸子先生、「組踊」金城清一先生、「琉球語Ⅱ」で1回、計3回の講話を実施することができた。どの回ともに受講生以外に希望する学生や教員らが数名参加している。

表1. 「琉球語」関連授業における「しまくとうば」講話の実施状況（平成30年度）

回数	科目名	特別講師	期日	学生参加人数
1	琉球語Ⅰ	宮城幸子（琉球舞踊）	平成30年 5月31日	14人
2	琉球語Ⅰ	金城清一（組踊）	平成30年 7月12日	10人
3	琉球語Ⅱ	宮城幸子（琉球舞踊）	平成30年12月20日	11人

4.1 琉球語Ⅰ（前期）の実施状況について

前期の「琉球語Ⅰ」では、特別講師による約45分の「沖縄語による講話」を実施し、その後で講話の内容について共通語やしまくとうばを交えた解説を行うというスタイルで実施した。

（1）第1回目

第1回目に実施した宮城幸子先生の講話では、実技を受講している学生が実例として「あゆみ」を行い、実際の実技の講義を再現しつつ、しまくとうばによる指導を行った。その後、学生の共通語による質疑があり、宮城幸子先生も「しまくとうば」で応じた（共通語を一部使用）。なお、総合司会は筆者（仲原）が務め、講話進講補佐を当研究会の比嘉いずみ氏が務めた。

◎受講後のコメントシートの紹介（抜粋）

- ・たくさんの方言を知ることができてとても勉強になった。幸子先生の言葉がとてもきれいだと感じた。

- ・みんなで琉球舞踊の姿勢を体験できたのはとても嬉しかった。
- ・稽古のときに使う言葉など普段聞き慣れていない言葉にも沢山触れることができてとても良い経験になった。
- ・ずっとやってこられたすごい方なのに、まだ努力するとおっしゃっていた。本当にずっと稽古が必要で一生懸命に取り組むことが大事なんだと思った。
- ・大事なことは技だけではないという沖縄人の魂である「精神＝心」が大事なんだということが心に突き刺さった。
- ・舞踊も三線も基本や姿勢を大事にすることが大切だと感じる事ができた。
- ・師匠から舞台袖で「三線ぬ ちる ちけー」(一つ一つの音の余韻まで聞け)とのことばで地謡と踊り手のそれぞれが息を合わせた時に観客に感動を与えることができるのだらうと思った。
- ・「しなぬ なーかんかい …」など分かりやすい表現で大和口(共通語)で聞くより入ってきやすい表現が方言にはあると思った。

(2)第2回目

第2回の金城清一先生の講話でも、最初に約45分金城清一先生の「沖縄語による講話」を実施した。講話は進行補佐の阿嘉修氏(当研究会メンバー)が事前に打ち合わせた質問内容を引き出す方式で実施したが、後半になるにつれ、金城先生の講話の沖縄語の比率が上がり、自然会話に近い速度や頻度で講話が行われた。実技に参加している学生も何名かおり、講義内容を理解した上での聞き取りであったためか、内容の把握も進んでいるように感じられた。

◎受講後のコメントシートの紹介(抜粋)

- ・所作一つにも目的があり、その違いが「手の違い」を生むこと、女性か男性かで質問の仕方が大きく変わっていたということ、「出羽」の姿勢で試験を落とされることなど、どれも面白いお話だった。
- ・一番やるべきなのは踊りを覚えた後の表現をつくる時間でそれが踊りの深さになるというのはその通りだと思った。どんなにやってもゴールが見えないから欲が出てもっと稽古したくなるのだと思った。
- ・師匠は数回しか教えないので、先輩方から習ったり、師匠が踊るのを見て覚えるというのが心に残った。また、稽古が終わっても話を聞くのも大事だと思った。
- ・現在は師匠と弟子の会話が少ないが、師匠との会話で昔の話を聞くのも本当に大切な伝承だと思う。今は師匠がじっくり教えてくれる恵まれた時代なのでより頑張る。
- ・今は歩数やカウントに頼りがちで歌をよく理解しないまま踊っていることが多いと感じた。何度も稽古することが一番力になるのだと強く感じた。
- ・先生のお話は和口も混ざっているので聞きやすくウチナーグチの意味も分かりやすかった。

4.2 琉球語Ⅱ(後期)の実施状況について

シラバスでは「琉球語Ⅰ」で3回、「琉球語Ⅱ」で3回の計6回、特別講師による講話を予定していた。しかし、授業の進捗状況や特別講師の方々の予定との調整に手間取り、講話の要請ができなかったため、「琉球語Ⅱ」では1回(通算3回)しか実施することができなかった。これは次年度以降、改善していく点だと認識している。

ここでは宮城幸子先生による講話の様子を紹介する。

(1)第1回目(通算3回目)

後期の講義ということもあり、通算第3回目は約50分の沖縄語による講話を行った。進行補助の比嘉いずみ氏や仲原が宮城先生に沖縄語や共通語で質問をし、それに宮城先生が答える形式であった。ただし、前期の第1回目と大きく異なる点として、講話の後に受講生が自ら考えた質

問を自分なりのことばで沖縄語によって質問し、宮城先生は沖縄語で応じるというものであった。最初の数名こそ何とか引っかかりつつも何とか質問できたのであるが、一部の学生はほとんど質問できないなど、「実力の差」が広がっているのを感じた。

◎受講後のコメントシートの紹介 (抜粋)

- ・しまくとうばでしか表現できない言葉が沢山あると思った。聞き取れるだけでなく、使えるようになりたい。舞台と神様などへの拝みや祈りが関係があるという言葉が心に刺さった。
- ・感謝の心や「うちなーちゅぬ くくる」や人との出会い、御縁をととても大切にしていることにすごさを感じた。「踊りや しんぐわーや かねーどー」やはり大事。
- ・初心を忘れずに「歩み」をしっかり練習していることと人とのつながりの話に感動した。自分の初心を忘れずに「うちなーの魂」を大事にしたいと思う。
- ・「技よりも肝心(ちむぐくる)を忘れずに後世に伝えていって欲しい、身体で体得することが大切」という言葉が心に残っている。
- ・身体で体得したものを練習を継続させることが大事ということは簡単なようで難しいことだと感じた。芸能を通じていろいろな人に出会えた事に感謝している言葉を聞いて、自分もすべてのことに感謝してこれからの芸能人生を歩んでいきたい。

※なお、今回のコメントシートには、講話をどの程度聞き取れたと感じたのか、全体の何パーセント程度なのかを記述する欄を設けた。結果は以下の通りである。

70% (3人)、60% (1人)、50% (3人)、40% (1人)、30% (1人)、未回答 (2人)

4. 3 「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」受講後のコメントと考察

「琉球語Ⅱ」の終了後に実施した全体をふり返るコメントシートに以下のような記述がみられた。

- ・琉球語基礎から琉球語Ⅰ・Ⅱと受講してきたが、大学に入る前と今ではウチナーグチを聞きとれる量が格段にあがったと感じている。授業(座学)に加えて実技でもウチナーグチに触れる機会があるので、理論と実践の両方を体験することができている。これからも勉強を怠らず続けていきたい。
- ・今まで琉球古典音楽の歌詞を文字をなぞるように習っていたが、琉球語を身に付け、意識することで歌の心情や背景が分かるようになった。
- ・講話がたくさん聞くことが出来た。特に〇〇先生の話はとても印象に残っている。また、授業最後のコメントシートを沖縄語で書くのは難しいけど、とても力になった。
- ・祖母が話す方言を全然理解できず聞き取れなかったが、最近は半分程理解できるようになった。
- ・特別講師の先生や他の先生方の講義も少しずつ聞きとれるようになった。
- ・これまでウチナーグチで文章を作るのが全然できなかったが、この1年間で少しは話せるようになってとても嬉しい。
- ・この1年間の授業を通して日常の生活から少しずつ方言を使うようになり、首里のことばと地元のことばが少しだが違うことを知った。丁寧な言葉などは難しいが少しだけ身についた気がする。言葉を気にして生活していくというのがこの授業で学べた。

これらをみると、座学と実技を同時に受けることや母語話者による講話を聞くことによって、学んで身に付けた力を「実感できる場面」がかなり多いことが受講生のモチベーションにつながっていることが読み取れる。その学びの喜びを積み重ねることにより、これまで聞き取れなかった伝統的な「しまくとうば」をかなり聞き取れるようになってきたと実感している学生が多いようである。

5. まとめ

以上、今年度は実技の科目との関連づけを意識しながら「琉球語」関連授業を行ってきた。その結果、4.3でも述べたように、座学のみでは維持しづらかった「琉球語」習得のモチベーションの維持に「実技」の特別講師による講話や年に2回開催される「誇らしや しまくとぅば」(講演会)への参加などによって、ウチナーグチだけで長時間話しを聞きとる訓練を体験することができたことは非常に大きいと考える。日常生活の場で同様のことを行うことがいかに難しいか、少し考えれば想像できるであろう。

そして、そのような「うちなーぐち中心の会話」を聞くことで、「(自分の実力の変化を実感する) = (だんだん聞き取れるようになっていく自分への自信)」という相乗効果が起きたと考えられる。これは次第に「聞き取る力」(リスニング能力)が身についてきたことを裏付けるものである。ここから、シラバスで示した「沖縄語で話す話者の会話を7割以上聞き取ることができる」という目標には届かないまでも、ある程度は達成できたのではないかと考えている。

ただし、個人によって実力の差が激しいのが反省点である。次年度はなるべく全員が実力アップを実感し、リスニング能力が向上するよう、さらに努力していく所存である。

4 授業で使える「しまくとぅば」文例集について (仲原穰)

1. はじめに ――文例集ができるまで――

本報告は、に発行予定の『授業で使える「しまくとぅば」文例集』(沖縄県立芸術大学附属研究所、平成31年2月28日発行)について概略を述べる。

「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業研究会」以下、「当研究会」とする)では、大学の授業(実技の授業)をできるだけ「しまくとぅば」を用いて行うことを目的にプログラムの開発を行っている。

当研究会の実践教育プログラムの実技の講義を行うなかで、メンバーの中から授業の開始や終了の際に使用できる「あいさつ」を作成してほしいとの要望があり、授業開始と終了の「あいさつ」の素案を筆者が提示した。当初はその素案の「あいさつ」を実技や語学の講義で使用していたが、当研究会でその見直しを行う作業のなかで、メンバーの高良則子氏より、英語教育など他の語学では、講義で使用する教師向けの「表現例」があることが報告され、その日本語訳が提示された¹。この表現例を研究会のメンバーで検討し、当研究会の実施している実技の授業だけでなく、さまざまな科目でも使用できるように改良を重ねた。まず、日本語訳を当会で「しまくとぅば」へ翻訳し、沖縄語らしい表現に改めるとともに、内容を検討した結果、48の文例にまとめることができた²。



『授業で使える「しまくとぅば」文例集』(表紙)

2. 本文例集の特徴 (1) ――文例の内容、文体の違い、イラストの工夫――

2.1 文例の内容

文例案を当研究会のメンバーで議論・検討するなかで特に気をつけたことは、実技の授業に限定するのではなく、大学の座学の講義や他の教育現場、小中学校、高校などで使用できる文

1 正式な名称は「授業で使う表現例」である。具体的には「1. 授業開始」に15表現、「2. 学習活動」に33表現、「3. 授業終了」に10表現の合計58表現の提案であった。

2 「しまくとぅば」への翻訳は素案を西岡敏氏が行い、それを筆者が母語話者に確認しながら修正した。それを研究会のメンバーへ提示し、皆で再検討を行い、48の文にまとめたものである。

を選ぶことであった。似た表現の文はまとめたり、削ったりしながら、最終的には以下のように48の文にまとめられた。

48の文例には、①生徒・学生への問いかけ・あいさつ・提案・指示、②学生の理解度の確認・評価・指導、③その他(連絡など)の文が含まれており、どの科目の授業や講義でも使用可能である。

例えば、No.10「とー、んな すりとーみ？」(さて、皆さん揃ってる?)は①の「問いかけ」で児童・生徒・学生ら、授業に参加しているメンバーの「無事」について転呼を取らずに確認する際に用いることができる(次ページのNo.1は「あいさつ」の例)。また、No.20「まじえーわんから ゆでい んーだ いー。」(まずは、私から読んでみようね。)などは「提案」、No.21「わん あとうから ゆでい んーでー。」(私の後について、読んでごらん。)は「指示」である。

授業のなかで教員は生徒・学生がどの程度理解できているのか常に気を配る必要があるが、No.35「いっぺー ゆー でいきとーさ。」(大変よく出来ているよ。)、No.40「たった じょーじ ひとつさ。」(だんだん上手に(うまく)なっているよ。)などの文例が役に立つのではないだろうか。

さらにNo.47「来週や 学園祭 やくとう、やしみどー。」(来週は 学園祭 なので 休講だよ。)などの諸連絡でも「しまくとうば」を利用することができる。

2.2 文体の違いとイラストの工夫

2. 文体について

琉球芸能では「組踊」などの詞章をはじめ、さまざまな場面で常体(＝普通体)と敬体(＝丁寧体)とを区別しています。そのような接遇表現に慣れるため、教員は「常体」、学生は「敬体」で発話するというかたちに沿って記述しています。

上に示したのは本文例集の「はじめに」の一部である。本学の琉球芸能専攻では「組踊」を実際に学んだり、唱えたりするなど、「琉球古典語」に接する機会も多い。「組踊」には身分や男女などが異なる配役が多くあり、役に応じた台詞や所作の稽古をきちんと行う。敬語を使うべき立場の人が「常体」で台詞を述べることはない。「しまくとうば」にも敬語があり、目上から目下へ話すことは「常体」、目下から目上や初対面の相手と話す場合には「敬体」を使用している(以下に「組踊」の例をあげる)。

◎「執心鐘入」の「中城若松」の台詞⁴

【敬体1】若松→宿の女①

例01 「露でやんす花に／宿かゆる浮世／慈悲よ御情に／からちたばうれ。」

(現代語訳：露でさえも花に宿を借りる浮世である。慈悲、お情けに貸して下さい。)

【常体1】若松→宿の女②

例02 「女生れても、／義理知らぬものや／これど世の中の／地獄だいもの」

(現代語訳：女に生まれても義理を知らないものは、これこそ世の中の地獄なんだから)

【敬体2】若松→座主

例03 「行先もないらぬ／頼でわないきちやん。／慈悲よ、わが命／救てたばうれ」

(現代語訳：行く先もない(だから)ここを頼ってきた。慈悲で我が命を救って下さい。)

【敬体1】と【常体1】は同じ登場人物の「中城若松」(主人公の若衆)から「宿の女」(たまたま見つけた家の娘)へなげかけられる台詞である。

3 言語の専門家は、奄美沖縄の「伝統的なことばの総称」を「琉球語」、「琉球諸語」と称する。

4 「執心鐘入」の出典は『伊波普猷全集 第三巻』(平凡社)収載の『校注 琉球戯曲集』である。

まず【敬体1】では、暗い山道で困った若松が、初めて訪問する家の中にいる相手、すなわち初対面であり、相手の年齢が不明な場面で発せられた台詞であるため、「たばうれ」（発音は「たばり」）を使用している。これは【敬体2】も同様で、目上（年長者）で初対面の「座主」に対して「たばうれ」を使用している。一方、【常体1】では、自分より多少年上の「宿の女」（設定では1歳程度）に対して、「だいの」（発音は「でむぬ」）と発している。これは旅疲れて身体を休めたい若松に対し、評判の美少年の若松と話しをしたいと言い、寝かせてくれない。そんな状況で発する台詞なので「敬体」ではなく「常体」で発するのである。このように「組踊」では、役ごとの立場や心情を踏まえ、文体を使い分けている。

なお、現代の「しまくとぅば」でも以下のように常体と敬体があり、文体が異なる（左側の緑色の人物が教員、右側の水色の人物が学生）。このとき、イラストの吹き出しと話し手の色分けを利用し、どちらの発話なのかがすぐに分かるようにした（図1参照）。



図1. 教員と学生のイラスト例

3. 本文例集の特徴（2）——音声CDと表記について——

3.1 CDの音声について

本書の大きな特徴の一つが「音声」を収載している点である。音声CDに文例集が付録しているといってもよいほどである。文字だけでなく、音声を聞きながら文のイントネーションや速度、ポーズなどを実感できる。

文例集のNoとCDのトラックはリンクしており、聞きたい文例の番号を入力して再生すると文例の音声流れることになる。

なお、本文例集は、琉球芸能で主に使用される首里のことばが採用されており、音声も戦前生まれの話者の音声⁶が吹き込まれている。

3.2 本例文集の表記について

このほか、本書で使用されている「表記」は、当研究会のなかで提案され、メンバーで議論した結果、現時点で採用した表記の一部である（図2を参照。なお、後半部分は紙幅の都合で割愛した）。

6 なお、CDの音源話者は「奥付」にあるように国吉朝政氏（1940年生。那覇市首里儀保出身）である。

しまくとぅば実践教育研究会「かな表記」一覧

(単語例は「首里のことば」を採用しています)

- 単語例の当該の音には下線を付しました。
- ㊦は文語を示し、㊧は新語を示しています。
- 見出し語欄の「～」は語中の時の発音表記です。
- 音声表記欄の「～」は発音の幅(音声のゆれ)を示しています。

見出し語	音声表記	(単語例ひらがな・漢字)			
あ	[ʔa]	(<u>あ</u> み:雨)	が	[ga]	(<u>が</u> ちまい:大食い)
い	[ʔi]	(い <u>み</u> :夢)	ぎ	[gi]	(ま <u>ぎ</u> さん:大きい)
う	[ʔu]	(う <u>た</u> :歌)	ぐ	[gu]	(<u>ぐ</u> んぼー:ゴボウ)
え	[ʔe]	(<u>え</u> ーく:榎)	げ	[ge]	(うとう <u>げ</u> ー:顎)
お	[ʔo]	(お <u>ー</u> じ:爺)	ご	[go]	(<u>ご</u> ーやー:苦瓜)
～あ	[a]	(し <u>あ</u> ん:思案)	ぐわ	[gwa]	(<u>ぐ</u> わんす:祖先)
～い	[i]	(とう <u>い</u> :鳥)	ぐい	[gwi]	(ゆま <u>んぐ</u> い:夕暮れ)
～う	[u]	(かう <u>う</u> :顔)	ぐえ	[gwe]	(<u>ぐ</u> えったい:ぬかるみ)
～え	[e]	(お <u>え</u> ー:喧嘩)	さ	[sa]	(さ <u>な</u> じ:禪)
～お	[o]	(にお <u>ー</u> :仁王)	し	[ci]	(し <u>ち</u> や:下)
か	[ka]	(<u>か</u> らじ:髪、 <u>あ</u> か:赤)	す	[su]	(<u>す</u> ーじ:小道)
き	[ki]	(き <u>じ</u> :傷、 <u>き</u> ー:毛)	せ	[se]	(<u>せ</u> ー: ㊧ バツ)
く	[ku]	(<u>く</u> さ:草、て <u>く</u> :太鼓)	そ	[so]	(<u>そ</u> ーきぶに:あばら骨)
け	[ke]	(<u>け</u> ー:さじ、う <u>け</u> ー:お祭)	しゃ	[ga]	(た <u>つ</u> しゃ:達者、健康)
こ	[ko]	(<u>こ</u> ーじ:鮎、う <u>こ</u> ー:線香)	しゅ	[cu]	(し <u>ゅ</u> ーしん: ㊧ 恋慕、執心)
くわ	[kwa]	(<u>く</u> わい:会)	しえ	[ce]	(いーま <u>かしえ</u> ー:論争)
くい	[kwi]	(<u>く</u> いー:声)	しよ	[co]	(ちぶる <u>しよ</u> ーかん:脳脊髄膜炎)
くえ	[kwe]	(<u>く</u> えー:銀)	ざ	[dza]	(ゆむ <u>ざ</u> る:猿の年称)
			じ	[dai]	(<u>じ</u> ん:お金、み <u>じ</u> :水)
			ず	[dzu]	(<u>ず</u> ーこー: ㊧ 園工)
			ぜ	[dze]	(<u>ぜ</u> ーきん: ㊧ 税金)
			ぞ	[dzo]	(<u>ぞ</u> ーきん: ㊧ 韓中)

図2. 本文例集で使した「かな表記」例 (一部)

3.3 注意すべき発音の表記について

ちなみに、首里のことばや沖縄本島中南部地域とその周辺の島々のことばのなかで、最も特徴的な発音は「声門破裂音」(グロッタル・ストップ)である。本例文集では以下のように表記する。この音は喉に力を入れて発音する(図3を参照)。

つや	[ʔja]	(<u>つ</u> やー:お前)	つわ	[ʔwa]	(<u>つ</u> わーちち:天気)
つゆ	[ʔju]	(<u>つ</u> ゆん:言う)	つうい	[ʔwi]	(<u>つ</u> ういーちょー:茴香)
つよ	[ʔjo]	(<u>つ</u> よーいーぐわー:赤ちゃん)	つうえ	[ʔwe]	(<u>つ</u> うえーき:富、 <u>つ</u> うえーく:榎)
っん	[ʔn][ʔm] [ʔn][ʔŋ]	(<u>っ</u> んに:稲、 <u>っ</u> んじゆん:出る)	あ	[ʔa]	(<u>あ</u> み:雨)
			い	[ʔi]	(い <u>み</u> :夢)

図3. 特殊な発音の表記例1

一方、発音時に力を抜き、単語の出だしをやわらかく発音する音もみられる。「やわらかな声立て」(グラジュアル・ビギニング)である。本例文集では、以下のように表記する(図4を参照)。

ゐい	[ji]~[i]	(ゐ <u>い</u> ん:縁、ゐ <u>い</u> ー:絵)	うう	[wu]	(う <u>う</u> とう:夫、う <u>う</u> ーじ:砂糖黍)
ゐえ	[je]~[e]	(ゐ <u>え</u> ー:へえ。ほう)			

図4. 特殊な発音の表記例2

7 沖縄本島中南部地域とその周辺の島々の伝統的なことばのことを「沖縄語」、または「うちなーぐち」と称する。なお、沖縄本島北部地域と周辺の島々のことばは中南部地域と異なる特徴がある。

図3や図4に示した表記は日本語（標準語）にはみられないものであるが、これは沖縄語の発音が日本語よりも音変化が進んだためである。日本語にはない音をどのように表記するかは議論の分かれるところであるが、今回はCD音声のサポートとしての表記であるため、便宜上、図3・4のように「通常の文字と小書きの添え字を組み合わせた特殊表記」を採用している。現在、琉球語の表記は統一の表記がなく、さまざまな案が提示されている状況であるが（仲原2017を参照）、平成30年度から「しまくとぅば普及センター」の主導により、統一した表記案の提示に向けて議論を重ねている最中である。よって、この表記は当研究会が現在採用している沖縄語の表記である。

4. 文例集の本文

ここでは本文例集の本文の一部を抜粋して提示する（図5～8を参照）。

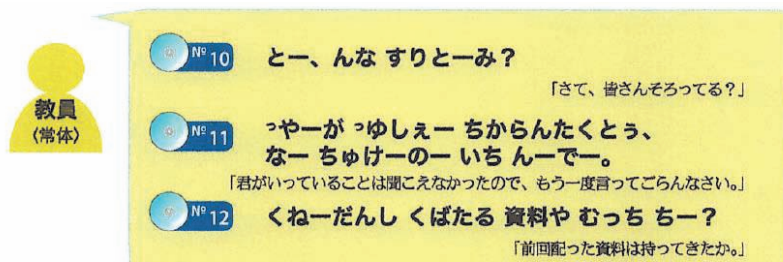


図5. 文例集の実例1

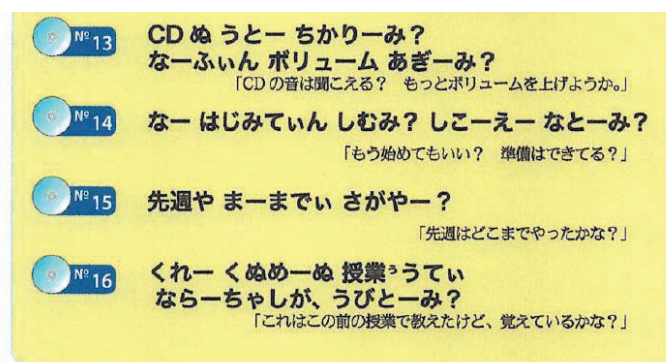


図6. 文例集の実例2

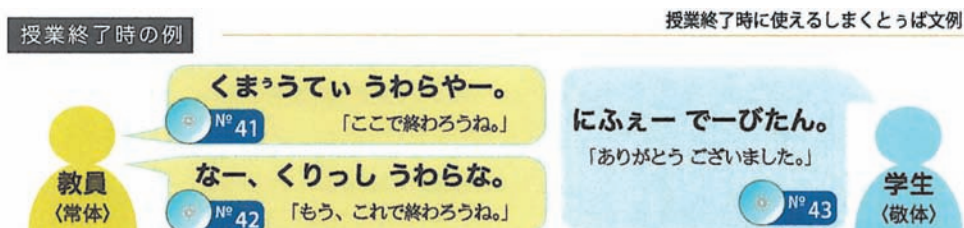


図7. 文例集の実例3

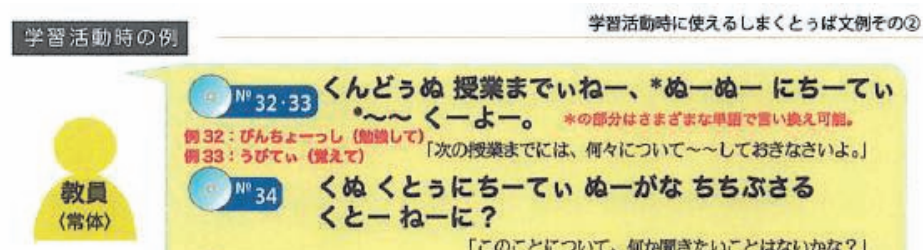


図8. 文例集の実例4

5. むすびにかえて

以上、当研究会が作成した『授業で使える「しまくとうば」文例集』の概略をまとめたが、ここで紹介した文例はほんの一部にすぎない。本文例集を実際に手にとり、CDを聞いて声に出すこと、そして教育現場などで「実践すること」で本当の意味で「本書を活用した・利用した」ことになるのである。ぜひ、本書を手にとって活用してほしい。

参考文献

沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業研究会 (2019)『授業で使える「しまくとうば」文例集』(沖縄県立芸術大学附属研究所、CD付き全6ページ)
仲原 穰 (2017)「琉球語の表記について―「沖縄語」の表記を中心に―」『しまくとうばルネサンス』(沖縄国際大学公開講座委員会) pp.191-223

5 球舞踊におけるしまくとうば副教材について (鈴木・比嘉)

しまくとうば研究会において、『琉球芸能用語事典(仮)』を作成するにあたり、今年度の研究会の中で、「琉球芸能におけるしまくとうばは、通常のしまくとうばとは異なり、専門性を持った用語である」という見解が生まれた。そのような見解を受けて、実践教育で用いられるしまくとうばを、学生にもっと理解してもらうための副教材を作る必要があるのではないかと、という意見が出された。それを受けて、鈴木・比嘉がチームとなり、琉球舞踊におけるしまくとうば実践教育の副教材を開発することとなった。おもに、鈴木と比嘉で打合せを行い、「事典部会」で報告・協議し、研究会において決定する、という流れで進めた。

まず、琉球舞踊におけるしまくとうばは、所作を行う段階で発せられるため、所作を写真に撮り、それをイラスト化し、イラストとしまくとうばの解説を一つにした教材を作ることを第一の目標として取り組んだ。また、キーワードとなるしまくとうばは、授業の中で繰り返し用いられることばに限定して行った。今回、イラストを作成するために用いたことばは以下の11のキーワードである。

- ① まちじから ちびぬ みーまでい ふいとうち
- ② しんぐわーや かねー。／しん たていれー。
- ③ い(一) ち ぬち あぎ いりれー。／あぎ いりーしとう まじゅん い(一) ち ぬちゅん。
ていーち なゅん。
- ④ んじゃしやつさる とうく(る) ぬ あるはじ
- ⑤ めーほーやー ならんぐとう、うぬまーまー うっちゃかれー。
- ⑥ しなぬ なーかんかい あし いってい、しなん とうばさんぐとう めーんかい。
- ⑦ さんしんぬ ちる ふでい ゆいんぐわー ちきよー。
- ⑧ じく たていてい みぐらせー。
- ⑨ くし みぐらさーに じくあしや ぬちゅん。／くし みぐらさーに ひったていやーに がまく
いりれー。うぬまーまー ぬちゅん。
- ⑩ すりーねー あしぬ つんじらん。／すりけーてー ならん。
- ⑪ ちび とうがてー ならん。／ちびとうがやー なてい ならん。

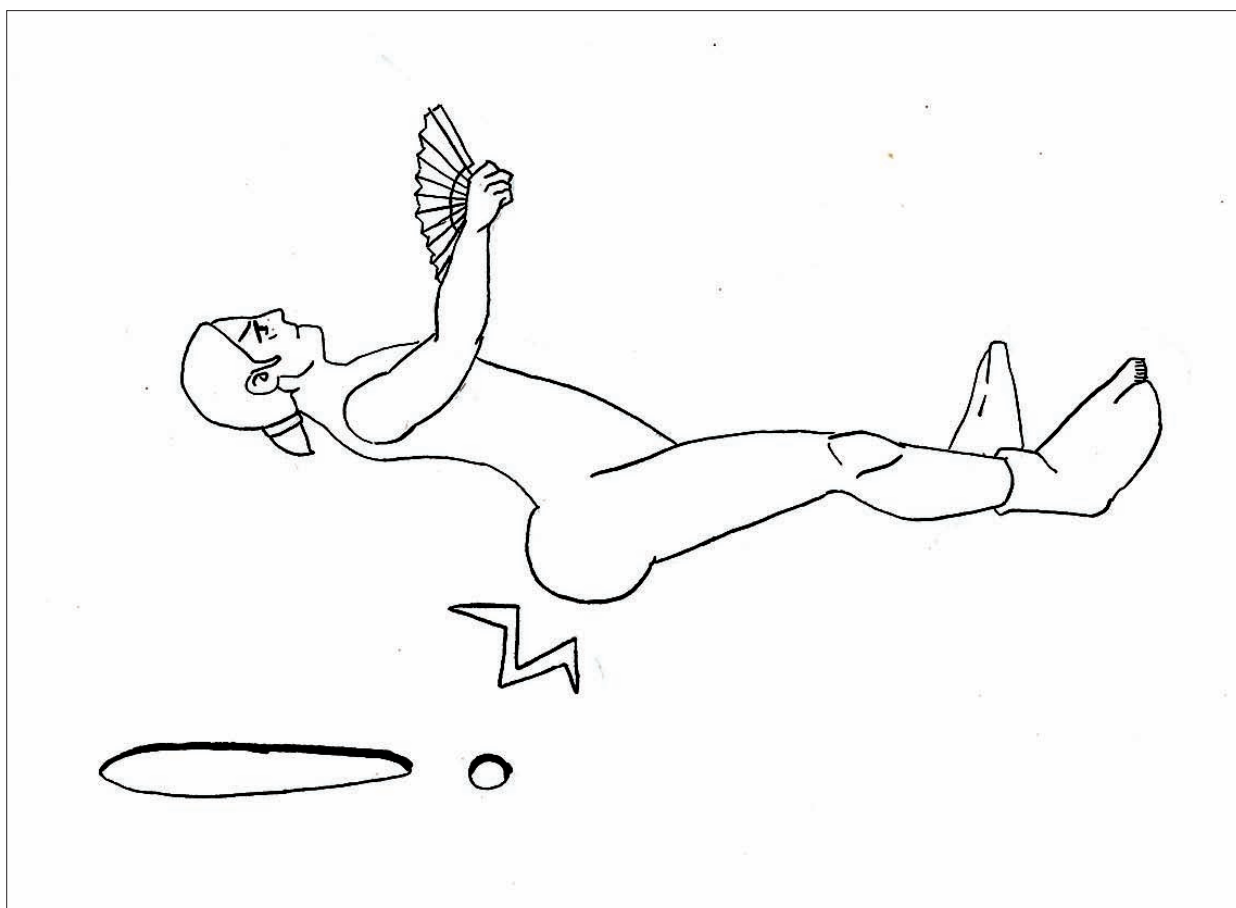
キーワードそれぞれの所作を比嘉が行い、それを鈴木が撮影した。その所作に基づき、鈴木が写真をイラストに起こすためにキーワードと所作の写真・キーワードの意味をひとつにした資料を作成(写真1)。その資料を用いて、イラストを沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科に在籍している長嶺勝磨さんに描いてもらった。長嶺さんにイラストを依頼したのは、本人が玉城流の琉球舞踊を習い、琉球新報社の芸能コンクールにおいて最高賞を受賞しており、比嘉が行う琉球舞踊の所作の細かな

ニュアンスが伝わるからである。

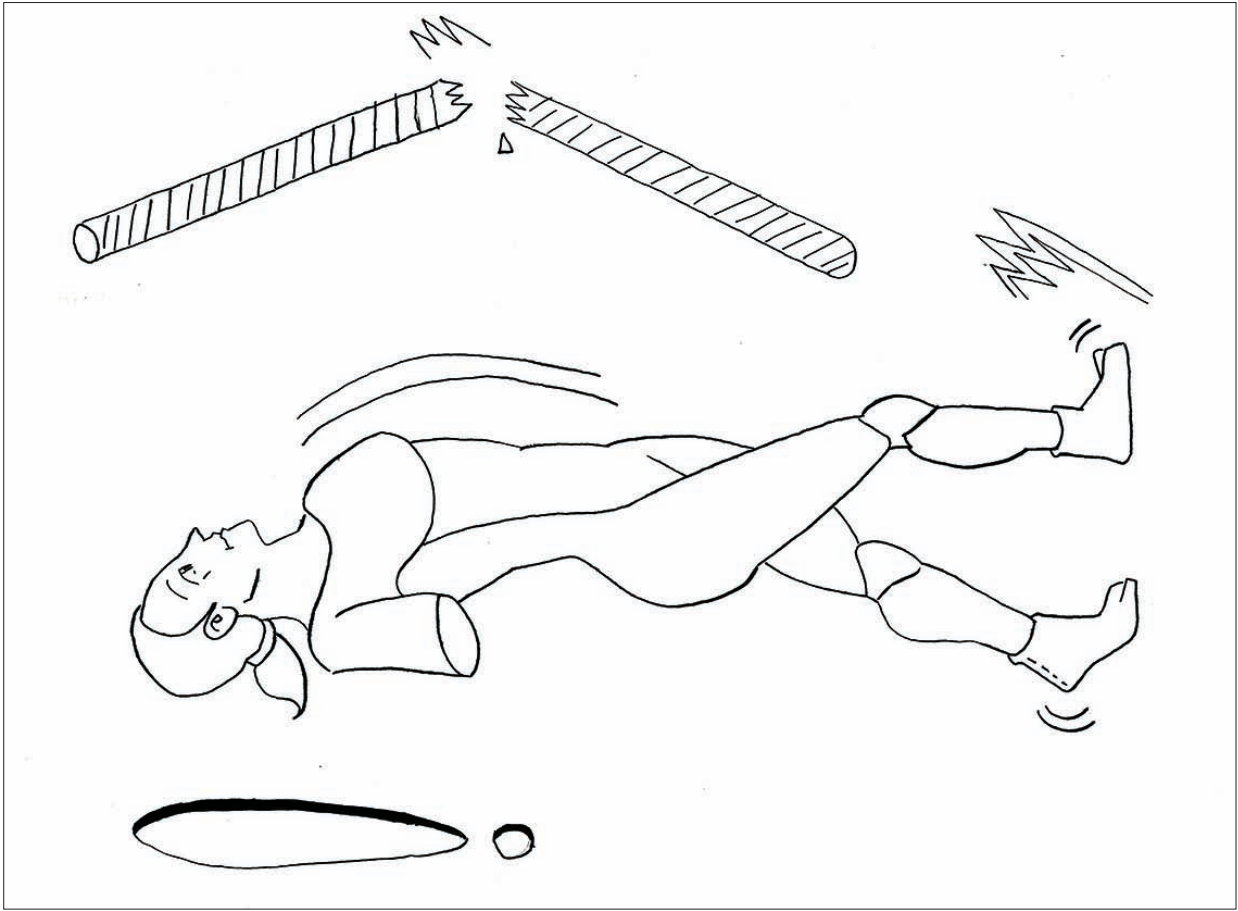
作業は、キーワードをもとにした写真から下絵を起こし、それを鈴木と比嘉で確認、比嘉による所作の細かな修正指示を行い、長嶺が修正する、という順で行った。イラストを作成し、下絵が完成するまでに要した時間は約 3 ヶ月である。その間、毎週比嘉の研究室に集まり、修正指示などを出した。今年度作成した下絵は以下のようである。



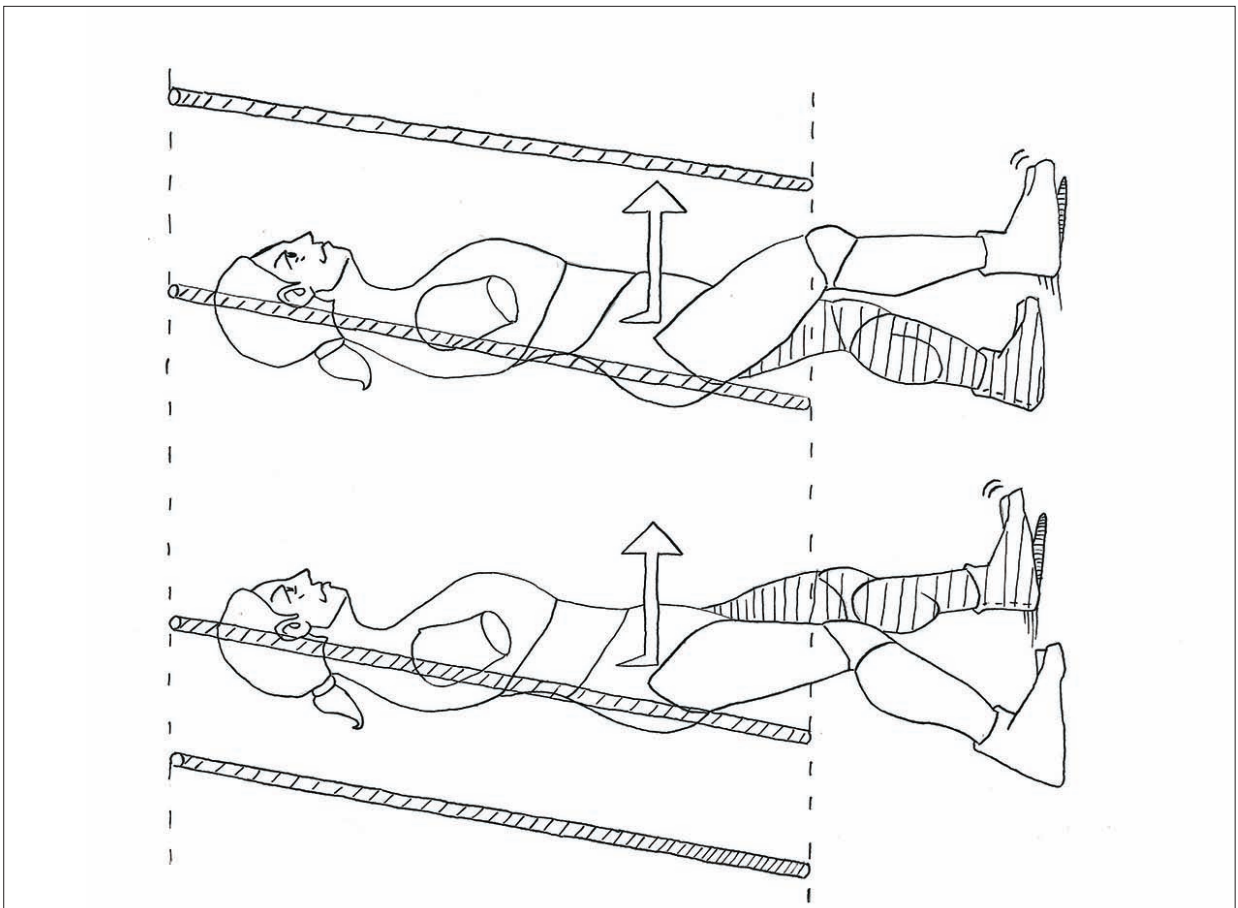
写真1 イラストのための写真とキーワード



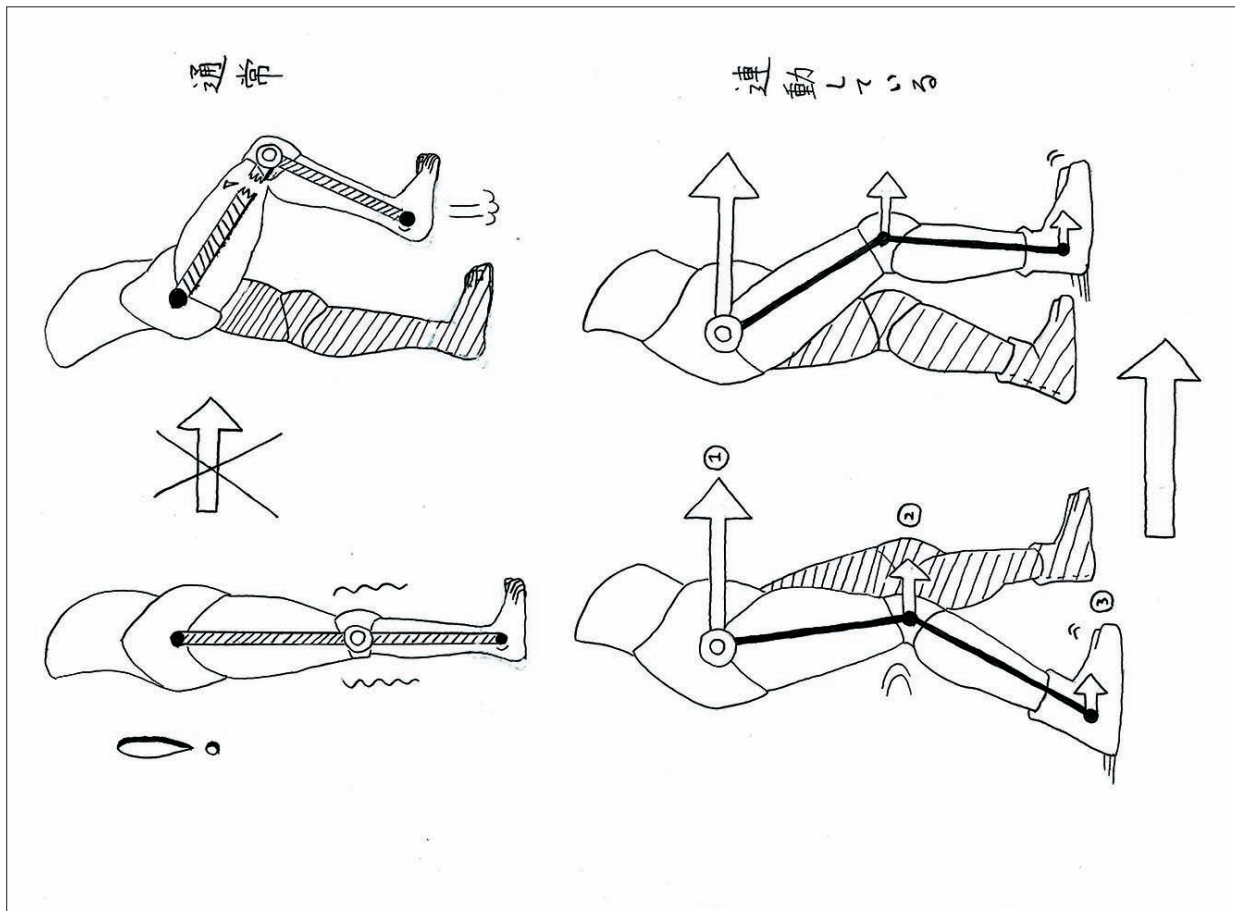
下絵①



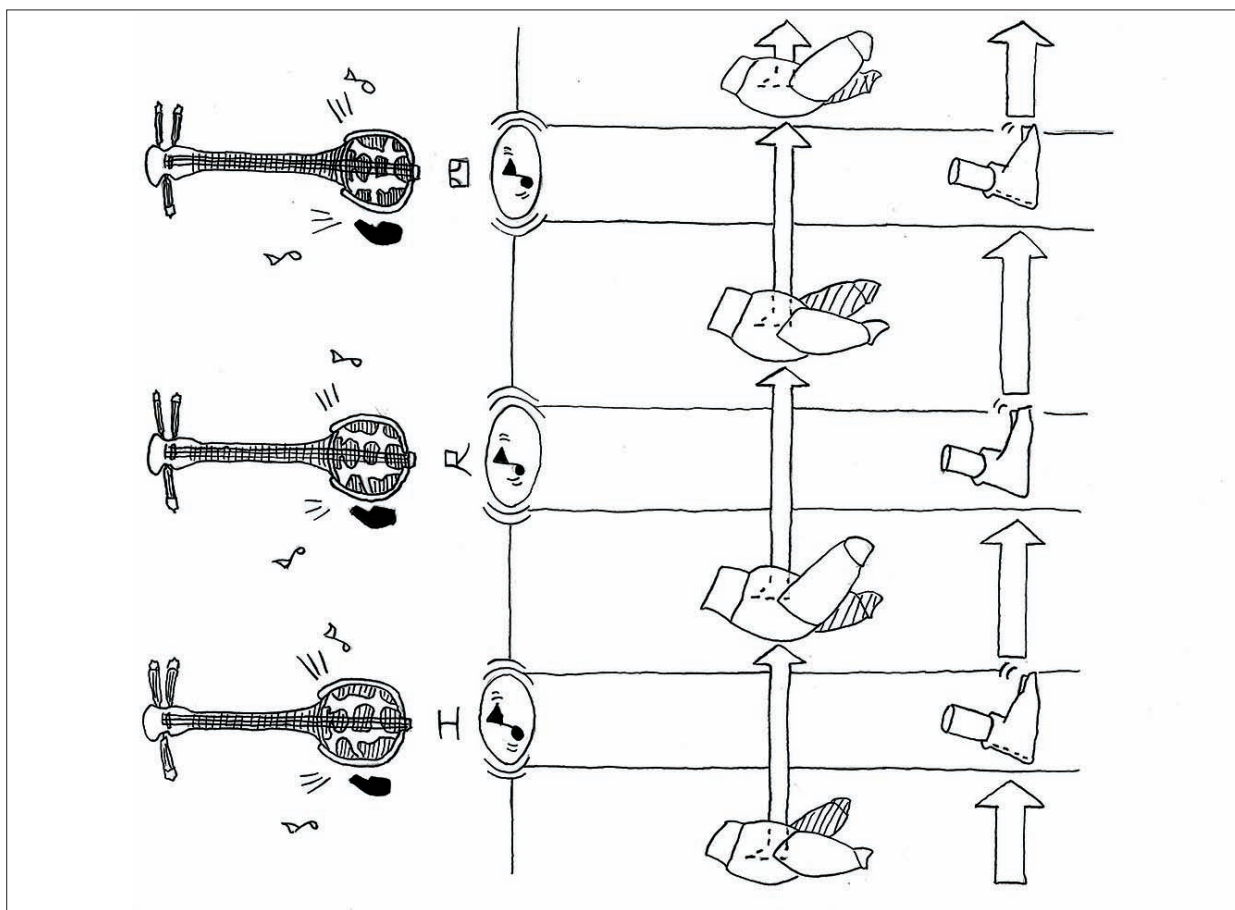
下絵②



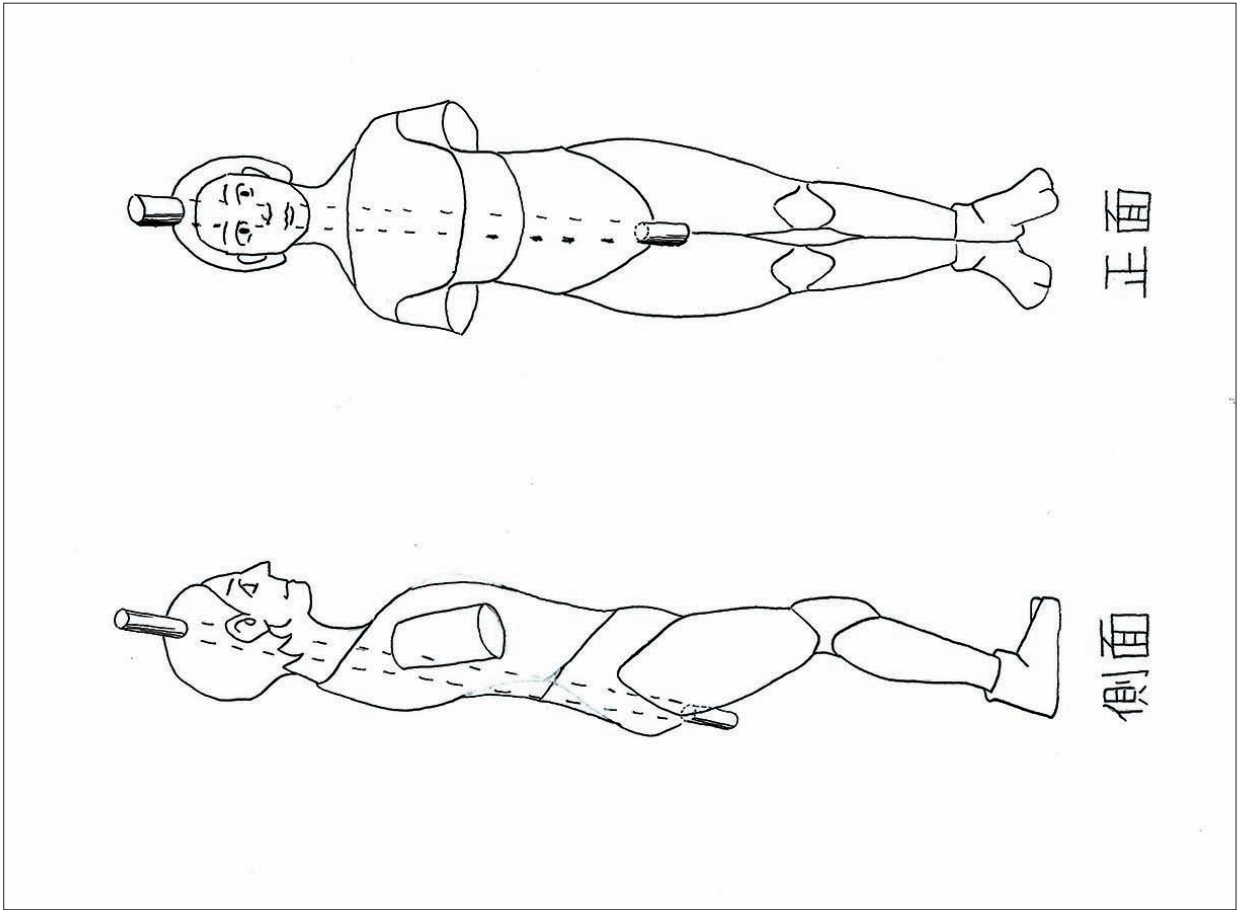
下絵③



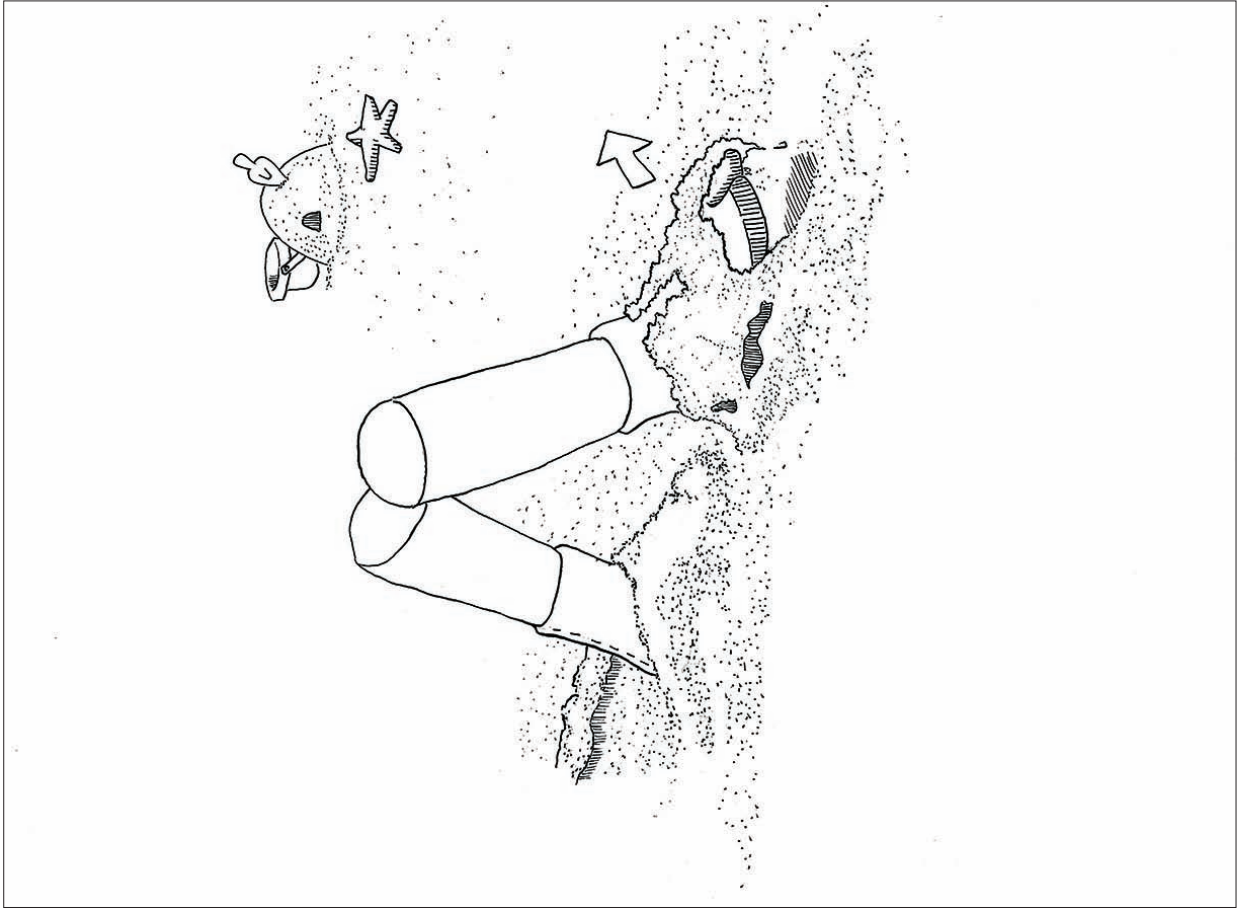
下絵④



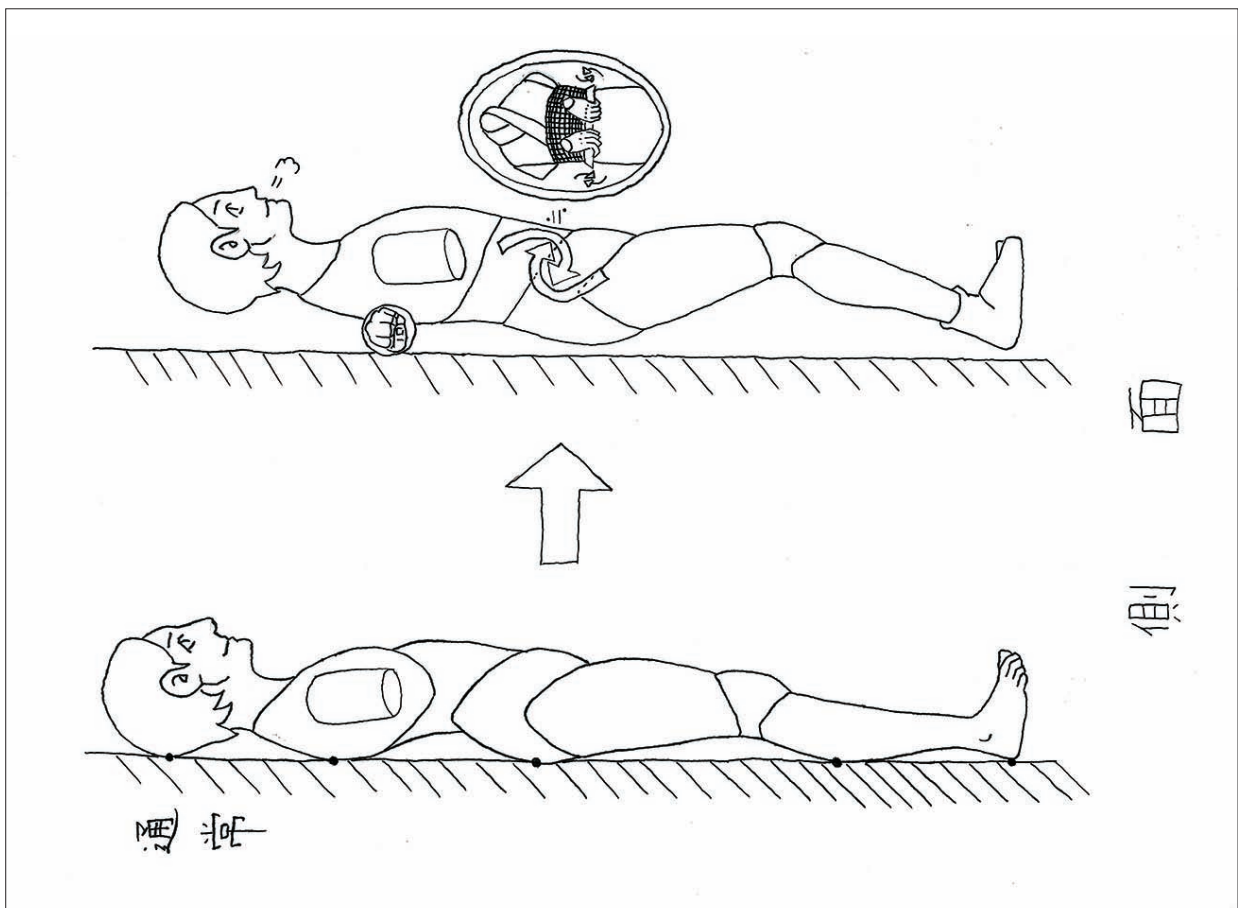
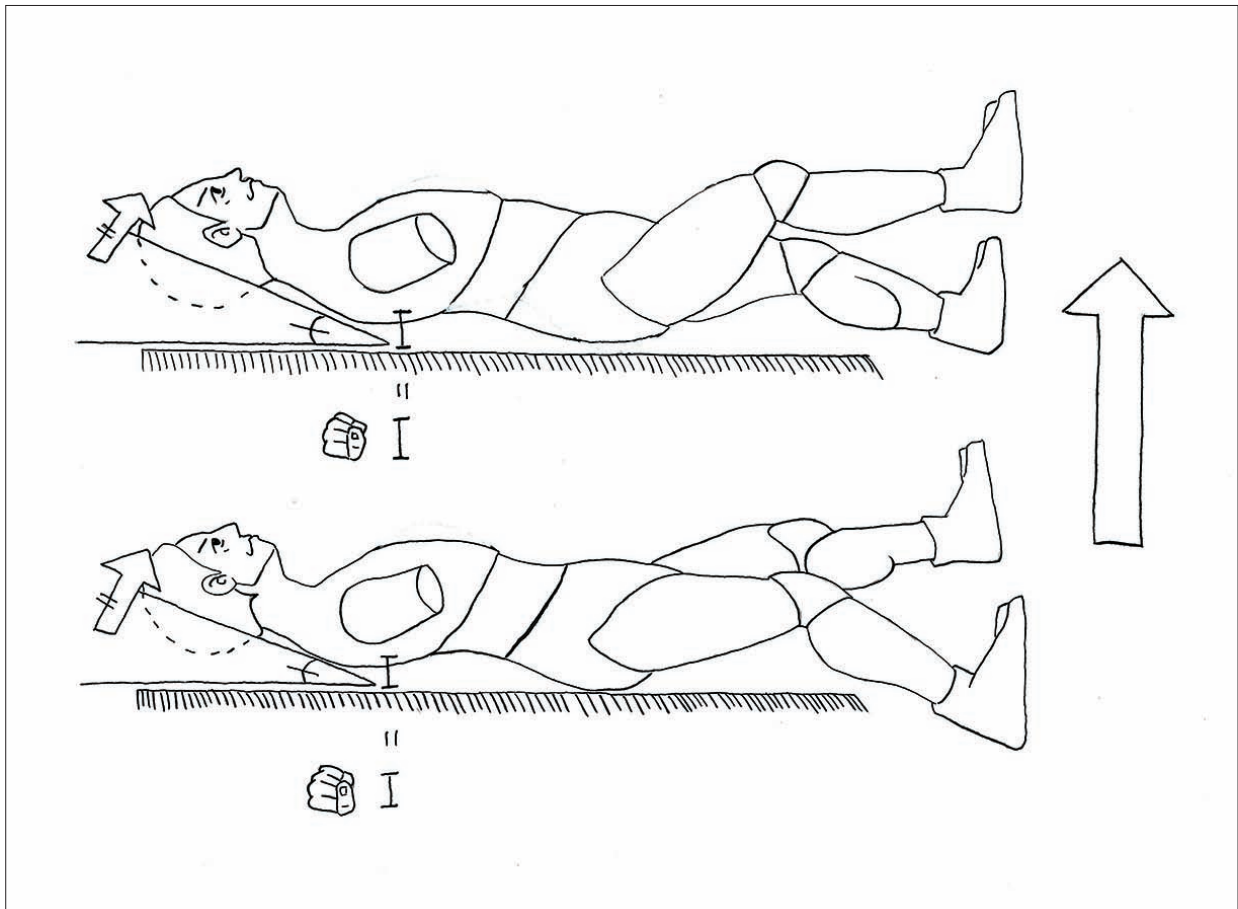
下絵⑤

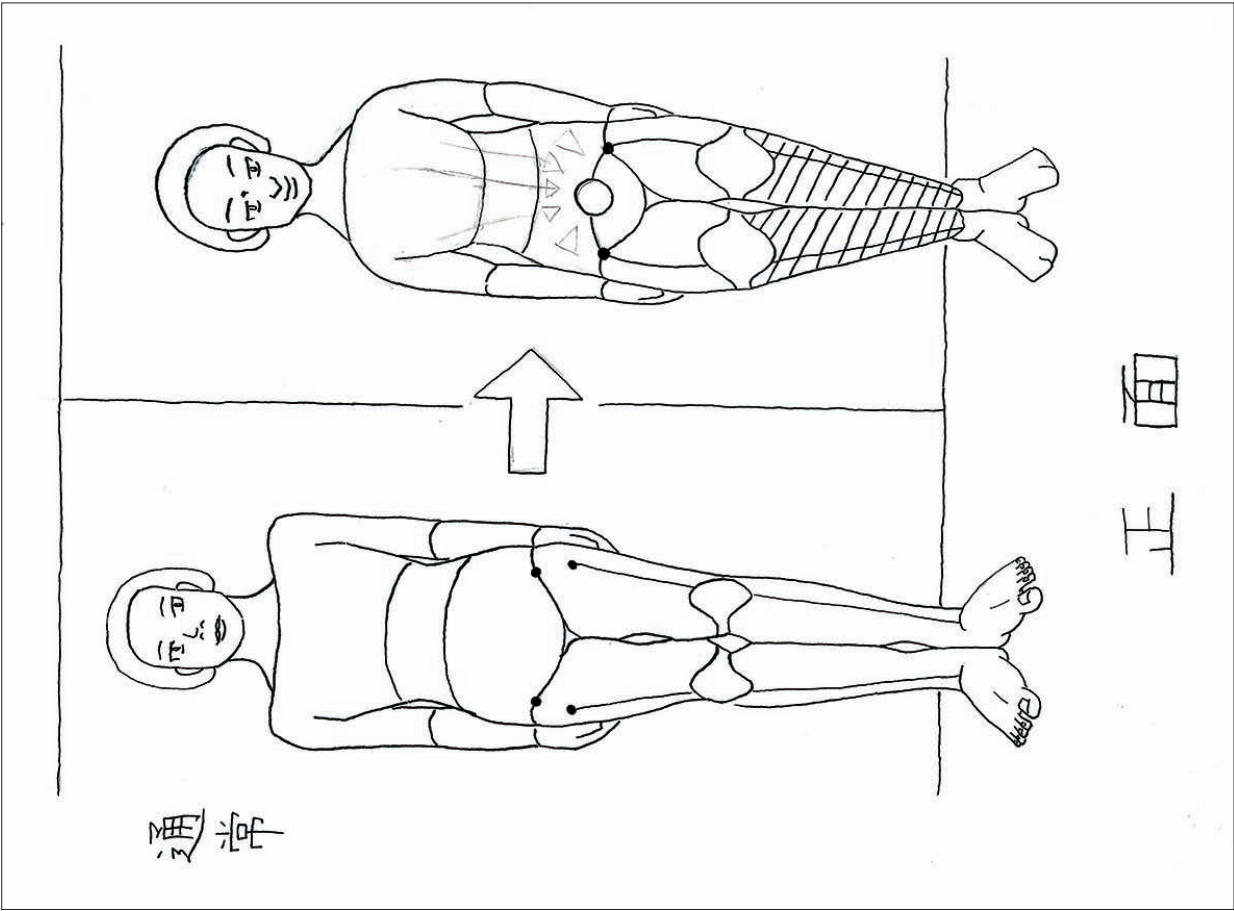


下絵⑦

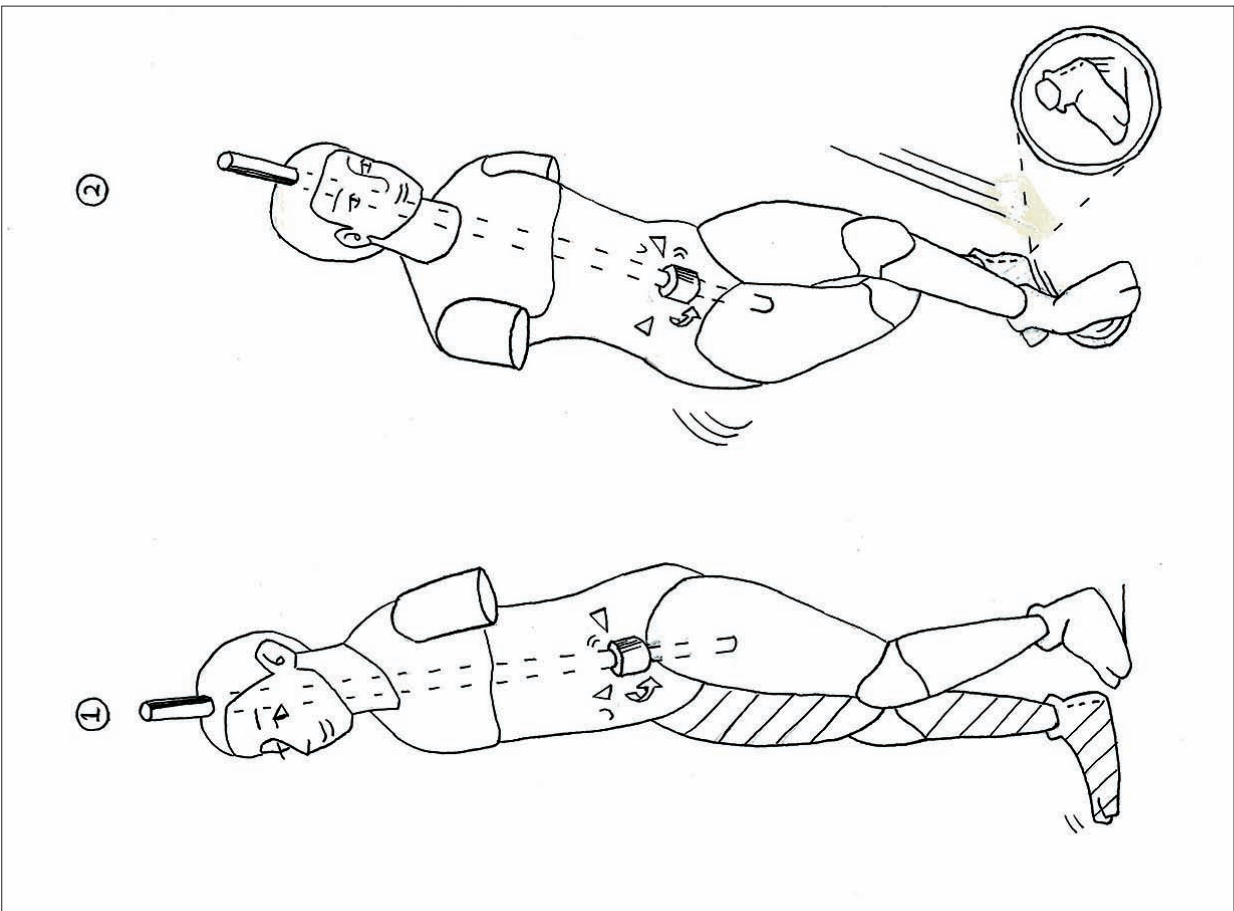


下絵⑥

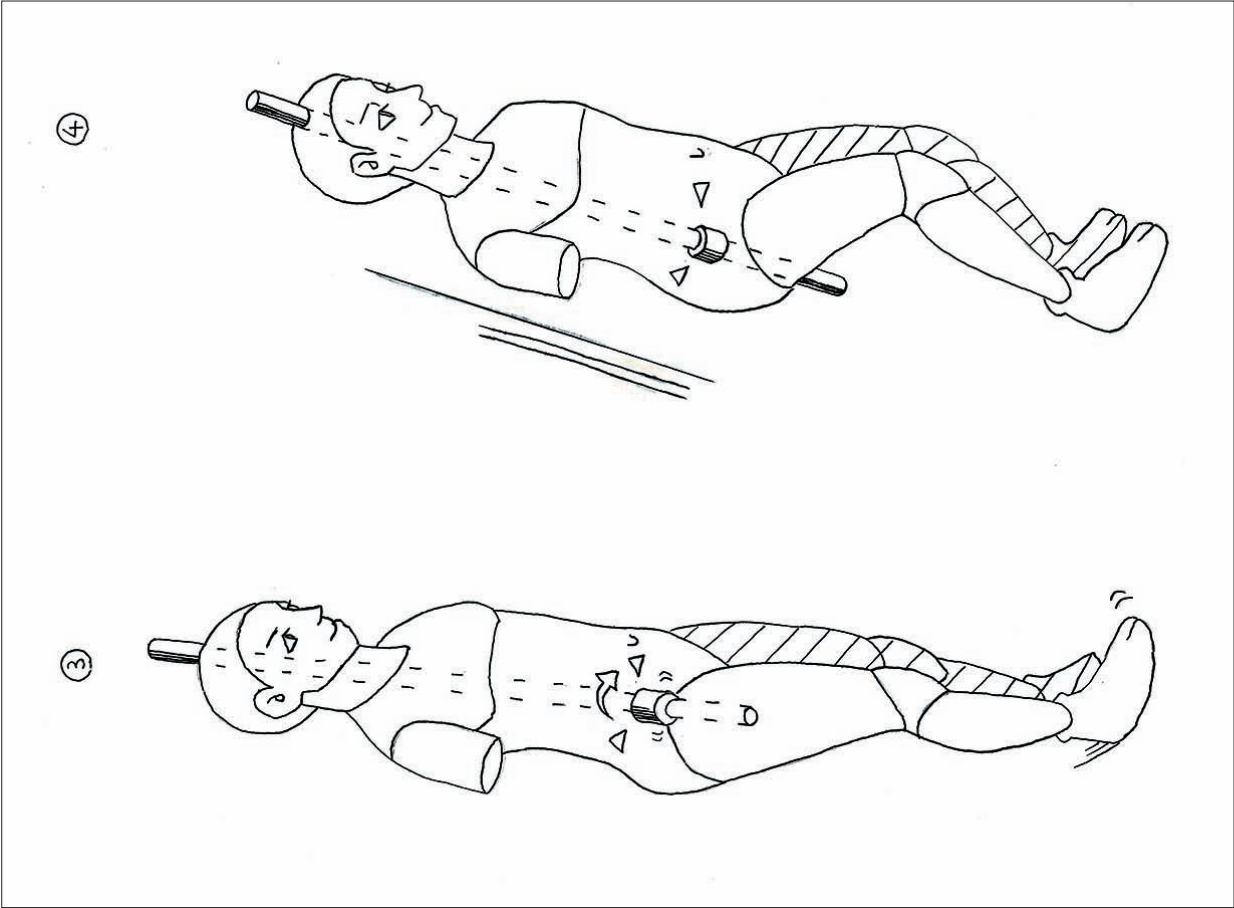




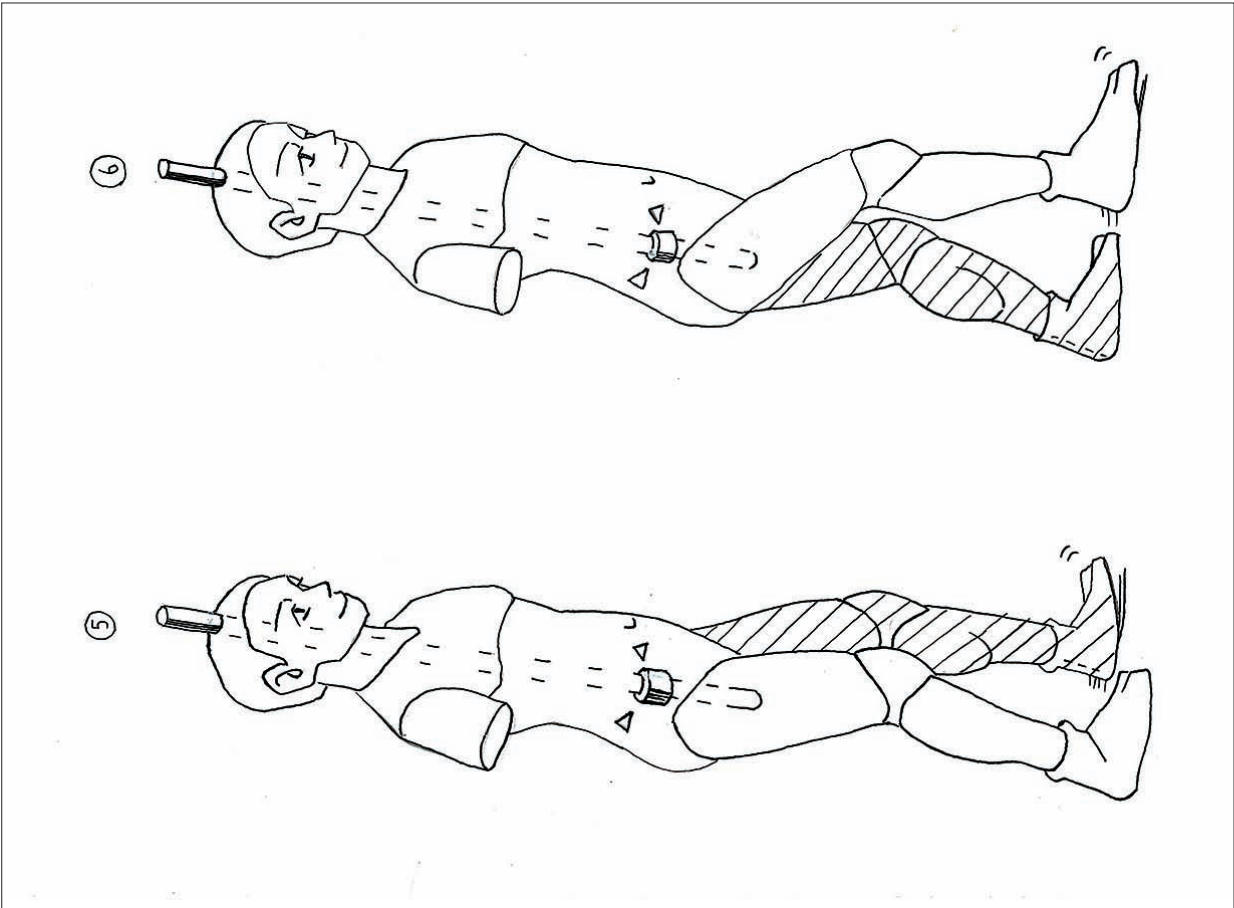
下絵⑩



下絵⑪

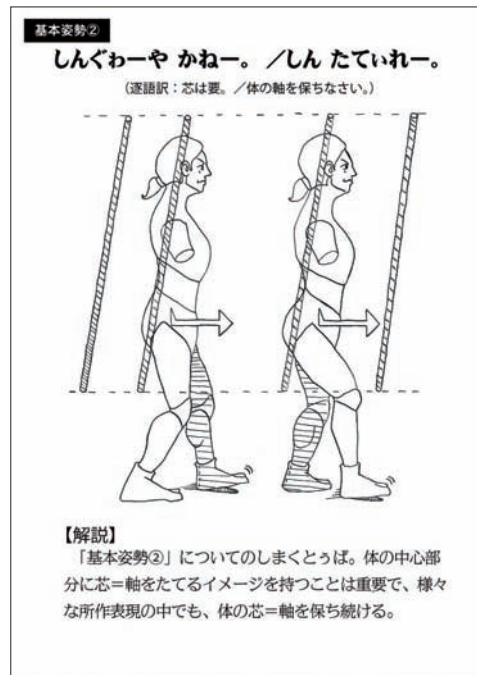


下絵⑫



下絵⑬

(イラストとキーワードをひとつにした副教材の試作)



イラストは写真よりも抽象的な表現が可能である。例えば息を抜いて、力を丹田に集中させる様子や、「ガマク」と呼ばれる下腹部寄りの脇腹に力を加える動作などである。写真では伝わらないが、イラストだとキーワードとともに伝わりやすくなる。しかし、実際には教員の所作を見ながら授業は行われていくので、本資料は授業の前後、とくに予習や復習に用いられることが望ましいと思われる。

副教材は写真を大きくした方がわかりやすい、という宮城幸子先生の指摘もあり、今後はイラストと写真をどのように活用していくか、というところが大事になってくる。次年度は写真とイラスト、そしてキーワードとその意味をひとつにした副教材の開発を行っていく。

6 ハワイ大学（ヒロ校・マノア校）調査概要

6-1 調査研究概要（鈴木）

平成30年12月10日から15日の日程で、ハワイ大学ヒロ校およびハワイ大学マノア校へ調査を行った。

ハワイ大学ヒロ校では、「しまくとうば実践教育プログラム開発事業」のこれまでの成果を紹介した後、ハワイ語学科の教員からハワイ語教育カリキュラムの内容、教材の作成手順や方法、そして現状を調査した。また、フラの教員である Kekoia 氏からフラの授業におけるハワイ語の実践の現状、副教材の有無について調査し、ハワイ語の教材センターでは職員の Johnson 氏から、ハワイ語の教材作成についてさまざまな内容を調査した。

ハワイ大学マノア校では、Carry 講師よりマノア校の日本語専攻学生に対してのしまくとうばの講義について、シラバスや授業で用いる資料をご紹介いただいた。また聖田京子名誉教授からは、ハワイ沖縄県人会でしまくとうばの講座を行う際の教科書や、ハワイ大学で立ち上げた「沖縄の言語と文化」の講義について教わった。ハワイでは危機言語教育のカリキュラムと教材、そしてしまくとうばについての大学での講義や県人会などの一般市民への文化講座について多くの知見を得ることができた。なお、今回の調査に参加した研究会メンバーは以下の通りである。

鈴木耕太（附属研究所）

高良則子（全学教育センター）

波照間永吉（沖縄県立芸術大学名誉教授）

西岡敏（沖縄国際大学教授、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

仲原穰（県立芸大非常勤講師、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）
 ハワイ調査のスケジュールは以下の通りである。

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業ハワイ調査行程表

日付 (JP / US)	内容	宿泊先	備考
12 月 10 日 (JP)	10:30 那覇空港国際線 2 階集合 13:00 沖縄那覇 — 15:20 ソウル仁川 20:20 ソウル仁川 — 9:30 ホノルル	機内泊	OZ0171 OZ0232
12 月 10 日 (US)	9:30 ホノルル着→国内線(ハワイアン航空)へ移動、 待ち時間に Wi-Fi 予約(鈴木)。 13:15 ホノルル — 14:11 ヒロ ヒロ AP からホテルへ。 15:00 HTL チェックイン、16:30 ロビーにて打合せ。 17:00 ホテル — ハワイ大学ヒロ校 17:30 ~ 19:30 ミーティング 19:30 ~ ハワイ大学ヒロ校教員と夕食会 (POND'S)	ヒロ・シーサイド ホテル	HA0352
12 月 11 日 (US)	7:30 ホテルチェックアウト、ヒロ校へ。 8:00 Kekoa 先生の実技教育におけるハワイ語実践 の調査・ハワイ語教材センターでのヒアリング。 10:30 ヒロ校からヒロ国際空港へ。 12:08 ヒロ — 13:05 ホノルル ホノルル空港 — 東西センターへ(約 25 分) 14:00 Lincoln HALL チェックイン 15:00 Yoshie Nakasone 先生打ち合わせ	Lincoln HALL	HA0181
12 月 12 日 (US)	11:30 聖田先生打合せ。(ランチミーティング 2 H)、 その後場所を変えてミーティング。	Moore HALL	
12 月 13 日 (US)	8:00 Lincoln HALL チェックアウト空港へ。 11:10 ホノルル — 17:30 ソウル仁川	機内泊	OZ0231
12 月 14 日 (JP)	17:30 仁川空港到着。沖縄便の乗り継ぎが翌日のた め、ホテルへ。	Incheon Airport Hotel	
12 月 15 日 (JP)	7:00 HTL チェックアウト空港へ。 9:40 仁川空港 — 11:55 沖縄那覇空港 ※波照間先生離団(16 日帰任)		OZ0172

【12月10日】

日本時間13時に沖縄から仁川国際空港へ出発。その後仁川国際空港から20時20分、ハワイホノルル空港に向けて出発。

ハワイ時間12月10日9時30分にホノルルへ到着。国内線に乗り換え、14時11分、ハワイ島のヒロ国際空港に到着。ホテルへ荷物を置いた後、16時30分、ハワイ大学ヒロ校の大原由美子先生と打合せを行う。企画の時点ではヒロ校は10日だけの調査予定であったが、フラの教員であるKekoa先生、ハワイ語の教材センターを11日の朝に訪問できることになったため、11月の予定を変更した。

打合せ終了後、ホテルを出発。17時30分からハワイ大学ヒロ校、ハワイ語学部ハレオレロ内にある会議室において、Rally先生、Keiki先生、Pila先生、Scott先生、大原先生とミーティングを行う。主な内容は①沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業のこれまでの成果の報告、②ハワイ大学におけるハワイ語教育のカリキュラムについて。ミーティングにおいてハワイ大学の先生方は主にハワイ語を使用し、大原先生がハワイ語・英語と日本語の通訳を行った。

19時30分から、上記の先生方と研究会メンバーとの懇親会を行った。懇親会の中でも言語

教育やしまくとうば実践教育プログラムについての議論が活発に行われた。

【12月11日】

7時30分にホテルを出発、8時過ぎ、ハレオレロのホールでKekoa先生よりフラにおけるハワイ語の実践教育についてお話を伺う。我々からは「琉球舞踊実技」における副教材について紹介をし、フラにも実技教育をよりわかりやすくするための副教材があるかを調査した。

Kekoa先生の調査後、9時過ぎからハワイ語教材センターであるハレクアモオ (Hale Kuamo'o) に移動し、職員のJohnson氏よりハワイ大学のカリキュラムと教材の関わり、教材作りについて調査した。学年と教材の関わりや、学年に応じた教材の活用について学ぶことができた。その後、10時過ぎにヒロ国際空港へ向かい、13時5分にホノルル空港へ到着した。

ホノルル空港からハワイ大学マノア校に隣接するハワイ東西センターへ向かった。空港からは30分程で到着、15時にYoshie Nakasone先生と2時間程、次年度の「しまくとうば実践教育プログラム開発事業」の取り組みについて打合せを行った。

【12月12日】

11時30分、Lincoln Hallにて聖田京子先生と待ち合わせをし、Lincoln Hallの向かいにあるMoore Hallに移動。ここにはSchool of Pacific & Asian Studiesがあり、3階の教室を借りて、Stewart Carry専任講師からハワイ大学の沖縄語の講義について、また、聖田先生とCarry先生からしまくとうばと沖縄の文化を教える新たな講義について伺った。

ミーティング後は、場所を変え、聖田先生に「しまくとうば実践教育プログラム開発事業」の現状の報告を行い、実践授業の助言をいただいた。

【12月13日】

6時30分、Lincoln Hallを出発、ホノルル国際空港から仁川国際空港へ出発。12月14日の17時30分、仁川国際空港へ到着。この日の沖縄への乗り継ぎ便は終わっていたため、12月15日の9時40分の便で那覇国際空港へ向かった。

6-2 ハワイ調査報告

6-2-1 2018年度ハワイ調査報告 (西岡 敏)

2018年度も、沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業の一環として、ハワイ調査に参加させていただきました。調査期間は2018年12月10日～15日までで、ハワイでの滞在は、時差の関係で、10日～13日でした。10日と11日午前は、ハワイ語教育の取材で、昨年同様、ハワイ島にあるハワイ大学ヒロ校のハレ・オーレロ (言語の家)を訪れました。12日は、ハワイにおける沖縄語教育の取材で、オアフ島にあるハワイ大学マノア校の沖縄研究センターを訪れました。

・ハワイ滞在1日目 (12月10日)

オアフ島のホノルルに一旦、トランジットし、ハワイ島のヒロに到着、昨年と同じく、ハワイ大学ヒロ校を訪れました。ヒロ校は、大学生に対するハワイ語教育で最先端の取り組みを行っているところです。

今回、派遣チームの側からは、沖縄県立芸術大学 (西岡は附属研究所共同研究員として参画) におけるしまくとうばを使った学生への指導を紹介し、先方のスタッフからはハワイ語教育における現状を紹介していただき、互いの意見交換会を行いました。

言語の復活・再生には、次世代を担う若い人への言語の継承が欠かせません。現在、沖縄県では「しまくとうば講師養成講座」(沖縄県しまくとうば普及センター主催、2018年10月～)を開講され、しまくとうば講師の養成が始まったばかりですが、ハワイ語教育ではカファ・ワイ・オラ (Kahura Wai Ola) というのがあって (ハワイ語で「カファ」は「基礎、土台」、「ワイ」は「水」、「オラ」は「命、健康」という意味)、しまくとうばの指導者になる制度が整えられているようです。

沖縄県では、また、これからしまくとうばの検定試験を行なうとしています。ハワイ語に検定に

相当するものがあるかの質問も行いました。ハワイ語には検定試験に相当するものはないそうです。ただし、大学の卒業や修士課程の修了においては、そのレベル相応のハワイ語の能力が厳密に測られ、その能力に達していない場合には卒業や修了ができないとのことでした。

また、教材に対する提言もありました。子どもたちが楽しんで取り組める教材を作る必要があるとのこと。ハワイ語では、歌にしたり、ゲームにしたり、短い話などを作ったりなど、子どもたちの興味が出るように教材作りにも工夫を凝らしているとのことでした。

ハワイ語の創作活動についても質問しましたが、たいへん盛んなようです。ハワイ語を学ぶ学生たちは、イベントやパーティーなどで、ウクレレやギターを弾きながら、自分たちの創作したハワイ語の歌を披露したりするそうです。それが何時間も続き、他の語学を学ぶ学生さんとは比べて際立っているとのことでした。スタッフの先生方の中にもハワイ語の歌詞をいくつも作っていらっしゃる方がいるそうです。また、ヒロ校ではないが、マノア校にハワイ語による芸能を披露する学生団体があって、ヒロ校にも公演に来たことがあるそうです。

ハワイ語では、「聞く」「話す」「書く」「見て表現する」という能力を学生たちに高めてもらおうとカリキュラムが組まれており、これからの沖縄におけるしまくとぅば教育にも参考になることが多々ありました。

・ハワイ滞在2日目(12月11日)

午前中は、再びハワイ大学ヒロ校のハレ・オーレロ(言語の家)を訪れ、ハワイの舞踊であるフラの先生(Kekoa先生)に話をうかがいました。フラは、ハワイ語の歌にのせて踊りますが、歌の意味をしっかり理解することの重要性を指摘されました。フラを学ぶ大学生たちにも、ハワイ語の歌詞が理解できているかどうか、毎回のように筆記試験を行うそうです。言霊(ことだま)に近いのかもしれませんが、ハワイ語でも言語自体にマナ(manā、聖なる力)があると考えられており、それを理解することの重要性をおっしゃいました。それも、頭ではなく、腹(ナアウ、na'au)で理解せよ、とのこと。ハワイ語では、真に考えることを「腹」で考えると表現するそうです。ハワイ語の歌詞のフレーズは、スピーチなどでの表現にも応用できるそうです。歌詞の意味を深く読み取ることで、学生も伝統的なものを演じる、すなわち、フラを踊ることができるとおっしゃっていました。

Kekoa先生へのインタビューが終わった後、場所をハレ・クアモオ(ハワイ語の教材センター)に移動して、担当の方からハワイ語のテキストについて話を伺いました。まず、初級用の教科書として使っているナーカイエヴァル(Nā Kai'Ewalu、1と2の2冊出ている)について、学生のハワイ語のレベルに応じて、進むペースを使い分けられていることを聞きました。他にも、ケアオナニ(Ke Ao Nani)という絵の付いた千語の語彙集(初級)、短い話の絵本(初級)、長編の読み物(小学校4年生用)などを紹介していただきました。子どもたちのハワイ語の習得については、最初、ヒヤリング(聴解)がもっとも難しいが、文字化することによって理解が進むとのこと。ハワイ語の初期の学習で共通によく利用されているのが、ハカラム(hakalama)と呼ばれる音節表(日本語の50音図に相当)で、この活用によって子どもたちのハワイ語の基礎的な理解が進むとのことでした。

さらに聞きたいことが多くありましたが、飛行機の便があるので、ヒロ校からホテルへ向かって、荷物を取り、ヒロ空港から、オアフ島、ホノルルへ出発。午後からは、ホノルルのハワイ大学マノア校では、ハワイにおける沖縄の伝統芸能の活動や、ハワイ大学におけるしまくとぅば教育について伺うことになっています。

ハワイ滞在の2日目午後は、ハワイ大学マノア校で、ハワイにおける沖縄芸能の継承に携わっていらっしゃる仲宗根良江先生に沖縄での修業時代などについて話を伺いました。

・ハワイ滞在3日目(12月12日)

3日目は、ハワイ大学マノア校沖縄研究センターを訪れ、昨年度にもお世話になった聖田京子先生に、沖縄文化や沖縄語に関する科目について教えていただきました。また、沖縄語を教える科目については、現在ご担当のStewart Carry先生から、その現状について詳しい話を聞くこと

ができました。

ハワイ大学マノア校では、大学4年生を対象に沖縄語を教えるクラスがあります。ハワイ大学では科目に記号番号が付いていて、沖縄語を教えるクラスの記号番号は、JPN471というふうに振られています。JPNは「日本語」、471の最初の4は「4年生クラス」であることを表します。日本語のクラスの枠内ではありますが、まずは英語によってウチナーグチが詳しく教えられていることに深い感動を覚えました。しかも、かなりレベルが高いとも感じました。来年度からは、さらに間口を広げて多くの学生に関心を持ってもらうために、1年生を対象とした「沖縄文化」の入門コースが始まるとのことです。

Carry先生は、沖縄語学習の一例として、沖縄語の形容詞を教えるときに使用しているテキストを紹介してくださいました。

Lesson 20

G ooyaa ya njasaibiin. ごーやーや んじゃさいびーん。

Bitter melon is bitter 苦瓜は苦いです。

第20課 (Lesson 20) が形容詞を学ぶ課のようですが、「沖縄語ローマ字表記」「沖縄語かな表記」「英語表記」「日本語表記」という多文字・多言語表記で、受講者の理解を助けているようです。最初に次のような簡単な会話が紹介されています。

Dialogue

At the public market in Makishi:

Customer: Kooyabira. Unu gurukunoo chassa yaibiiga?

こーやびら。うぬぐるくのーちゃっさやいびーが。

Hi. How much is that double-lined fusilier?

ごめん下さい。あのタカサゴはいくらですか。

Clerk: Ichichi saani shin sanbekuen yaibiin.

いちちさーにしんさんべくえんやいびーん。

It's ¥1300 for five.

五つで千三百円です。

Customer: Uree takasaibiissaa. Ihee yashimiti kwimisooree.

うれーたかさいびーっさー。いへーやしみていくいみそーれー。

That's pretty expensive. Please discount it, just a little bit.

それは高いですねえ。少しは安くして下さいませんか。

Clerk: An yashiga, chuu itchi choogutu maasaibiin doo.

あんやしが、ちゅういっちちょーぐとうまーさいびーんどー。

True enough, but sinse it's [just] come in today, it's really good!

そうですが、今日入って来ているからおいしいですよ。

この後に、会話に関する語彙説明や文法事項の説明（この課で学ぶべき事項の形容詞を解説）が続き、形容詞について沖縄語と日本語との違い、沖縄語における形容詞の丁寧語の言い方などが示されています。さらに、基本的な形容詞語彙をいくつか挙げ、かつてあった首里方言における「サン」と「シャン」の区別や、ワッサン（悪い）、ヤッサン（安い）のような対応に少しズレのある形容詞についても触れられ、沖縄語の形容詞について総合的に学べるように細やかな配慮がなされています。

形容詞の活用についても、よく使う否定形・過去形をはじめ、普通体・丁寧体を対比させ、まとめて紹介されています。

Adjectives inflect for tense and politeness. Here, the plain forms:

takasan … 高い

takakoo neen … 高くない

takasatan … 高かった

takakoo neentan … 高くなかった

And here, the polite:

takasayabiin / takasaibiin … 高いです

takakoo neeyabiran … 高くないです

takasayabiitan / takasaibiitan … 高かったです

takakoo neeyabirantan … 高くなかったです

また、沖縄語クラス (JPN471) では、クイズ (小テスト) や質問を豊富に取り揃えており、単に沖縄語を覚えるだけではなく、学生に考えさせて説明させようとしています。覚えたことを確認する宿題も毎回確実に出されています。最終試験 (Final Exam) は、沖縄語について、広範囲の分野から出題されています。沖縄語クラス (JPN471) の最終試験 (Final Exam) の項目を次に掲げます。

Part 1 Culture (文化)

Part 2 Language (言語)

Vocabulary and pronunciation (語彙と発音)

Grammar summary (文法概要) 日本語との違い

Useful expressions (有用な表現) 挨拶的表現など

Introduce yourself (自己紹介)

Shopping (買い物) 少年とおばあちゃんの会話

Translation (英会話の沖縄語訳)

Translation (琉会話の英語訳または日本語訳)

Questions and answers (問いと答え) 沖縄語の質問に対して沖縄語で答える

Mun (琉文英訳)

Reading (長文読解)

ハワイ大学マノア校では、先生方のご尽力により、レベルの高い沖縄語教育が継続しており、沖縄県における各方面の機関でも、その教育的手法を多々学ぶべきではないかと強く感じました。

6-2-2 ハワイ大学ヒロ校およびマノア校訪問調査報告 (高良)

平成30年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育開発プログラム事業 (以下「しまくとぅば実践教育事業」) の一環として、平成30年12月10日から15日にかけて、ハワイ大学ヒロ校及びマノア校での訪問調査を行った。今年度は、しまくとぅば実践教育事業のメンバーから、波照間、鈴木、西岡、仲原、高良の5名が調査に参加した。

本調査のひとつ目の目的は、ハワイの先住民言語そして消滅危機言語であるハワイ語の教育プログラムを通して、本学で実施するしまくとぅばによる実技指導やしまくとぅば教育のための知見を得ることである。特に、ヒロ校ハワイ語プログラムにおけるカリキュラム上の工夫や教材作成の方法、効果的な指導法や適正な評価法について、より具体的な情報を収集することに調査の主眼を置いた。現地



での第一回目の意見交換会は、12月10日にハワイ大学ヒロ校にて2時間ほどに亘って行われた。ヒロ校からの参加者は、ハワイ語学系カ・ハカ・ウラ・オ・ケエリコーラニのメンバーであるKeiki Kawaiāeā先生、Larry Kimura先生、William Pila Wilson先生、Scot Saft先生、そして大原由美子先生である。直前まで、専攻会議がハワイ語で行われていたという会議室を使用させていただいてのミーティングである。

まず初めに、しまくとうば実践教育事業の今年度の活動から、実践授業についての報告ならびに現在制作中の「しまくとうば文例集」と「琉球舞踊しまくとうば副教材」の紹介を行った。あわせてカ・ハカ・ウラ・オ・ケエリコーラニをモデルにして、今年度から附属研究所や琉球芸能専攻の教室等にしまくとうばでの名称表記を追加したことを報告した。実践例としてはまだまだ限定的なものではあるが、しまくとうばを浸透させる具体的な活動としてヒロ校の参加者から評価をいただいた。

その後は、私達がハワイ語プログラムについて話を聞く機会を得た。ハワイ大学ヒロ校ハワイ言語学系には、ラボスクール、大学、大学院からなる学術部門とハレ・クアモオというハワイ語イマージョン教育のためのカリキュラムと教材開発に携わる部門の二つの大きな柱がある。大原・サフト(2014)によると、ヒロ校にはカ・ハカ・ウラ・オ・ケエリコーラニという高等教育プログラムが1997年に設立されるが、教材センターであるハレ・クアモオはそれよりも前の1989年に設立されている。ここでは、ハワイ語研究、辞書開発、電子図書館への言語資料の収集、教材研究や教員育成など様々な活動が、ハワイ語復興運動の勢いのなか継続的に、そして並行して行われていたことがわかる。そうして出来上がった学部プログラムは、保育園から高校までハワイ語のイマージョン教育を受けてきた学生からハワイ語初心者の学生まで、あらゆるレベルの学生を対象とした4年間のハワイ語カリキュラムとなっている。最終的に、すべての学生は、5つのセクションから構成されているハワイ語能力試験でHigh Intermediateのレベルに到達していないと卒業できないという、かなり厳しいプログラムである。

ハワイ語カリキュラムは、先に言及した大原・サフト(2014)にも説明があるが、ここでは調査で直接聞き取った部分を中心に記録を残しておきたいと思う。まず、1年次にハワイ語の授業で使用する教科書は、『Nā Kai ‘Ewalu』1巻と2巻の2冊で、ミーティングに参加されたWilliam Pila Wilson先生もその執筆者の一人である。ハワイ語の文型を中心に、ハワイ語の語彙、文法、主に実話に基づく読解文や文化などについて英語を介して学べるようになっている。練習問題が豊富であるのと同時に、それぞれの巻には1000語の語彙が収録されており、学生は1年間で2000語を習得することになる。2年次に使用する教科書は、現在編集中とのことで、まだ出版はされていない。3年次、4年次になると教科書はなく、教材としてハワイ語新聞が活用されている。入学時には、学生のハワイ語習熟度に大きな差があるため、現在はクラスを能力別に分けて、それぞれの力が向上するように指導をしているというが、2年目からは、授業はすべてハワイ語によって行われる。

Keiki先生からは、初級レベルの指導においては、イラストや絵本を活用し、歌や短いお話などを繰り返し聞かせることにより、できるだけ早く学習者には様々な音の違いに気づかせて区別させる工夫が大切であるとの指摘があった。特にハワイ語においては、長音・短音や声門閉鎖音の有無など英語とはかなり異なった発音があるため、初級レベルでは特に発音が重視されるようだ。しまくとうばにおいても違いを認識しなくてはならない音は、日本語よりも多いため、初級クラスではそれらの表記法と合わせてリスニングを大切にする必要がありそうだ。

初心者向けの教材といえば、ハレ・クアモオでは様々なレベルの絵本(リーダー)が作成されているが、これらの活用方法についてもたずねてみた。Keiki先生によると、基本的には子供用の教材な



ハワイ大学ヒロ校でのミーティング風景

ので、大学の授業で使用するかどうかは教員の判断によるが、初級レベルでの活用例として、子供用の絵本で使用されているハワイ語の文型分析を学生にさせてみる教員もいるとのことであった。ただし、言語を見て分析することができても、実際にその言語を使うことができるとは限らないため、どのような目的の授業なのかをよく考えて授業の進め方や教材選択を行う必要があるということも指摘されていた。

ハワイ語プログラム修了時には可否判定の試験があることに言及したが、大学院に設置されている「ハワイ先住民教員養成課程」への出願の際にも、同様なテストを受け、ハワイ語の習得レベルを証明しなければならない。このプログラムを修了するとハワイ州でハワイ語を指導する資格を取得することができる。学外からの申請も受け付けているそうだが、かなり高いレベルのハワイ語が要求されるため、外部からの申し込みは少なく、受験生は、ほとんどヒロ校の卒業生とのことであった。

ちなみに、卒業時及び教員養成課程出願時に課される試験の概要は以下のとおり。

1. インタビューテスト：ACTFUL (全米外国語教育協会) によって開発された口頭運用能力を測定するテストを参考に作成される。
2. ディクテーション：ハワイ語を母語とする年配の人の話を聞いて書き取る。
3. ライティング：ハワイ語でエッセイを書く。
4. リーディング：古いハワイ語の新聞を読んで、それを現代ハワイ語に訳し、内容に関する質問に答える。
5. 翻訳：英語の新聞記事をハワイ語に訳す。

ヒロ滞在2日目は、8時30分ごろから、フラの授業を担当されているKekoa Harman先生にお会いして実践授業におけるハワイ語の指導について話を伺った。先生は最初に、座って行う古式のフラで我々を歓迎してくださった。そして、次のようにおっしゃった。「フラをするにしても、歌を歌うにしても、一番大切なのは、言語です。ハワイ語の歌の意味や踊りの意味を理解することが大切なのです。ハワイ語学部のスローガンは、「言語が伝統と人間をつなぐ」というものですが、言語を理解することによって、立ち居振る舞い、伝統や文化が理解できるようになります。…ただ頭で理解するだけでなく、心で理解することによって、体や言葉で表現することができるようになるので、言葉がとても大切なのです。」大学では、フラの上級の学生を指導されており、初心者には指導することはほとんどないようであるが、ナーワヒの子供たちに初級のフラを教えることがあるそうだ。その場合においてもやはり、言葉の重要性を強調するようにしているといわれていた。フラを通して言語を深く学ぶという観点で指導されているのがわかる。

Kekoa先生には、しまくとぅば実践教育事業で現在開発中の「琉球舞踊しまくとぅば副教材」について資料をもとに説明をし、コメントをいただくと同時に、先生ご自身が実技授業で文字資料のような副教材を使用することがあるかどうかたずねてみた。琉球舞踊の基本姿勢や歩みを表現する言葉とイメージをイラストや写真を用いて視覚化する試みにはとても感銘を受けておられた。特にフラには様々な流派があり、創作フラなどでは、どんどん伝統的な基本姿勢が変化し伝統が失われ

つつあるため、フラの基礎となっている伝統フラの基本姿勢や動きの記述は、大変重要になってくると強調された。先生は、ご自身の研究の中で、伝統的なフラの動きの視覚的イメージと言語の関係について分析を試みているとのことであった。そのツールとしてビデオや写真を使っているとのこと。Kekoa先生は、去年の訪問調査の際にご覧になった比嘉いずみ先生の踊りに深く感動し、その時、琉球舞踊とフラでは動



Kekoa 先生とのミーティング風景

きや基本姿勢に普遍性があると感じたそう。このような副教材は大変参考になるとおっしゃって下さった。

Kekoa先生ご自身は、現在このような文字や視覚教材は用意していないようで、学生は基本的に先生のフラの型や動きを見て、正確にまねるという方法で指導をしている。しかしその際には、必ずフラで使用されている歌の言葉の意味を徹底的に説明して深く理解させるようにしているとのことだった。そして、言葉の意味の理解を確認するクイズやテストをたくさん与えているそう。最後に以下のようなコメントをくださった。「言語の復興活動においては、言葉を使うということと同時に、このような言語の意味の視覚化も重要だと思います。先人から、ある知識が伝承される時、それは見たり聞いたりして伝承されるのですが、記録化されていないこともあります。…どのような形であれ記録を残すことは次の世代のためになると思います。」

その後、9時30分ごろから30分程度ではあったが、教材センターであるハレ・クアモオを訪ね、教材開発担当のJonson氏から話を聞くことができた。驚いたのは、1年次のハワイ語の授業で使っている教科書『Nā Kai 'Ewalu』1巻と2巻は、約20年かけて作成されたということだった。それまでは教科書がなかったのではなく、授業では簡易綴じのプリント資料を使用しながら幾度も編集作業を重ね、ようやく2012年に印刷・出版に至ったとのこと。ジョンソン氏は、この教科書を使用するハワイ語の授業についても説明を加えてくれた。

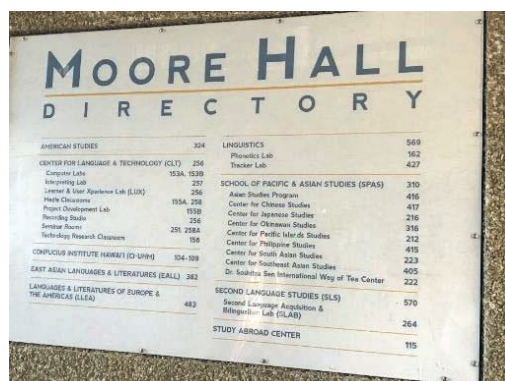


ハワイ大学ヒロ校教材センター (Hale Kuamo'o) にて

基本的にハワイ語以外の外国語は、50分授業が週に2, 3回というスケジュールで組まれているらしいが、ハワイ語に関しては、ハワイ語学系の教員の働きかけにより、50分授業が月曜から金曜日までの5回で組まれるようになったそうである。ここでもハワイ語ネイティブスピーカー育成のためのスタッフの熱意が感じられた。

ハレ・クアモオには専任の教材作成担当職員がおり、ハワイ語を指導する教員と連携を組みながら、小学校から大学までのハワイ語イマージョン教育のための教材のほとんどを開発しているとのこと。もちろん優秀な人材も多く、他の学校からの職員の引き抜きもあるという裏事情まで耳にしたが、ヒロ校の方々はこのようなことも前向きにとらえており、優秀な人材が質の良い教材の普及に貢献するだろうし将来的には連携できる仲間が増えることになると期待しているようだった。

2日目の午後は、ハワイ島からオアフ島へ移動。ハワイ大学マノア校キャンパスにあるEast West Center近くのLincoln Hallに滞在し、今回の訪問調査のふたつ目の目的である、マノア校日本語学科において提供されている「ウチナーグチ」関連科目の情報収集のためのインタビューに備えた。



3日目の12月12日には、Lincoln Hallにてハワイ大学マノア校名誉教授の聖田京子先生と再会することができて光栄であった。先生に案内いただいて、東アジア言語文化学科のあるMoore Hallに向かった。

ハミルトン図書館や言語学科は以前に訪ねたことがあったので、この近辺は大変懐かしく感じられた。Moore Hallの教室では、現在日本語やウチナーグチを担当しているStewart Carry先生に初めてお目にかかり、聖田京子先生とStewart Carry先生から、マノア校のウチナーグチのプログラムについてお話を伺った。



ハワイ大学マノア校のJPN471: Okinawan Language and Culture「沖縄の言語と文化」とJPN472: Okinawan Language and Literature「沖縄の言語と文学」は、もちろん聖田京子先生が日本語学科の先生方とともに大変なご苦勞の末、2004年に開講した科目で、毎学期、履修希望者が定員以上殺到するほど人気があると聞きしている。聖田先生がハワイ大学を退職された後は、Carry先生が引き継いで両科目を担当されている。Carry先生によると、2019年春学期には、上記2科目に加えて新たなEALL197 Elementary Okinawanという科目が開設されるとのこと。EALL197はEast Asian Language and Literature (東アジア言語文学科)が提供する外国語の初級科目ということになる。EALL197とJPN471とJPN472との大きな違いは、後者が

日本語学科専攻の上級レベルの学生しか受講できなかった専門関連科目であるのに対し、前者は、(1)日本語学習歴がゼロの他専攻の学生でも受講可能(2)毎回50分で週に月・水・金の3回の授業が行われるという2点である。授業概要や到達目標などが大きく異なってくるので、より幅の広い学生のニーズにこたえることが可能になるだろう。Carry先生は、今後は他の外国語と同様にEALL197を2年間(4科目)のプログラムに拡大して、EALL197に続く科目の増設計画を検討しているという。指導上の課題としては、日本語学習歴がない学生には、ウチナーグチの文法用語などを日本語と比較しながら教えることができないため、文法概念を一から英語で説明する必要が出てくることだそう。今後は、英語によるウチナーグチの教科書が、このプログラムを通して開発されると大変興味深いと思った。

Carry先生は、ご自身のJPN471の指導案の一例を紹介してくださった。日本語専攻の4年生を対象としており、ウチナーグチの特徴(語彙、文法、文型、読解、文化背景)などを90分の週2回の授業で学んでいくのだが、新しい学習項目が紹介される回の授業の流れは以下のとおり。その次の回は、復習やエクササイズを行う授業となる。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 授業関連の告知 | 5. 本日のテーマについての説明 |
| 2. 前回の復習 | 6. 様々な例文やフレーズを用いた練習問題 |
| 3. 3～4問の復習クイズ | 7. 次回までの宿題の説明 |
| 4. 本日のテーマの概略 | 8. まとめ |

評価は、ほぼ毎回行うクイズ40%、沖縄の言語や文化に関する小グループプロジェクト(レポートとプレゼンテーションを含む)30%、そして期末テスト30%を基に最終成績が出される。シラバスについては、大学ホームページの関連箇所を参考文献として紹介する。

Carry先生の指導内容や方法は、聖田先生とは多少異なるかもしれないが、ヒロ校のハワイ語カリキュラムとマノア校のウチナーグチカリキュラムの共通点は、外国語学習において、言語の理解と文化・



価値観の理解が切り離されることがないということである。外国語学習のスタンダードが、5Cの概念を基礎として構築されているためであろう。5Cとは、Communication(コミュニケーション)、Culture(文化理解)、Connection(他者とのつながり)、Comparison(比較)、Community(地域・社会・世界とのつながりの形成)を意識した実践プログラムである。聖田先生は、現在ひと月に1日をボランティア

アにあて、午前と午後の2回のウチナーグチ講座を開催しているという。沖縄にルーツを持っている、あるいは琉球芸能を習っているという理由で受講する方が多いようである。ご年配の受講者も少なくないようで、生涯教育プログラムで学べるしまくとうば講座が、もしかすると沖縄移民の多い地域ではニーズがあるのかもしれない。

聖田先生は、地域でのウチナーグチ講座においても、5Cを実践されている。例えば、あるウチナーグチの表現を紹介すると、関連のある歌や料理など文化的な側面に触れ、実際に仲間と料理をする時間を持ち、ハワイや他地域の言語と文化と比較しながらさらに互いの文化理解を深めるといった具合である。このような一連の流れが、言語学習者の情意面でのつながりを形成していくのかもしれない。

聖田先生からは、大学の語学の授業において、毎回すべてのCを網羅した指導は難しいのであれば、無理せずに随所で、導入・実践可能なCの要素を増やしていく工夫をする努力が大切であるとのアドバイスをいただいた。文化理解を深めコミュニティとつながることで、語学学習は楽しいというポジティブ体験を育み、学生の学習意欲を向上させること工夫が大切なのだ。しまくとうば実践教育では、琉球芸能という大きな文化的要素Cultureが基盤となっているが、そこにプラスαのCのCommunity活動において、授業で学んだしまくとうばを使用してみることはできないだろうか。例えば、地域の保育園で「カチャーシー講座 Inしまくとうば」のようなことが実践できるようになると、ハワイのプーナナレオなどで行われているハワイ語イマージョン教育の体験学習のモデルに近づかないかと期待するところである。

参考文献

- 大原由美子・サフト、スコット(2014)「琉球諸語の継承を取り戻すーハワイ語復興運動の例から」
下地理則・ハインリッヒ、パトリック(編)『琉球諸語の保持を目指してー消滅危機言語をめぐる
議論と取り組み』ココ出版 160－190頁
<https://www.hawaii.edu/eall/wp-content/uploads/JPN-471-Syllabus-Fall-2017.pdf>
(アクセス日 2019年2月26日)
<https://www.hawaii.edu/eall/wp-content/uploads/JPN-472-Syllabus-Spring-2017.pdf>
(アクセス日 2019年2月26日)

6-3 ハワイ調査 ミーティング録

【1日目】日付：12月10日 場所：ハワイ大学ヒロ校

参加者：鈴木耕太、波照間永吉、高良則子、西岡敏、仲原穰、Keiki Kawai‘ae‘a (ハワイ語学部ディレクター)、Larry Kimura(准教授)、William Pila Wilson (教授)、Yumiko Ohara(准教授)、Scott Saft (准教授)

※ハワイ大学の教員名および肩書はハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部のHPを参照(2019年2月現在) URL【<http://hilo.hawaii.edu/catalog/hawaiian-studies.html>】

1. 沖縄県立芸術大学で行っている、しまくとうば実践教育事業の紹介

→下記の資料をハワイ語学部の教員に紹介した。

- ・2018年7月に放映されたテレビ番組「ウチナー紀聞」
- ・舞踊のしまくとうば解説書(サンプル)
- ・『授業で使える「しまくとうば」文例集』

2. 質問と回答

・ハワイ大学でフラを教える際に、副教材などは使用していますか。(鈴木)

→ハラウ(流派)によって言っていることが違い、1つにはまとまっていないのでそのような教

材は使用していません。(Keiki)

- ・「文例集」の文体について、教員と学生の使う文体が違うのはなぜですか。(ハワイ大学教員)
→最初は日本語を教える教材を参考に、教員と学生、両方の文を敬語にしていたのですが、組踊では目下は目上に敬語を使用するため、学生は敬語で、教員は普通体で話す文にしました。(仲原)
- ・ハワイ大学の初級のクラスでは、教員はどのくらいハワイ語を使用しますか。(鈴木)
→初級ではあまりハワイ語を使用していませんが、徐々に入れていき、2年目からは全てハワイ語になります。1年に2つの授業があるので、教員によっては、1つ目の授業の終盤や、2つ目の授業の始めあたりから、ほとんどハワイ語を使用しています。(大原)
- ・今回の調査の目的についてお話しします。前は、日本語の授業の中に、しまくとぅばをどのように取り入れていくかが調査の目的でした。今回は、大学や実技の授業での効果的な教え方、カリキュラム、教材、評価法などが調査の目的です。(鈴木、仲原、波照間)
→学生の中には、その言語に向いている人、向いていない人など、いろいろいると思います。なので、向いている人たちを伸ばして、言語教育の方に育てていけるともっと広がっていくと思います。芸術を専攻する学生であっても、言語に向いている人がいれば、その人たちをうまく育てて、芸術と言語を教えられる人にしていくという方法もあります。(Kimura)
→芸大での授業の様子や教材を見て、学生に見せることだけでなく、聞かせることが非常に大切なのではないかと感じました。例えば、小さい子どもたちに言葉を教える場合は、ハワイ語の歌や、似たような音を使った曲、短いお話を使用します。そうすると、子どもはもちろん、大人でも、聞きなれない音を繋げて、歌を作ったりゲームをしたりすることができるようになります。そのような方法を使うと効果的だと思います。ハワイ語も(しまくとぅばと日本語のように)、使用する音は英語より多いので、大人も子どもも、ハワイ語の歌や短いお話を繰り返して、音の違いを区別できるようになります。ですので、学生に「見せる」だけではなく、「聞かせる」ことに集中すれば、小さな音の違いも区別できるようになるのではないかと思います。(Keiki)
- ・この方法は、大学生になって初めてしまくとぅばに触れる学生にも効果的でしょうか。(高良)
→大学生にとっても、音の区別ができることは非常に大切だと思います。なので、歌やお話の内容は年齢によって変える必要がありますが、聞くことによって音を教えることは重要だと思います。ポスターなども活用して、見たり聞いたりして音を習得させると良いです。(Keiki)
- ・ハワイ大学で制作している、レベル別のハワイ語の教材は、大学でも活用可能でしょうか。(高良)
→ハワイ語で聞く、読む、話す、書くという4つの技能を伸ばす必要があるのですが、教材を使用するかどうかや、使用する教材は、授業を担当する教員が決めています。教員によっては、子ども用の教材を文型の分析用に使用することもあります。質問としてあげられた、ハワイ大学で作っている小さい絵本は、ハワイ語の正式な教材にはなっていないのですが、それらを使用する教員もいれば、新聞など他の教材を使う教員もいます。絵本などの教材は、その文章も絵も先生や学生が制作しています。大学で学生達が自ら教材を作ることにについては、その経験を通して、教室でのハワイ語の教え方や、言語の使用の研究に興味を持つ人を増やしていけるという点で効果的だと思います。(Keiki、Kimura)
- ・ハワイ語を全く学んだことがない人に対するカリキュラムはどうなっていますか。(西岡)
→まず、全くの初心者には「先生が言った音はこれ？」というふうに、学生に音の判断だけをさせています。(ハワイ大学教員)
→その言語を使って指導をする、あるいはその言語自体を教えるには、適切な時期と学生の種類があると思います。なので、それらを合わせることが役に立つのかもしれませんが、また、言語を見て、分析をすることができても、言語を聞くことや使うことができるとは限らないので、目的によって使い分ける必要があると思います。(Keiki)

- ・ハワイ語での創作活動の授業について教えてください。(西岡)
→授業は1つしかないが、学生達はハワイ語の歌や詩を作ったりしています。マノア校で発表会があり、その学生グループがヒロ校に来てパフォーマンスしたりしています。(Kimura)
- ・ハワイ語の検定試験について教えてください。(高良)
→学部の卒業試験にハワイ語での読み・書きの試験があるので、合格しないと学士の学位が取れないようになっていました。また、修士に入る前にもハワイ語の試験があります。(ハワイ大学教員)
- ・日本の英語検定のように、級が上がっていくようなハワイ語の検定試験もありますか。(波照間)
→アメリカで行われている外国人向けの英語の試験 (TOEFL) のようなハワイ語の試験は行っていません。先に述べたように、ハワイ大学のハワイ語プログラム卒業時や大学院受験時の評価の一つとして可否を表す試験は行っていますが、レベルを表すような試験ではありません。(ハワイ大学教員)
- 卒業時とハワイ語教員養成課程受験時のテストは、次の5つのセクションから構成されています。
 1. インタビューテスト: ACTFUL (全米外国語教育協会) によって開発された口頭運用能力を測定するテストを参考に作成している。
 2. ディクテーション: ハワイ語を母語とする年配の人の話を聞き取る。
 3. ライティング: ハワイ語でエッセイを書く。
 4. リーディング: 古いハワイ語の新聞を読んでそれを現代ハワイ語英語に訳す。また、内容に関する質問に答える。
 5. 翻訳: 英語の新聞記事をハワイ語に訳す。(ハワイ大学教員)
 このテストで、ある一定のレベルに達することが卒業及び大学院入学の条件となります。
(移動時間のためここでミーティング終了)

【2日目】日付: 2018年12月11日 場所: ハワイ大学ヒロ校

参加者: 鈴木耕太、波照間永吉、高良則子、西岡敏、仲原穰、大原由美子 (准教授)、Kekoa Harman (准教授)、Kamalani Johnson (ハワイ語カリキュラムディベロッパー)

1. ケコア先生のフラのクラスについて

まずヒロの歓迎のフラを披露して、その説明を行います。その後に質問に答えていきます。

〈フラを披露〉

ヒロのフラは、ハワイ語学部の名前にもなっているハワイの王女に、お客様がいらっしゃったことを歓迎するフラです。今行ったのは、古式のフラで、座って行うフラです。フラをするにしても、歌を歌うにしても、一番大切なのは、言語です。ハワイ語の歌の意味や、踊りの意味を理解することが大切です。ハワイ語学部のスローガンは、「言語が伝統と人間を繋ぐ」というものですが、言語を理解することによって、立ち方や行動、伝統や文化が理解できるようになります。言語を理解することによって、そういうことにアクセスできるようになります。言語を深く理解することが、学生に求められていることです。ただ頭で理解するだけでなく、心で理解することによって、体や言葉で表現することができますので、言語がとても大切です。

私のクラスはフラの1番上のクラスなので、学生を成長させることが私の責任です。言語をしっかり伝えて、深く理解させることによって学生は踊りを理解しますし、学生本人自体の在り方に深みが出てきます。学生やハワイを訪れる人の多くは、フラの音や形、表面上のことしか見ていません。ですが、フラにおいて一番大切で、基本となることは、歌の意味を理解することです。私のクラスでは、ハワイ語の歌詞の、表面上の意味だけでなく、言葉の深い意味を完璧に理解することを基本としています。その基礎を構築するために、言語に関するクイズ (筆記試

験)を週に1回行っています。ハワイには、言葉自体の力(マナ)がある、という考え方があります。ですので、歌を深く理解しないとマナを出せないという考えです。身に付けた言語を、歌だけでなく、スピーチなどに応用することができるよう、腹で、内臓で深く理解することを基礎としています。

- ・先生が基礎のクラスを教えることもありますか。(高良)
→いいえ、私が教えているのは、上のレベルのクラスになります。
- ・フラの基礎のクラスはどのように教えているのでしょうか。(鈴木)
→初級のクラスは大学では教えていませんが、子ども達に教えています。ナーワヒの子ども達ですので、ハワイ語がある程度わかるのですが、それでもハワイ語の深い意味を教えるため、言語のクイズを行っています。初級の子を教える際にも言語の大切さを強調する点は変わりません。ハワイ語がよくわかる学生に対しても、フラを通して言語の一面に光を当てる、フラを通して言語を深く学ぶ、という観点から教えています。
- ・クイズは単語ですか、それとも文ですか。(仲原)
→歌に出てくる単語や文型など、全てについてです。

〈期末試験のため、ここで大原先生は中座〉

2. 芸大のしまくとぅば実践授業について

ケコア先生に「ウチナー紀聞」を視聴して頂き、現在制作中の副教材について説明し、教材等についてご意見を伺った。

- ・フラを指導する際に、このような教材がありますか。(鈴木)
→フラのダンスに関しては、姿勢や動きを文字資料として記録に残すということができていないので、教師の動きを見てできる限り忠実にまねるとというのが指導の基本です。したがって授業は教師と学生間とのインターアクションで成り立っています。そして評価は、言語に関するテストと、身体や声の使い方の能力といった実技の観察をもとに行います。
- ・「しなぬ なーかんかい あし いってい…」の表現とイラストを例に、我々の教材について説明し、感想を求めた。
→動きを視覚化するということはとても大切だと思います。特にフラに関しては、その動きの多くは自然の現象を表現しているので、指導する際には単に言葉で説明するだけではなく、実際の木の動き方などを注意深く観察して真似してみることも重要です。学生にもできるだけ外に出て自然を観察するように言っています。
- 前回の訪問の際に、実際に(比嘉先生の)踊りを見て感動したのを覚えています、その時、動きや基本姿勢にはユニバーサル(普遍的)なものがあると思いました。フラにも基本姿勢というのがあります。慣れていない学生に理解させるのは大変です。
- ・基本姿勢に関する教材をここで提示して説明した。
→フラでも基本姿勢を保つことがとても大切です。でも実際には様々な流派が存在していて、流派によってはこの基本姿勢が変化しているところもあります。他流派の学生を指導する際には注意が必要です。伝統的な姿勢をしっかりと伝えることが非常に重要です。
- ・芸大の副教材についての感想。
→このような視覚化するという作業はとても大切です。実際にどのようなプロセスで行われたのか紹介していただいて、私の研究にも参考になります。現在、博士論文に取り組んでいるのですが、そこでは動きの視覚的イメージと言語の関係について分析を試みています。言葉の意味とそれに対応する具体的な動きについて学生にもっとうまく説明できるようにしたいのです。フラの様々な動きを造ってきたのは、流ちょうなハワイ語の話せるハワイ語の

ネイティブスピーカーで、そこには彼らならではのもののとらえ方や考え方があったはずですが、どうしてこのような動きが作られたのか、ハワイ語の観点から理解したいのです。実はハワイ語を理解しないでダンスを創作する人もいますが、それぞれの単語に動きを充てて、それを組み合わせてフラを作るという行為は、伝統的な創作方法ではありません。伝統的なダンスはもっとシンプルだけど繊細な動きでできているのです。そこで重要となってくるのが基本姿勢なのです。つまり身体の扱い方や存在感のある表情などです。言語の復興活動においては、言葉を使うということと同時に、このような言語の意味の視覚化も重要だと思います。先人からある知識が伝承される時、それは見たり聞いたりして伝承されるのですが、記録化されていないこともあります。伝統を守るためにも、言語や視覚的イメージで記録を残すことは大切です。私の研究では、動きを記録するためにビデオや写真を使用していますが、どのような形で記録を残すことは次の世代のためになると思います。

〈移動時間により、ここでHale Kuamo'oへ移動〉

3. Johnson氏への質問と回答

- ・大学のカリキュラムを教えてください。(鈴木)
 - 長い間ハワイ語教育において、教科書はありませんでした。今は学部1年生用に前期・後期1冊ずつ、合計2冊の本があります。2年生用の本もありますが、まだ編集のため、本の形にはなっていません。3年生・4年生になると教科書はありません。3年生までにはハワイ語を使ったコミュニケーションスキルが習得できているので、1800年代からのハワイ語の新聞を教材として使用します。ハワイ語の教科書はほかにもありますが、「Nā Kai 'Ewalu」が一番新しい教科書です。
- ・ハワイ語学部以外の学生がハワイ語を学びたいときも、この教科書を使用しているのですか。(鈴木)
 - そうです。初めてハワイ語を学習する学生向けに、「ハワイ語101」と「ハワイ語102」の授業を開講しています。ハワイ語を専攻する学生よりもゆっくと進めていきますが、教科書は同じです。ナカエバルという教科書はヒロ校のみで販売していますが、学外の方も購入して、ハワイ語の学習に使用しています。UHのほかのキャンパスやイマージョンスクールでもこの教科書が使用されるようになってきています。
- ・どのくらいの期間をかけてこの教科書を作成されたのでしょうか。(高良)
 - この教科書は20年くらいかけて作成されました。2012年頃からこの教科書を使っています。その前はせん綴じのプリント資料を長い間使っていました。可能な限り完成形に近いものになるまで出版は待っていたのです。
- ・教科書の内容はどのようなものですか。(鈴木・高良)
 - 1年で学ぶ語彙数は2000語ぐらいですが、たくさん問題を解かせています。各章に語彙と短文があり、その後に「動詞の構造」のような文法項目が提示され、それに関する練習問題があります。また、その語彙や文が実際の場面でどのように使用されるかという文化的な面も必ず取り入れています。章の多くはストーリーを中心にしており、そのストーリーは新聞の記事やハワイ語母語話者から聞いた実話を基にしています。フィクションといった物語よりも、学生たちが実際に使えるようにするために、自分たちの生活や文化に関係する、より現実的な話を教材にしています。
- ・1年生にとって母語話者の話を理解するのは大変ではないでしょうか。(高良)
 - 書かれている文を読むという点については、それほど難しいと思います。1年生にとって難しいのは、発音のイントネーションです。母語話者の会話のスピードが速いため、それを聞き取る方が大変なようです。
- ・ハワイ語の教科書販売のパンフレットにはたくさん本が載っていましたが、どのようなもの

ですか。(西岡)

→絵本もありますが、Hale Kuamo'oでは子どもから大学生まで、様々な学習者を対象としてカリキュラムを開発しています。年月が経つとともに本のデザインは変わってきていますが、多様な場所でこれらの本を使用できるようにしています。「キャウナニ」という語彙に特化した本もあります。1000語の語彙を収録しており、教室、あるいは遊び場といった場面ごとにまとめられた単語にはイラストが添えられています。ハカ・ウラ(教科書?)は、新聞の記事を基にしています。大学での授業ではこのような専門的な教材を使用します。

・これは何年生のどのクラスで使用していますか。(高良)

→4年生のリーディングで使用します。

・1年生のレベルをどのように引き上げますか

→最初の学年のゴールは、ハワイ語の基礎を固めることです。まず4つの基本的な文型をマスターすることが大切です。1年生の前学期は英語も入っていますが、後期からは英語を減らし、ハワイ語を増やしていきます。2年生からは全てハワイ語になり、英語を全く使わずに授業を行います。教員にとっても大変な授業になっていきます。2年生の始めの3、4週間は、ハワイ語を聞き取ることが大変ですが、1年生の時に身に付けた基礎や言語の分析能力を使用します。例えば、授業で使用するハワイ語の語彙がわからなくても、その語彙が使用されている文脈を通して意味を推測・分析できるようになります。

・1年生と2年生の1週間のハワイ語の授業数はどのくらいですか。(高良)

→ハワイ語は毎週50分、月曜日から金曜日までの5日間です。ですが、ハワイ語以外の外国語の授業は毎週2回や3回です。以前はハワイ語の授業も週に2、3回でしたが、ハワイ語をネイティブレベルで使えるようになるためにはもっと授業時間が必要だという理由で、ハワイ語学部の教員達が学校側と交渉し、授業を毎日行えるようになりました。

・小学校1、2年生の教科書を見せて頂けますか。(波照間)

→プーナナレオからHakalama(ハワイ語の文字表)を使ってハワイ語の文字や読み方を教えています。ハカラマさえ覚えれば、子供たちはどんな絵本でも読むことができるようになります。ですので、小学生用のそのレベルの教科書はありません。学校によって指導の仕方也不一样しますので標準教科書のようなものではありませんが、リテラシーへの第一歩としてほとんどの学校がハカラマを活用しています。「Hakalama」のボードやカードを使い、ハワイ語の音になれさせ、子ども達が単語を作れるようにしていきます。

〈時間の都合によりここでミーティング終了〉

【3日目】日付：2018年12月12日 場所：The East-West Center(東西センター)

参加者：鈴木耕太、波照間永吉、高良則子、西岡敏、仲原穰、聖田京子(ハワイ大学マノア校名誉教授)、Stewart Curry(マノア校講師)、

※ノイズで音声不明瞭なところや音声聞き取れなかったところは省いている。

1. 参加者の自己紹介

・ナカソネ(旧姓)・ヨウコさん、コザ市出身。両親は移民として沖縄からハワイへ移った。「がじまる会」のメンバー

・ハタ(旧姓コミ)・ミヨコさん、竹富出身、高校卒業後ハワイ大学に進学のため渡米した。ハワイ州の小学校の先生を32年間務めた。「がじまる会」のメンバー。

・Stewart Curry(カーリー先生)、ハワイ大学マノア校の講師。

※聖田先生、芸大メンバーの紹介は省略。

2. ハワイ大学の沖縄語の授業について

〈参加者全員で、授業のビデオや配布資料を見て授業の進め方やカリキュラムを確認した。〉

- ・授業のビデオが見えにくかったので、実際に授業で行っている内容を紹介します。(Curry)

今回から沖縄に関する授業を1つ増やし、前期に2つ、後期に1つ(?)、合計3つの授業を行います。これまでは、471と472という、日本語の背景知識がある学生向けの授業を行っていました。今回は、それに加えて、Carry先生が「197」という、日本語の知識を必要としない授業を作りました。(Carry、聖田)

- ・何を読んで何をしてくるという具体的な指示をたくさん出しています。(Carry)
- ・シラバスの中には試験の評価法も記載しています。(聖田)
- ・今年は18名の学生が受講しています。日本語専攻は最低10名の学生を受け入れるようにしています。(Carry)
- ・「197」は日本語の知識がない人、日本語を専攻していない人でも受講できるようになっています。数字の1から始まる授業は専門性が高くないので、毎学期の受講者が多く、日本語の授業も(専門知識を必要としない)、1から始まる授業を作るべきだということで、今回初めて開講することになりました。(聖田)
- ・これからもっと多くの授業を作っていく予定ですが、博士号を持っていて沖縄語を教えられる人材がなかなかいませんので、教員を探すのが大変です。(Carry、聖田)

3. 質問と回答

- ・「197」についてもう少し教えて頂けますか。(高良)

→これまでは沖縄語・日本語の授業は4年生のみに提供されていたため、「197」をきっかけに、他の外国語と同じように2年間のプログラムにできるようにしたいと思っています。まず発音から教えないといけないので、たくさんすることはできないと思うのですが、自己紹介や動詞、形容詞などを教えていく予定です。(Carry)

- ・教科書や教材など、どのようなものを使っていますか。(西岡)

→教材はあまり多くないのですが、崎原貢さんや狩俣先生の作った本の英語版を使用したり、日本語の教材を英語に書き直したりしながら使用しています。「197」を受講した学生の中には、日本語を全く知らない学生もいたので、沖縄語に入る前に、日本語から教えていく必要がありました。その点では、471を受講する学生は日本語の知識があるので沖縄語を教えやすいと思います。(Carry)

- ・「197」を受講した学生が、沖縄語よりも日本語に興味を持ち、日本語の授業を取る可能性も考えられますか。(仲原)

→その可能性もあります。(Carry)

〈実際に「197」で使用している教材を確認した。〉

- ・崎原さんの作成した本(?)を使っていく中で、困ることはありませんか。(聖田)

→教科書の音声表記に関して、英語のスペルを想像して発音すると、音が変わってきてしまうので、そこが少し問題だと思います。英語を母語とする学生に沖縄語を教えるのと、日本語を母語とする学生に沖縄語を教えるのとでは、教え方がまた少し変わってくると思います。(Carry)

- ・オキナワン・リソース・センターに、大城朋子先生と一緒に作った「チャンプルー・ハンドブック」という教材も載せていますので、ぜひご覧になってみてください。(聖田)

〈Carry先生は時間の都合によりここまでの参加〉

4. 芸大でのしまくとぅば実践教育事業の進捗を報告

〈2018年7月に放映された「ウチナー紀聞」を聖田先生に視聴してもらった。〉

- ・語学の授業で学んだことに加えて、実際の実技の授業でよく使われている言葉を、実技の先生たちと一緒に検討して、言葉を取り入れていくことが重要だと思います。実技の先生たちが、どんなことを期待しているのか、目的が何なのかを、語学の先生と共有する必要があります。言葉を教える際に、前回お会いした時にお話した5Cの点から考えるといろんな教え方ができると思います。例えば、文化としては、どうしてだろうということまで考えるとクリティカル・シンキングができます。コネクションとしては、歌と繋げるという方法もあります。コンパリソンとしては、他国の文化や言語と比べるといいと思います。コミュニティとしては、劇の鑑賞や、コミュニティが何かするとそれをアプリシエイトするといいいと思います。この中から、実際に実現できるところをやっていくと、効果的だと思います。(聖田)

〈芸大で作成している解説書・文例集について〉

- ・舞踊を教えるのに使う言葉について、学生は、うちなーぐちの構文がわからないと理解できないと思います。これを効果的に使うには、実際に踊りの先生がこの文を言いながら動作で示していく、TPRがいいかと思います。学生は言えなくても、聞けるようになれば、うちなーぐちを理解できるようになります。言語の先生と実技の先生が協力することによって、授業で使ううちなーぐちを、学生がもっとよく理解できるようになると思います。実技の先生と言語の先生とで、お互いの交流があればすごくうまくいくと思います。(聖田)
- ・文例集については、とてもいいと思います。芸大が率先して授業で使えるうちなーぐちを実践していくのは、チャレンジングですね。実技の授業で専門的な用語を学んで、語学の授業でこのような一般的な言葉を学ぶのは、とても素晴らしいです。私は地域の人々にうちなーぐちを教える時に、沖縄の歌や三線の話をするようにしています。カルチャーとコミュニティと、コミュニケーションをつなげることが大事だと思います。今度は、このうちなーぐちを使って、学生達がカチャーシーなどの沖縄の芸能を教えられるようになるといいですね。(聖田)

〈ミーティング時間終了のため音声ここまで〉

7 「誇らしゃ しまくとぅば」講演会概要

平成30年7月13日と11月9日に「誇らしゃ しまくとぅば」というテーマで琉球芸能の第一人者である先生方に、しまくとぅばで芸談をお話しいただいた。これは、戦前から戦後にかけて活躍された琉球芸能の先人たちから、しまくとぅばで教えを受けた人々から「しまくとぅば」でしか伝える事の出来ない琉球芸能の特徴を、しまくとぅば独特の語り口とともに感じてもらおうと企画したものである。

各講演に先立ち、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の学生達による幕開けの芸能を上演した後、第2部でそれぞれの講師に「琉球音楽に息づく しまくとぅば」「組踊に息づく しまくとぅば」という演題でお話をいただいた。

照喜名朝一先生の回は、聞き手に金城裕幸氏をお招きして、照喜名朝一先生の芸能人生を戦前から振り返りながら、幼少の頃の遊びや、青年時代(琉球政府時代)のご自身お仕事の様子、そして宮里春行先生との出会いから、その独特な指導方法まで語っていただいた。金城氏の手際の良い合いの手も好評で、終始和やかな雰囲気 of 講演会となった。

4回目は組踊立方の眞境名正憲先生にご登壇いただいた。しまくとぅばと一部、共通語を織り交ぜながら、戦前の疎開の様子、戦後の沖縄の状況、組踊の稽古、そして組踊のこれからの展望まで、しまくとぅばで熱く語って頂いた。なかでも戦前の疎開先での出来事、軍隊教練のようすは共通語のみでお話されており、前後で語られたしまくとぅばのお話とコントラストが取られており、聴衆にもわかりやすい内容であったと感じた。

今年度は地謡・立方というより専門的な立場の第一人者から、稽古の時のしまくとぅばの事例などを聞くことができた。もちろん、芸能の内容だけでなく話者本人の経験などをお話しする際に、「しまくとぅば」の魅力を存分に伝える事ができた講演会となった。各講演会の詳細情報は以下に記す。

第3回 芸能から受け継ぐ「誇らしやしまくとうば」

実施日：平成30年7月13日(金) 18時30分開場・19時開演

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

講師：照喜名朝一（聞き手：金城裕幸）

演題：「琉球音楽に息づくしまくとうば」

講師略歴：琉球古典安富祖流音楽研究朝一会 総帥。

1932年沖縄県南城市知念知名生まれ。幼少の頃から三線を親しみ、25歳から本格的に古典音楽を学びはじめ、安富祖流師範宮里春行に師事。沖縄県内新聞社主催のコンクール入賞を経て79年日本国文化庁主催音楽部門優秀賞受賞。83年松尾芸能振興財団第四回松尾芸能賞民族音楽特別賞受賞。94年より安富祖流絃聲会会長を6年間務める。2000年沖縄の芸能部門で初めて(琉球古典音楽)で重要無形文化財各個(人間国宝)に設定。18年、琉球古典音楽安富祖流絃聲会より同会名誉会長の称号を受ける。

県内外や海外で指導・演奏を行い、世界に琉球芸能を紹介している。また、後継者育成にも力を入れ創作活動にも意欲的に取り組んでいる。

第1部：1、語り組踊「二童敵討」～別れの場～

2、組踊抜粋舞踊「波平大主道行口説」

出演者：語り組踊「二童敵討」

あまおへ 仲嶺伸吾(教授)、母親 阿嘉修(准教授)、

鶴松 伊波留依、亀千代 高里風花、

波平大主道行口説 踊り 上原崇弘

地謡：歌三線 仲嶺良盛、棚原健太、佐久本純、笛 入嵩西諭(非常勤講師)、

太鼓 下地心一郎

第3回 講演会チラシ

第3回 講演会

平成30年度沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業

芸能から受け継ぐ「誇らしやしまくとうば」

琉球音楽にまつわる「しまくとうば」について
解説を交えてお届けします。



演題：琉球音楽に息づくしまくとうば
講師：照喜名朝一（国指定重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者）
聞き手：金城裕幸（沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻OB）

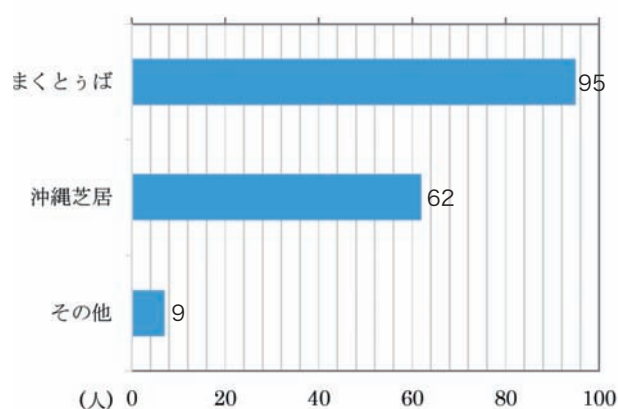
幕あけ 1、語り組踊「二童敵討」～別れの場～
2、組踊抜粋舞踊「波平大主道行口説」
出演：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻 教員、学生

日時 平成30年7月13日(金) 19時開演（18時30分開場、21時終演予定）
場所 沖縄県立芸術大学 奏楽堂
加那利市首里当蔵町1-4
主催 沖縄県立芸術大学附属研究所
問い合わせ ☎098-882-5615
※当日先着入場、整理券は発行致しません
※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい

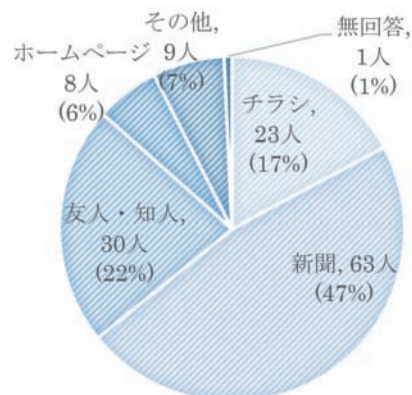
無料
先着250席

〈表面〉

●興味のある内容（複数選択可）

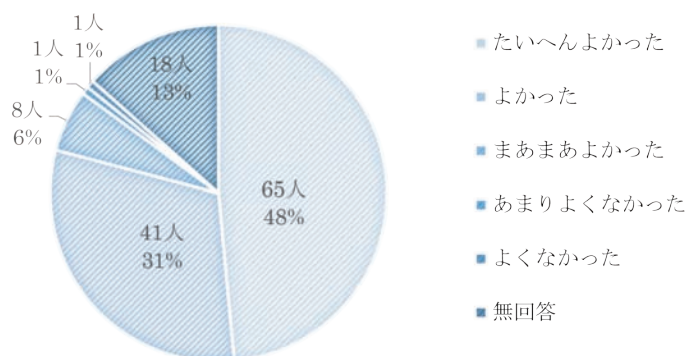


2. この講演会を知ったきっかけ

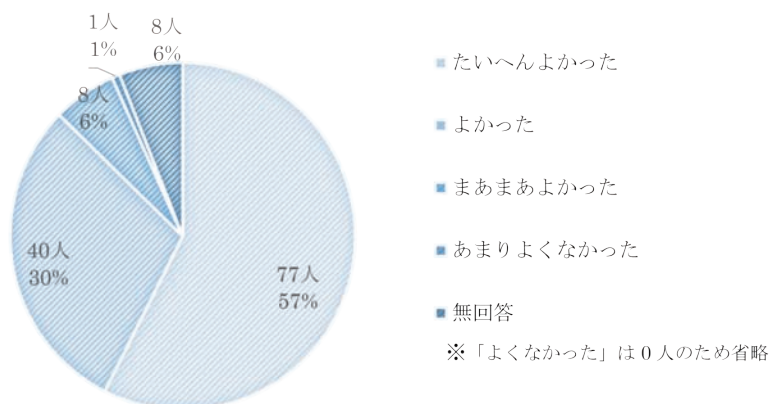


3. 今回の講演会について

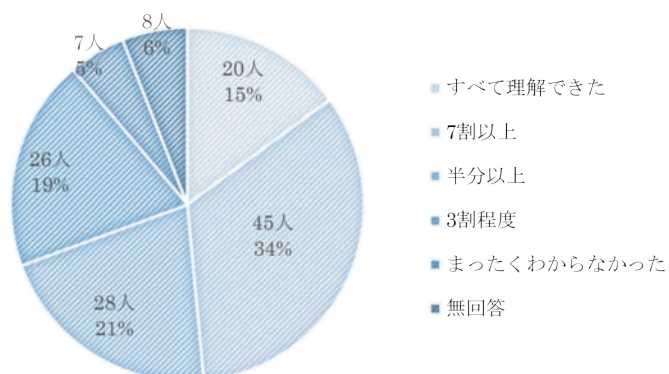
(1) 本日の講演はいかがでしたか？



(2) 琉球芸能専攻による幕開けはいかがでしたか？



(3) 本日使用されたしまくとうばはどの程度理解できましたか？



4. 特に面白かった・興味深かった内容や、次回への要望等がありましたらお書きください。

- ・幕が上がって先生が三線を持っていないのにおどろきました。先生のお話を聞いていまして島くとぅばはここまでむつかしくなったのだとあらためておどろいています。とっても残念だった事、先生の歌せめて1曲はおききたかったです。
- ・琉球芸能専攻の幕開けすごかつよかったです。朝一先生の話、きけないことがたくさんきけてよかったです。半分くらいしか理解できなかったの、ちゃんときけるようになりたいです。
- ・まだまだ聞きたいです。ありがとうございました。
- ・幕開けの「語り組踊」は、以前から組踊は聴くものと言われていたので所作がない分、より「聴く」ものとしての語りと音曲を鑑賞できたと思う。
- ・久しぶりに三線の音色を楽しめた。「波平大主…」は「高平良万歳」と違う味わいがあり、観る機会も少ないので観られてよかった。踊り手の体軀、唱えもよかった。
- ・良い企画だと思う。様々なお話が聴けて良かった。
- ・照喜名さんの歌声すばらしいです。
- ・語り組踊という形式で拝見するのは初めてでしたので、とても新鮮でした。動きを思いうかべながら聞く感じが楽しかったです。仲嶺氏のあまおへは、迫力があってすばらしいです。また上原崇弘氏の舞踊もすばらしかったです。第二部では、貴重な照喜名先生の言葉を、たくみに引き出してくださった金城氏のしまくとぅばも安定感があって大変頼もしかったです。見習いたいものです。
- ・古典音楽と舞踊を交えてウチナーグチで説明してほしい。
- ・名護在住7年半ですが、「しまくとぅば」は1割しかわからなかった。もう少し標準語で訳してほしい。2人のやりとりで理解しようとしたが、あまりわからなかった。第1回、第2回の方が楽しめたような気がします。
- ・親心からか、しまくとぅばに触れる機会がなかったので、勉強中です。最近おぼえたくとぅばは「ちむふがん」です。がんばりましょう。
- ・「語り組踊」初めて鑑賞しました。大変すばらしかったです。ありがとうございます。話の内容がわかるような何かがあればいいなと思いました。チラシにも解説を交えて、と書いていたのですが……。
- ・聞こえがよくないので、声が聞き取りにくく、3割ぐらい理解できた。補聴器を忘れたので残念に思いました。
- ・照喜名先生のしまくとぅば、体験談を交えて大変興味深く、為になりました。今後共よろしくご指導ください。
- ・照喜名先生の心豊かなしまくとぅばのおしえて、改めて沖縄の言葉のすばらしさを感じることができました。ありがとうございます。
- ・会話だけでなく、三線があれば具体的にスムーズな話ができただけでは。
- ・幕開けは歌三線が感情にうったえるようでよかった。マクトゥー？ナカトゥー？心に残る言葉が多かった。よかったです。
- ・トークショーとても興味ありました。うちなーぐちは、くがに言葉。とても感銘うけました。
- ・島ことばはプロデュースすることはむつかしいと思いますが、いろんな機会積極的に発信することが大切ですね。古典音楽の歌詞を読むのが好きなので、よい機会でした。
- ・対談で金城さんがいろいろ話を聞き出していく形式はよかった。話が広がったり、また、脱線した話を元に戻したりと、興味深い進行と話の内容でした。
- ・ハワイの2世の方が島言葉上手だということ。
- ・うた三線 うどへん むる いぬむいやー うむいーたん。いっぺーにふえーでーびたん
- ・ちゅーや いっぺー 唄三線のあい一方や 勉強ないびーたん
- ・ウチナー芝居の役者さんに昔の思い出話を語ってもらうのも面白そうです。
- ・「しまくとぅば」の講演がいかに難しいことか感じました。「しまくとぅば」でどう表現するか改めて思い

ました。

- ・朝一先生の三線歌も聞きたかったです。
- ・アンケートの「興味のある内容」の選択欄に「琉球古典音楽・組踊」の項目があるとよかった。(今回の講師が照喜名先生なら特に…)
- ・金城さんが聞き出し上手で大変良かったです。
- ・幕開けは訳などを資料としてもらえるといいと思います。照喜名先生のお話は日本語をまじえてもいいと思います。
- ・しまくとうばを知らない人でも講話の内容がわかるようにしていただければいいなと思いました。
- ・照喜名先生の人柄がわかったようで面白かった。欲を言えば、歌三線を披露して頂けると良かったと思う。しまくとうばの大切さがよくわかった。
- ・語り組踊二童敵討のあまわりの迫力が大変すばらしかった。また三線の手様が大変美しかった。若いのに伝統をきちんと伝えていることに感心した。踊りもキレがあつて大変良かった。とばしな、ぬしかいわ、わかいじん、ゆしじん等、おもしろい言葉を習うことができて良かったです
- ・とっても楽しく聞かせて頂きました。ありがとうございました。
- ・芸大生の芸はよかった。照喜名朝一は話の筋がなっていない。年齢のせいかな。
- ・あまおへがよかった。聞き手の金城さんのやわらかさ、笑顔も併せて照喜名先生のトークよかった。言葉を聞くことにより、方言もきこえる、わかるようになるのかなあと考えた。幕開けのあまおへがかっこいい。このイベントの素晴らしさを感じた。学生の声が小さかった。トークが楽しかった。照喜名先生がお元気なうちにこのイベントの企画があつて良かったと思います。
- ・照喜名先生の飾らぬお人柄、感銘致しました。お元気での長命、そして数多くお目にかかることを希望してやみません。このようなイベントを、そして一般の人々がもっと参加できるようにしてください。
- ・年齢の違う二人さんの会話、朝一先生の若者に合わず心意気が見事でした。ありがとうございました。
- ・ステキな朝一先生、すごく楽しかったです。
- ・学生による語りや、踊りに感心、力強く、声も美しく、とても素晴らしく、見ごたえ聞きごたえがありました。無料で見られるなんて信じられませんでした。ありがとうございました。
- ・「仲風」の由来を調べてみたい。
- ・波平大主のとっても細かい動き、また発音・発声の強弱とてもよかった。方言でうたう、声の出し方等の講演よかった。琉歌・組踊の歌の上下などについて習いたいです。
- ・照喜名先生のしまくとうばの会話の時間が面白かったです。先生の人柄が見えて、朝一先生が好きになりました。また先生の黄金言葉覚えたいと思います。ありがとうございました。
- ・キューナ神事古謡に関すること、おもしろそうし、神歌などについてしまくとうばで講演してほしい
- ・長すぎた。司会のせい。締めりがなかった。「語り組踊」を無声映像を流して弁士の役割を与えて、サイドか中央でスクリーンに「組踊」を上映したら如何？
- ・自分自身を情けなく思った。しまくとうばを話せなくても聞くことはできると思っていたのに、全くと言っていいほど意味がわからなかった。特に若い学生達があんなに真剣にやっているというのに。これからでも遅くない、しまくとうばを少しでも話せるように練習したい。次回からも必ず参観させていただきます。意味は理解できずとも深く感動しました。
- ・若い人にも興味をもってもらえるとうれしいな—と思いますが…。吟使いの部分は三線を習っている私にとってとってもためになりました！
- ・幕開けの太鼓がうまかった。ナイチャーなので3〜1割程度しかわからなかった。空調が効きすぎて寒かった。先生の歌も一曲聞かせてもらいたかった。
- ・朝一先生のお話がとても楽しかった。
- ・語りの二童がききづらい。舞踊は良かったです。女性には向かないのではと感じます。学生さんには悪いのですが。講演に関しては、ほとんど解せませんが、聞けるようにになりたいです。お人柄は感じられました。

- ・歌三線のコツを釣りに例えたりして面白かった。沖縄の独特の発音の重要さ（耳をきたえる）、世界的に誇れるしまくとぅばの大切さを伝えて下さいましてありがとうございました。
- ・①組踊の朗読は意味不明。日本語テロップを工夫してほしい。②教室の発表を一般の人に見てもらい意味・意義を再検討して頂きたい。「一般の理解者を増やす」ことも県立芸大の学生、芸大として考えるべきではないですか？③照喜名先生の語りはとても面白かった。わかりやすいお話でした。金城さんの司会、話の引き出し方はうまい。
- ・しまくとぅばを解しませんが、内容は半分くらいわかりました。
- ・ありがとうございました。伝統はしっかり引き継がねばいけないと思います。内地から来ましたが感動しました。機会があればまた見たいと思いました。沖縄ことば、むずかしい！
- ・芸大の皆さんよく頑張ってますね。これからも沖縄の伝統文化を伝えていってくださいね。金城さんが使っていた、「将来の夢」をうちなーぐちで「いみ」と言うんでしょうか？「いみ」は眠っているときの「夢」だけを言うんじゃないでしょうか。
- ・チンダミの話、各地域の呼名でよかった。各島々の方言の演劇の紹介もしてほしい。
- ・琉球舞踊・歌三線・組踊のしまくとぅばは、首里くとぅばに近いのですか？一般的にしゃべる方言は理解できるのですが、今回はもっと違った方向からの講演を希望します。
- ・しまくとぅばの中にもいろいろ教訓があり、有益であった。仲風の意味も再確認したい。
- ・大変いいイベントだと思う。今後ともうちなーぐちを伝えるためいろいろやってほしい。
- ・照喜名先生の演奏があるだろうと期待していました。一曲だけでも聞きたかった。
- ・単語は半分程度だが、話の流れは概ね理解できた。幕開けの語り組踊&組踊抜粋舞踊も大変よかった。若手の皆さんが郷土芸能に打ち込み、高め合っているのを感じた。同様の公開講座や発表会があれば拝聴したい。しまくとぅばの大切さ、誇りを改めて教えて頂いた。県内でも数種類あるが、地域の方言を大切にしていきたい。きゅうや たんでいがー たんでい。
- ・「語り組踊」は初めて拝見した。朗読会（語り・となえ）の練習の雰囲気は想像できたが、となえの内容は十分には理解できず、残念。解説的な資料が工夫できればと思った次第。照喜名先生のうちなーぐちのトーク、人柄そのものがにじんでとてもチチグトゥデービタン。
- ・良い企画でした。ありがとうございました。
- ・いろいろな業界の方のお話をしまくとぅばで聞きたい。週末（土日）に開催してもらえるとありがたい
- ・地謡の皆さん声が伸び伸びととてもよかった。語り組踊は初めてのことで新鮮でした。踊りもひとつはほしかったですね。照喜名先生、小さいころのエピソードやユーモアをまじえていてよかった。発声の仕方など、わかりやすい説明だった。よかった。
- ・朝一先生の話の内容は大変よかった。「ウチナーグチを残そうと思ったら、孫に教えなさい」という当たり前のことだがなかなかできないこと。長年の体験に裏打ちされた話がよかった。「ウチナーグチは世界に通じる」、「ウチナーグチはすべて黄金言葉」まさにその通り。「仲風」の説明が印象的だった。
- ・組踊の朗読は初めて聞きましたが、普段の組踊より所作がくっきり見える気がした。新鮮でとても良い企画だと思います。今後朗読会を上演してほしいです。ウチナーグチでのお二人のトークもイッペー上等ヤイビタン。ニフェデービタン。お二人の先生のウチナーグチ、とてもあったかくてよかったです。
- ・とても楽しかった。語り組踊初めてでしたが興味深く聞けた。照喜名先生の三線に対する思いはすばらしい。
- ・聞き手がいるのはいいと思った。稽古の仕方や昔の様子が知れるのは嬉しい。大きい先生がどんな思いを持っているのか知れて勉強になった。語り組踊なら字幕があっても良い。
- ・宮里春行先生の教え方、楽しく聴きました。三線の稽古はしていませんが、年老いてからは弟子には若いころのテープをあげて、稽古をするように指導したとのこと。
- ・語り組踊は初めて聴きましたが、踊りがない分、となえや三線に集中できて、組踊は観るのではなく聴くものだと思います。よかったです。照喜名先生の講演は、ユーモアまじりでとても楽しかったです。同じしまくとぅばでも、出身地によって違うのですね。先生のお人柄がよく見えて、感じて、楽しい時

間でした。しまくとうばはよくわかりませんが、わかるようにもっと勉強したいと思いました。ありがとうございました！

- ・琉歌の中のことばをわかりやすく教えてほしい。
- ・語り組踊をはじめて観ました。唄の中のしまくとうば（歌詞）は理解することはできません（聞けません）でしたが、組踊の場面を思い起こしながら、となえを楽しむことができました。想像力を駆使し、組踊を聴くことを楽しめました。
- ・ハチマチのひも、正しいのは耳の前か耳の後ろか。県博では耳の後ろであるが、宮里朝光先生の講演では耳の後ろとありました。音楽の世界では決め事があるのでしょうか。
- ・字幕の付いたビデオでもう一度聴きたいです。
- ・釣りの話、どうなることかと思ったら、歌い方の話だったのが興味深かった。
- ・語り組踊を見るのははじめてだったが、動きがないぶん、とてもセリフや歌がしみじみと聞けてよかった。照喜名先生の含蓄のあるお話し、大変面白く聞かせていただきいつペーにふえーでーびる。
- ・三線については、若い人たちが正座して古典音楽をかなでているのは、力強く感じました。内容についてはわかりにくい。
- ・手短な訳を挟みながら進行したらよかった。朝一氏のうた三線も聞きたかった。しまくとうばの表現の豊かさを知りました。

第4回 芸能から受け継ぐ「誇らしや しまくとうば」

実施日：平成30年11月9日（金） 18時30分開場・19時開演

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

講師：眞境名正憲

演題：「組踊に息づく しまくとうば」

講師略歴：1956年琉球大学在学中に阿波連本啓、後に眞境名由康に師事し組踊と琉球舞踊を学ぶ。2016年「旭日双光章」。沖縄県「文化功労者表彰」、沖縄タイムス芸術選賞「琉舞大賞」受賞。

眞境名由康組踊会長・宗家眞境名本流眞薫会会長・男性舞踊家「飛輪の会」会長・沖縄県ユネスコ協会副会長・伝統組踊保存会会長・沖縄県立芸術大学客員教授

第1部：組踊「女物狂」

出演者：盗人 下地心一郎、母 仲嶺夕理彩、亀松 宮崎花澄、座主 上原崇弘、小僧（一）仲嶺良盛、小僧（二）神谷武史（講師）、童（一）石嶺李安、童（二）金盛里穂、童（三）仲宗根朝子、後見 阿嘉修（准教授）

地謡：歌三線 仲嶺伸吾（教授）、仲村逸夫（非常勤講師）、棚原健太、加屋本 真士、箏 太田いずみ、笛 入嵩西諭（非常勤講師）、太鼓 久志大樹（非常勤講師）

第4回 講演会チラシ

第4回
講演会

平成30年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業

芸能から受け継ぐ「誇るひと ひとまゝとぅば」

組踊にまつわる「ひとまゝとぅば」について
解説を交えてお届けします。



演 題：組踊に息づくしまくとぅば
講 師：眞境名 正憲 (重要無形文化財「組踊」保持者)

組踊「女物狂」
講演に先かけ、玉城朝薫の名作の中から琉球芸能専攻の教員、学生により
上演いたします。

日 時 平成30年11月9日(金) 19時開演 (18時30分開場、21時終演予定)
場 所 沖縄県立芸術大学 奏楽堂
那覇市首里当麻町1-4
主 催 沖縄県立芸術大学附属研究所
問い合わせ ☎098-882-5615
※当日失着入場、整理券は発行致しません
※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

無料
先着250席

〈表面〉

ま じ な せいけん
眞境名 正憲
(重要無形文化財「組踊」保持者)

講師略歴
1956年琉球大学在学中に阿波連本啓、後に眞境名由康に師事し組踊と琉球舞踊を学ぶ。2016年「旭日及光章」。沖縄県「文化功労者表彰」、沖縄タイムス芸術選賞「琉球大賞」受賞。
眞境名山康組踊会長、宗家眞境名山派眞境名由康会長、男性舞踊家「飛輪の会」会長、沖縄県ユネスコ協会副会長、伝統組踊保存会会長、沖縄県立芸術大学客員教授



組踊「女物狂」
出演：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻 教員、学生

〈配役〉	役 人	下地 心一郎	眞 人	石 濱 季 安	歌三郎	仲 嶺 健 太、仲 村 逸 夫
	母	仲 嶺 夕 理 彩	眞 人	金 森 理 穂	大田 いずみ	
	亀 松	宮 崎 花 澄	眞 人	仲 宗 根 朝 子	大 崎 久 志	
	座 主	上 原 崇 弘	眞 人	大 崎 久 志		
	小 嶺 三	仲 嶺 良 盛	眞 人			
	小 嶺 三	神 谷 武 史	眞 人			

講演メモ

平成30年度
沖縄県立芸術大学しまくとぅば
実践教育プログラム開発事業報告会

会 場 沖縄県立博物館・美術館1F 講座室
期 日 平成31年2月10日(日) 14時～17時
問 い 合 わ せ 沖縄県立芸術大学附属研究所 ☎098-882-5615

〈裏面〉

7-2 第4回 講演会アンケート結果

会場：沖縄県立芸術大学奏楽堂

日時：平成30年11月9日

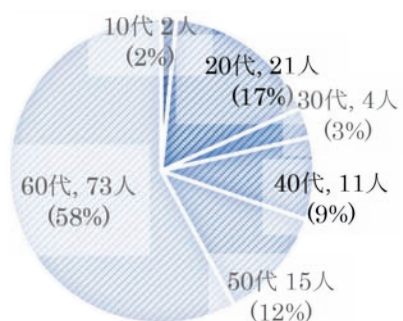
対象：一般県民

講演会タイトル：芸能から受け継ぐ「誇らしや しまくとぅば」琉球音楽に息づく しまくとぅば

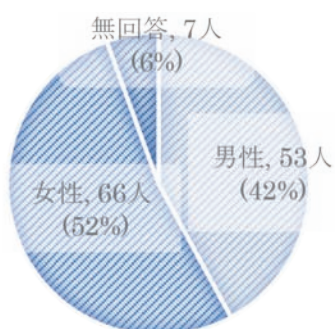
来場者数：180名 / アンケート回収枚数：126枚 / アンケート回収率：70%

1. 来場者情報

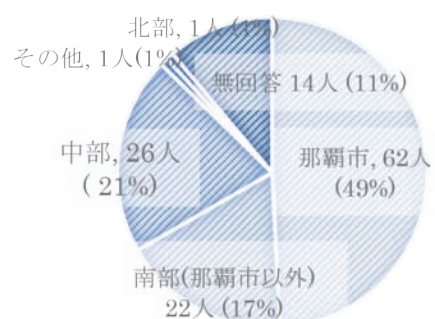
●年齢



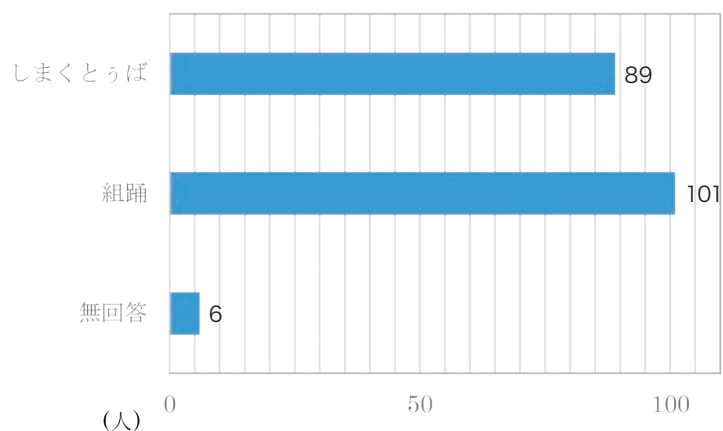
●性別



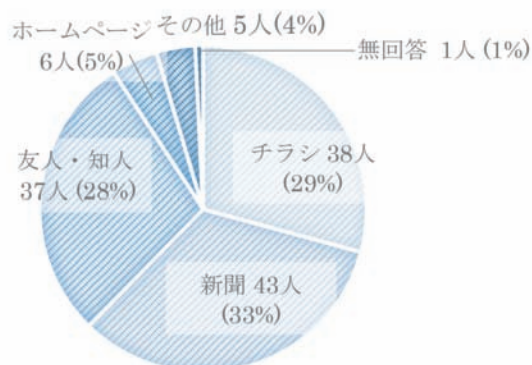
●地域



●興味のある内容(複数選択可)

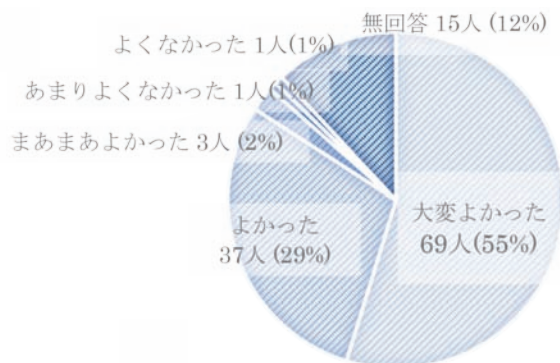


2. この講演会を知ったきっかけ

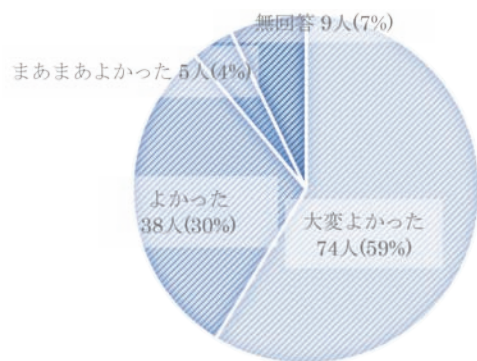


3. 今回の講演会について

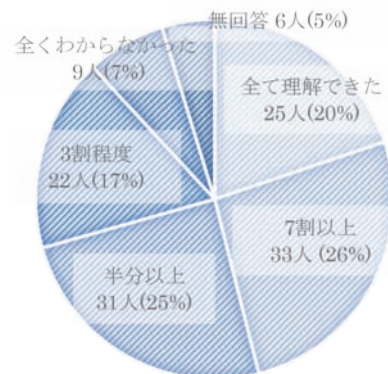
(1) 本日の講演はいかがでしたか？



(2) 琉球芸能専攻による幕開けはいかがでしたか？

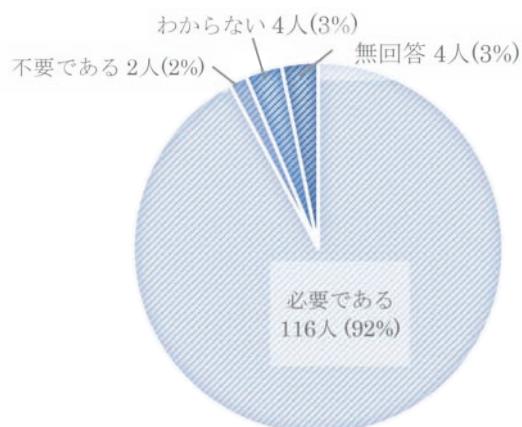


(3) 本日使用されたしまくとぅばはどの程度理解できましたか？



4. 本学の琉球芸能専攻におけるしまくとぅば実践教育事業について

(1) どのようにお考えでしょうか。



(2) 本事業および今回の講演会についてのご意見やご感想、次回への要望などがありましたらお書きください。

- ・人盗人よく研究したと思います。本番前の稽古量がもっと必要だったような気がします。
- ・「しまくとうば」ではなくウチナー口もしくは琉球諸語でしょう。これで間違ったメッセージを後世に送ることになる！
- ・今後ともご活躍ください。
- ・今回の講演なども他のものも、チラシをもっと身近なところに置いてあるといいなと思いました。情報がほしいです。
- ・しまくとうばよりウチナーグチの方が呼び名は自然かなと思う。
- ・演目の流れを大切にしたい気持ちもよくわかるが、しまくとうばの教育を目的としているのなら、もっと演目を細切れにしても、しまくとうばの説明を細かくいれながら進めた方がいいのではないかと思った。今のままではしまくとうばの教育にはなっていない気がする。
- ・「あらすじ」を読んでなければ理解できなかった。組踊の言葉が難しい。
- ・しまくとうばへの関心がより深くなった。
- ・しまくとうばが分からない人には、全く何を言っているかわからず、勉強にならない(楽しめない)
- ・組踊が身近に感じられてよかったです。
- ・講演はウチナーグチは始めだけで、ほとんど標準語で話していました。残念。
- ・講話の際、インタビュアーのようにナビゲートして話の流れを作っていくといいのかなと思いました。でも先生のお話をゆっくり聞けてよかったです。
- ・講師1人の講話も良いけど、聞き手がいた方がもっといいような気がしました。
- ・組踊のクライマックスで涙が流れました。心が洗われる思いがしました。ありがとうございました。
- ・「女物狂」の母の歩みがとても素晴らしくて感動しました。母子の再開のシーンの時の歌三線が素晴らしく、涙が出ました。素晴らしい芸がこんなに身近で拝見できて幸せです。ありがとうございます。
- ・たまには首里の古老と首里言葉の対談を。
- ・こういう講座をもっと宣伝してほしい。
- ・「女物狂」は伝統がしっかりと受け継がれていると感じた。彼らの将来に期待が持てる。正憲先生の話は素晴らしかった。ほとんどウチナーグチで語っていたのに感銘を受けた。次回は能鳳先生のお話を聞きたい。
- ・はじめて講演に来ました。全くとは言わないものの、講演内容がわかりませんでした。次回は、レジュメもあると内容も楽しめる(わかりやすい)のかな、と思います。
- ・伝統芸能は大和口では伝わらないものがあり、ウチナーグチならではのニュアンスがあるので、この講演を聞いて感激した。
- ・30代、40代は特に関心が薄そうなので、もっと興味を持ってほしい。女性が登場する組踊なので、国立と違ってまた良いですね。眞境名先生の発音の話、国立劇場おきなわの話、おもしろかったです。
- ・琉球舞踊も拝見したかったです。ちょっと物足りなく思いました。
- ・組踊の歴史的な解説を、しまくとうばを使ってわかりやすくやってほしい。所作の意味などを説明してほしい。
- ・本日の組踊演目は、ちちむん、みーむん やいびたん。
- ・300年の組踊の歴史は沖縄の財産であり誇りである。沖縄の文化は県民の心のよりどころだと思います。後継者を育成し続けていく事はとても大切である。
- ・しまくとうばの大切さを改めて知ることができた。これから少しずつでも話すことが大切であり、使っていこうと思います。本当にありがとうございました。
- ・宮里朝光氏の話が聞きたい。首里における芸能のあり様がどういふものだったか知りたい。
- ・歌三線がとてもよかったです。
- ・大変良い企画だと思います。今後もこのような企画をよろしく願います。舞台の両脇に解説の字幕

があれば台詞の意味が分かりやすいと思います。

- ・次回も楽しみにしています。ぜひ継続してください。
- ・「組踊を見たことがない」という人がいる話は驚きだった。しまくとぅばを通して組踊に興味をもってもらえるということは想定外だった。会場でも「組踊は初めて見る」と言っている方がいたので、他にもいたのだろうと思う。演目と関係あるお話があるとよりよかったと思う。
- ・正憲先生の話、とても勉強になりました。
- ・しまくとぅばの必要性を感じています。しまくとぅばは文化そのものだと思います。どのように後世に伝えていくのか、我々の世代(60代)の問題だと思います。
- ・小僧を演じた仲嶺さんの声が素敵でした。音楽も大変よかったです。
- ・あらすじが書いてあったのでわかりやすかったです。
- ・非常に残念だったのは組踊の言葉が理解できなかったこと。あらすじをみて少し理解できました。本当にありがとうございました。
- ・大変素晴らしい企画である。関係者の方々に心からお礼を申し上げます。なんとしても沖縄の地域の方言を残さなければならない。もっと行政が力を入れるべきである。次世代まで残していきたい大切な財産である。学生の方々、関係者の皆様、本当にありがとうございました。
- ・私の娘が芸大を卒業して現在ドイツで仕事に就いています。沖縄の芸をもっと若い人たちに見て、知ってもらえることは大変嬉しいです。もっとウチナーグチを使いたいと思いました。
- ・組踊は身近で見える機会がないので、今日はとてもよかったです。
- ・「女物狂」、学生とは思えないぐらい上手でした。良い物を見させて頂き、ありがとうございました。言葉はとても難しくてあまりわかりませんでしたが、感動しました。ありがとうございました。
- ・組踊の言葉はまったくわからなかった。
- ・大変素晴らしかった。いろいろな話が聞けました。ぜひ講演の記録を本にしてほしいと思いました。
- ・正憲先生のお人柄を垣間見ることができ、貴重なお話を拝聴出来て光栄です。ありがとうございました。
- ・組踊の言葉、台詞の意味もつけてください
- ・すべてしまくとぅばの講演はめったにないのでいい機会でした
- ・眞境名先生のお話はとてもためになった。組踊の大切さ、しまくとぅばの必要性について深く考えるようになった。300周年組踊記念公演が楽しみです。今後ますますのご活躍を楽しみにしています。
- ・このような企画があること、一人でも多くの県内外の方に知らせたいです。眞境名先生の講話も初めて聞きました。すごい方だとつくづく思いました。
- ・盗人等、男の人の線が細い。衣装に工夫が必要。声は出ているので迫力をお願いします。
- ・立方と地方がすばらしく、感激しました。
- ・「女物狂」は国立劇場おきなわで拝見したことがあるのですが、いまいち心情が伝わらなかった気がします。盗人が人相書きのようなものを言われて表情を変えるところなど、懷に白粉などを用意してもよかつたのかな、と思います。初期に演じられていた組踊がどのようなものだったのか、言葉だけの魅力ではないと思いますので、表現のレパートリーを増やしても良いかと思いました。
- ・地謡のハチマチのひもの件、県立博物館の展示ではひもは耳の後ろでしたが、こちらの地謡は前から通している。検討できないか。関係者席があるが、活用されていないことが疑問でした。眞境名先生の話は素晴らしい耳薬でした。
- ・これからもよろしくお願いします。
- ・このような講演があることをもっとPRすべきだと思います。今日の組踊で使われた言葉の解説が聞きたかったです。
- ・このようなすばらしい講演、また来たいです。
- ・芸能のしまくとぅばと普通のしまくとぅばについての違いや意味など詳しく知りたいです。今回の講演も勉強になりました。
- ・「女物狂」はきれいですがまだ少し心をつかむことがないので、研鑽にはげんでください。期待してい

まず、眞境名先生の含蓄のある話は興味をひかれました。先生の記憶は書き残しておいてほしいです。本日は大変ありがとうございました。

- ・組踊の台詞が難しかった。もっとこのような機会があるといいと思う。
- ・組踊の熱演、すばらしかったです。講演は興味深いお話が聞けてよかったです。しまくとうばを残すにあたり、芸能の担う役割の重要さを感じました。
- ・しまくとうばは決して衰退させてはならない。芸大でも言語の普及に力を入れていく事が大切である。
- ・組踊「女物狂」を初めて見ました。役者の台詞や動き、音楽がとても良くて感動しました。眞境名先生の話も面白く感じられました。
- ・母親役の演技がとてもすばらしくて涙しました。
- ・組踊全体的によかったが、いくつか気になる点があった。
- ・毎回、この講演会を楽しみにしています。

8 第1回・第2回「誇らしゃ しまくとうば」講演会講演録

凡例

- ・本凡例は、第2回講演会を翻刻した平良徹也がその翻刻について付した凡例のうち、全体に関わるものをまとめて提示するものである。2017年度は、瀬名波孝子先生(第1回)と八木政男先生(第2回)による「しまくとうば講演会」が行われた。
- ・瀬名波孝子先生、八木政男先生の講演には、ここで言う「しまくとうば」といわれる共通語が併用されているので、「しまくとうば」についてはひらがなで表記することを基本にした。
- ・「しまくとうば」については文節による「分かち書き」を基本とした。また、「しまくとうば」といわれる共通語が交じる場合にも文節分かち書きとした。
- ・「分かち書き」には、全角アキと半角アキがある。基本的には全角アキであるが、次のような場合には半角アキにした。①補助動詞が続く場合。②断定の助動詞が続く場合。
- ・共通語の部分については、漢字かな交じり文で一部は表記した。
- ・講演中の氏名の明かな方については漢字で表記した。(一部カタカナでの表記も)。
- ・講演に出て来る外来語はカタカナで表記したが、両先生の「しまくとうば化」した発音に合うように表記することを心掛けた。
- ・発語のあいだあいだで見られる「あー、えー、なー、うん、あんさーに」などの間投詞的な音声は、しまくとうば講座の紙上再現という意味あいから省略することなく表記することを心掛けた。ただし若干の漏れについてはご容赦ねがいたい。
- ・判解不明な箇所は【 】で括って示した。
- ・特異な語彙については弁別を容易にするため“ ”で括って表記した。
- ・一部のしまくとうばについては発音の通りに表記して、()で括って漢字を補った。
- ・会話の部分は「 」で括って表記した。また登場人物の発言等も「 」でわかりやくした。
- ・[]で括って注を付した部分がある。
- ・各段の講話の変化にあわせて内容を目安に段中の改行処理をおこなっている。
- ・数字については横組みとしたために主として算用数字123・・・を用いた。
- ・講話者の笑い声については(笑)と表記した。
- ・会場からの拍手は(拍手)と表記した。

8-1 瀬名波孝子先生のしまくとうば講演会(2017年11月9日)

翻刻：徳村 利奈子(沖縄国際大学日本文化学科4年次)

分かち書きチェック：西岡 敏

翻刻チェック：事典作成部会

- ・本稿は平成 29 年度県芸大しまくとぅば実践教育事業／2017 (平成 29) 年 11 月 9 日第 1 回講演会
瀬名波孝子先生による講演会の録音音声を翻刻したものである。

司会 (鈴木耕太) : ここで講師の瀬名波孝子先生のご紹介をいたします。瀬名波孝子先生は沖縄
県那覇市のご出身で、沖縄県指定の無形文化財、琉球歌劇の保持者でいらっしゃ
います。玉城盛義と高安高俊が主催する大正劇場「真楽座」の組踊「銘苅子」で
初舞台を務められました。

その後、戦後すぐ、琉球民政府の公認となります松劇団、それから、伊良波
尹吉主催の梅劇団、そして、その後、玉城盛義と平安山英太郎が主催する南月
舞踊団、真境名由康主催の沖縄座、真喜志康忠主催のときわ座を経て、1954
年に夫の松茂良興栄とともに劇団「みつわ座」を結成しております。その後、沖縄
演劇に参加し、沖縄芝居を牽引していらっしゃいます。

今年芸歴 60 周年 [注: 実際は 75 周年] を迎える沖縄芝居、沖縄歌劇の第一人
者の先生でございます。それでは、瀬名波先生、よろしくお願いいたします。

—— 「テンヨー節」で瀬名波孝子先生登壇 (以後、瀬名波と表示) ——

(聴衆拍手) (指笛)

瀬名波 : はいたい ぐすーよー、はじみてい つういーちえー ううがなびら。せなは たかこ や
いびん。はちじゅーごさいぬ おばー やいびん (笑)。(拍手) ちゅーや くぬぐとうし わ
かわかーとうぐわーつし すがてい ちゃーびたしが、ちゃー やいびーが (笑)。(拍手) なー
だ わかさんねー さびーらやー。

あきさみよー なー うちなーに つんまりてい、うちなーぐちさーに しばいっし、な
なじゅーごしゅーねん (75 周年)、とうしえー はちじゅーご (85)、ちばてい ちゃーびたん。
(拍手)

わんねー よーたい、とうーぬ とうしから 戦前ぬ しばいんかい はたらち、うや
たしきーる くとうん ないびたん。

ぬーがどうん やれー、わったー いいきがぬ うやー、わーが みーちぬ とうしに
天国んかい いち うういびらん。わん うつとうぬ つんまりてい ひと月 やいびーたん。

あんまーや ゆったいぬ つくわぬちやー すだていーる たみなかい いっペー
ちゅーばー あんまー やいびーたん。わらばーたーとう あしびーが いちーねー、くるさつ
てい ちーねー、「じえつてー なちえー けーてー くんなーよー」。いっペー ちゅーばー
あんまー やぐとう じえつたい なちえー ならんでいる いっペー 【つよびーる?】 あ
いびーたん。わんにん うーまく なとーいびーたん。

あんさーに ちょーどう くもじうてい わんねー つんまりとーいびーしが、くもじう
とーてい わん ちゅい ゆったいが なーかなかい いっち、いいきがぬちやー あぬー
ちょーでー みっちやい なーかなかい ちゅいぐわん、ちゅいいいなぐんぐわ なたが
たみ、わんねー さんばんみーに つんまりとーる。

あんさーに いいき [注: 言い直し]、いいなぐぬうやー くもじ (久茂地) んじ わったー
や すだちよーいびーしが、あぬー とうまい (泊) んかい とうまいまちなでい いる とう
くまんかい あちねーしーが いかんでー ならんぐとうんでいやーに、わんちゅい うちき
てー ならん、なま みーち ゆーちぐらいどう やいびーぐとう あぬー うつとー う
ふあさーに わったー あんまーや あぬー はたらちが いちゅんでい いち、わんねー
とうーくぬ あぬー おじさんどう やいびーしが カンザトカミさんでい いる つちゅん

かい くとうー ならーちょーみしえーびたん。

うぬ くとうー ならーちょーるばすんかい わんねー あじきらつてい、「わーが あちねーつし ちゅーる えーだー、あじかとーてい くらんなー、あんさー うりが くとうーぐわー ならいらー ならーちょーてい くらんなー?」、というような 感じで いらりやーに。

わんねー うちなーぐちさーに あびとーいびーしが、わかいびーがやー? (拍手)

はあー、はあー、くる ゅるちゃん。

あんさーに よーたい。わーが ならーちょーるばーに [注:次に言い直し]、ならとーるばーに すばうとーてい、あぬー おじさのー、舞踊ん ならーちょーいびーたくとう、わんねーくり、ちみ むつちよーていから、ちゅ くとうー いいちょーてい あぬー くらしーやかーねー もーい すしえー ましんでい いやーに ちみ うつちゃんなぎーやーに もーい すしえー ましんでい いやーに、おじさぬかい いちえーる ふーじ やいびん。

あとう、おじさんが わったー うやんかい、「いえー うれー くとうーぐわー ならいつんじゃさんぐとうさーに。舞踊 ならいがんでい いちよーしが、ちゃー すがやー」。「あいなー うり やていん ならーちょーけーなー、んちよーてい くれー」、つていうような 感じで わんねー あじきらつとーいびーる ふーじ やいびん。

あんさー わんねー もっと 舞踊 ならてい くていぶし (特牛節)とう あぬー しきくどうち (四季口説)んでいし ならとーいびーたさ。

うり ならーとーる うちなかい いくさん はじまやーに あぬー くぬ おじさん、わんにんかん ならーचार おじさんが 湖南丸から 学童から、そくわい (疎開) つし いちゅんでい いやーに うぬ つちゅん 先生ん このー 湖南丸ううてい くぬ ゆ うしないびたん。

あとう わんにんかい くとうー、「じゃー、形見に置いとこーねー」んでい いやーに わったーやーんかい おばさ [注:次に言い直し]、あー おばーめーんかい あじきらつとーてーる ふーじ やいびーしが。

うり んだ いくさうてい ねーんてい [注:言い淀み] ねーびらんしえー、あんさーに うぬ あちねーする たみなかい なー わんねー とうまいんかい いかんでーならんでい いやーに とうまいんかい 引つ越し さぐとう、とうまいぬ あぬー わったー いちばん しーじゃにーさんが 親泊元清さんとう 同級生 なたる たみなかい、「ええー、あぬー わったー あぬー 大正劇場ううとーてい わんねー しばいそーしが、子役 とうめーとーしが、こやこー ううらんがやー」、つて言うような 感じで わったー にいさぬんかい いちえーる ふーじ やいびん。

あんさぐとう わったー にいさんが、「あい、わん うつとうぐわーや 舞踊 ならとーしが くぬひやーが さんがやー」、でいち、でいいし がっこー (学校)んかい つんじやーに 「そーてい くー」んでい いやーに、わん がっこーんかい そーいが つんじやーに、わんねー かばのー むつちまま んけーらつてい、「まーぬ にいさんたーが ちょーがやー」んでい うむいる あたい、くぬ 元清さんぬんかい そーらつてい つんじ にいさんとう まじゅん、つんじやる とうくるが 大正劇場。んな うしるい ひち、舞台ううとーてい けーこ (稽古)そーる とうくうまんかい、わんねー そーてい いかつてい、「くまー ぬーが 芝居する とうくま、ほー、やがやー」、しばいんでい いし わんねーんちん なんだんどう あぐとう、「あんた、つやーや んじ 舞踊 ぬー ならとーが」、「しきくどうちとう あぬー くていぶしとう ならーとーいびん」。

あのときに、あの一あの一、ツルコさんでい いる つちゅ わんやかねー みーち先輩が めんしえーびーたしが、うぬ 先輩とう まじゅん、なま 元気に めんしえーびーん。はちじゅーはち (88) ないみせーん。

あぬー うぬ っちゅとう まじゅん つやーや うぬ 先輩とう まじゅん くてい
ぶし もーてい まーにんてい いらってい もーたぐとう、「あい うれー ゆぬ ていー
やっさー。くりん たまぐしくぬ ていー やっさーやー」、というような感じで、あんし、
「ちゅー つやー 芝居 つんじーみ、つんまんじ もーい つんじーみ」、と言って、「うー」
んでい いやーに、うんにーから 芝居 たっち、75周年までい ずっと ちゃー っし
ちえーんどー。(拍手)

わん つんまれー ぬーがやーんでい うむいるあたゐ、あしぶる ひまん ねーらん、
あしだら くとぅんちん ねーらん。なま ちきてい ゆる ゆてい っちん あしびが あ
ぬー カラオケ大会とか ぬーぬ 大会、あしびーが いちゆる っちゅぬちやー まん
どーしが、わんねー つんじやる くとぅん ねーびらん。とうーち しぐとぅんかい っ
わーつとーるむんぬ。

あっペー、やっぱし わんねー とういぬ っちゅ やぐとう、あがからん あがち とう
いぬ あがち そーさやーんでい うむてい、やすんじとーいびーしが。

うりから はじみてい 芝居 はじみやー、戦前から うりから いくさんかい なやー
に 十・十空襲、十・十空襲から っわーつてい、ぎのわぬんかい わったー うういびー
たしが、ぎのわんから、まー ぎのわのー 激戦地 ないぐとう 「くまんかい ううらん、
やんばるんかい いけー」んでい いやーに、やんばるんまでい つんじ、やんばるんかい
つんじ、あんさー、いくさ うわやーに 十五の とぅしに わったー きんわぬ(金武湾)
んかい ちゃーびたん。

ちんわぬんかい ちゃぐとう、くんどー ぐしかーんかい あぬー 松竹梅んでい い
る 劇団が つんじやーに、松劇団ぬんかい また 元清さんが めんしえーん。

「あい、いったー いちちよーてーさやー」。「はい、げんき やてーさやー」、「でいー、ま
た 芝居そーぐとう、松劇団ぬんかい いれー」んでい いやーに わんねー 松劇団ぬ
んかい いやーに、くぬ 元清さのー ええーまんかい また わかーたーびかーんさー
に 芝居 ちゅくいんでい いやーに つんじえーる ふーじ やいびーん。

あんさー わんねー うちきらってい あぬー 与座朝惟さんたー おかーさんとう お
とーさん なーかんかい わんねー にんてい、十五ぬ とぅしから ずっと 巡業さー
に 松劇団から ずっと あっち、うぬばすに あぬー 先輩がたのー ねーさんたーん
あぬー 芝居 ないる ちゅぬちやー めんしえーびーたしが、うぬ ねーさんたー
なーかなかい 「うくやまぬぶたん(奥山の牡丹)ぬ うた うびとーし ううらに」、でい
ち 先生が いちよーぐとう、「うくやまぬぶたん ぬーんねー」与座の おかーさんが
病気 かかやーに あまー こけら落とし、あぬー 奥山の牡丹でい いやーに あぬー
宣伝ぬん そーぐとう、うり さんでーならん、たー たーがな すしえー ううらに」 っ
て言ったら わーが じゅーぐ(15) ないる わーが ていー あぎてい ねーびらん。

あんさーに 先生が、「つやーや、うぬ うぬ ええー わらばーよー、うれー うーま
く つやー うり ないがやー」 って言ったら。

比嘉正義先生が 「まじ しみてい まーに、ならんちや ねーらんさに、ならーさーに
しみれー」、 って言って、というような感じになって。

わんねー おかつぱどう そーいびーしが、かつらん かんてい、ちびん まかつてい、
おっぱい ねーらんぐとう おっぱいん ちゅくてい、 あっ、つくわ なちえーる いいな
ぐぬ、なー うれー、する わじやどう やぐとう、と言うような感じで、うり くとぅば
あぬー うたー うびとーいびーぐとう、台詞とか、うぬ むる ならーざりやーに、う
んにんに 主役 うりから はじみてい はい はじまやびたん。

うんにーから ずっと もー 先生たーんかい かちみらりやーに。「あい つやー 主

役 ないさやー、でいー くりん しえー ありん しえー」んでい いやーに、いろんな
主役びーかん ずっと ちじち、あぬー ちゃーびたん。

うぬばすに 比嘉正義先生たー あぬー めーんかい ううし、あぬー ぬーんでいが
玉城盛義、あぬー 玉城 あぬー 玉城 わったー 先生が「つやーや わん 弟子
どう やるむんなかい、ぬーが つんまんかい 松劇団ぬんかい ううる、つんめ(梅)ん
かい くーわ」んでい いやーに、梅劇団ぬんかい そーてい(笑) いかつてい、うぬばす
に あぬー 盛義先生たーん 平安山英太郎先生たーん めんしえーびーたん。大先輩
ぬ なー うちなーううてー にまいめーんでい いみしえーるい、ちゅ、うんちゅが あ
ぬ 相手役っし。

いちばん わーが 思い出に ないしえー、あぬー 伊是名とうか 離島んかい いちゅ
るばすねー うぬ じぶのー じぬん ねーらんど うあいびーぐとう 戦後、あぬー
くみ(米)さーに 芝居 んーじゅるぐとう なとーいびーたんやー。

大人が 一升 あぬー いっすなー とうてい、わらばーたーや ぐんごー(五合)なー
とうてい、つて言うような感じで あぬー じんぬ かわい、わったーや、あぬー くみ い
いーてい、むらたる くとうが あいびーん。

先輩がたー まぎーな だてーのー たーら いいーてい、むっち めんしえーびーたし
が、わったーや 小さい ふくるぐわーんかい いつてい、あぬー くみ むっち つんじ、
かむしん なたさやー つて言うような感じで おじさん たしきーる くとうんかい な
いびたん。

うれー またー あとうむどうい さびーしが、わーが 戦前に あぬー 真楽座んか
い ううるばすに、あぬー わったー お兄さんが あぬー てっこーしょー(鉄工所)ん
かい はたらちよーいびーたしが、あぬー うぬあとう 盲腸 かかやーに、わったー
じぬん ねーらん、わったー あんまーや「でーじ なとーしがよー、あぬー わん
ねー うれー ぐわんす あぬー たしきらんでーならんしが」、つて いいぬ ばすに、
わんねー あぬー 大正劇場ぬ 講師の 先生たーが 玉城盛義先生たーが「むえー
ぐわーさーに わーむん じん たみてーしがる、とー つやー ちゅー あたとーぐとう、
うぬ じん むっち けーれー」んでい いやーに、いーちゅーぐわーさーに かんし くん
ちえーる じん、わーが むっち けーたる うぬひーに でんぽー ちょーてーる ふ
ーじ やるばー。

あぬー「盲腸 かかとーぐとう、なま お母さん くー」んでい いち、あとう じぬん
ねーらんでいち、うやー しわ そーるばーに わーが じぬん むっち ちゃぐとう、う
りん むちゃーに そのまま やまとうんかい とうてい、わったー にーさん、ぬちん
すくたんでい いちよーん。

あんさーに、「つやーや えー、ううないがみ やさ。つやーや、つやーが はたらちやる
たみなかい、にーさんぬ ぬちん たしかたんどー」つて言つて わんねー いっぺー
ふみらつたる ばすぬ あいびーたん。

やつぱし あぬー ぬーでいが、つちゅぬ つんまりーんでい いる むのー、いるん
な くとうぬ あいびーんやー。

あとう、うりから 戦後ぬ あぬー また はなしんかい ないびーしが、梅劇団んかい つん
じ 梅劇団ぬんかい つんじ、離島ううとーてい、平安山英太郎先生んかい われー わら
いばなし やいびーしが、平安山英太郎先生とう くわんくまちぐわー(小湾小松小)んでい
る わんねー 主役 むっちよーいびーたしが(笑)、うぬ せりふぬ わんねー ばっぺーやーに、

「わんねー しまなかいや、ううーううー、うんじゅが とぅじえー ないびらん、しまなかいや、あぬー、なじぎらつとーる『あふいらー』 うういびーしえー」んでい いち、わーが いちねーやびらん。

先生や また いーのーしえー しまびーしが、先生や 「いいー、つやーや しまなかいや、なじぎらつとーる『あふいらー』ん ううる ばすい」って言ったの。うっさ うぬ ばすねー、あぬー、コンセットやー なやーに、かんし ちゅくらつとーぐとぅ、アメリカーたーが あぬー、やーんかい 舞台こいうふうに作って、あぬー 芝居する ふーじぬ 芝居 やいびーたしが、うぬばすに うぬ コンセットやーが わりーるか、なー、わらやーに、うちゃくん わらいれー がくやん わらい、んな、んな なー、んな、がくしやぬ ちゅぬちやー[注:以下、言い直し] 役者ぬ ちゅぬちやー、むる むる ちゃーわらい そーるばーてー。わんねー けーてい んじやーに、なーかんかい いっち んじゃぐとぅ、んな わらとーぐとぅ、「ぬーがふー」って言うと、「つやーひやー 『あふいらー』んでい いたんどー」と言って。

「んー?、わんねー 『あふいぐわー』んでい いちやしが『あふいらー』んでい」(笑) うりさーに 大笑いさーに、失敗だぬ(談)ん あいびーたん。

いるんな くとうぬ あいびーん。

芝居するばすねー、いるんな くとうぬ あいびーしが、この 芝居んでい いしえー、なまー、あぬー、芸大生たーが くぬぐとぅ っし、あぬー 貞女ぐわー んーち あーわんねー 芝居 なまから うちなーぐちん わからん わらばーたーが、かんし っし うちなーぐちさーに しばい そーし んじーねー、いっぺー わんねー なー 安心 そーいびーん。なー、わんねー 八十五 ないびーぐとぅ なー なー いちが まーすら わかいびらんしが(笑)。なー うったーが あとうちじ っし くいーさやーんでい うむいねー、うちなーぐちんしえー うちなーぬ 芝居んかいる うふく あいびーる。

むちるん まじ うたんかいん あい、くみうどういんかいん あえーさびーしが、ふんとーぬ うちなーぐちぬ じょーぬ あていぬ うちなーぐちんでい いしえー 芝居んかい ねーらんがやーんでい うむいん。

最近ぬ、ぬーんでい いが、はやりくとうばなかい うちなーぐちんかい 「じゃかひやー うむさんやー」、「じゃかひやー ふりとーんやー」とうか、うぬ 「じゃかひやー じゃかひやー」とうか、「しにひやー」とうか、「しにひやー」とうかも 良く言いますね。「しに じょーとー やたんどー つやー むのー」。「しにひやー いーち ふちやつさー」、とうか、ぬーんち うぬ 「しにひやー しにひやー」が いーがやーんでい うむてい。

わたし、あぬー 宜野湾(笑) あぬー ぬーんでいが うーん する 兄さんが うういびーたしが、「わんねー うちなーぐち わかいびーんどー」って 「つやー うちなーぐち あびてい まーに」んでい いちやくとぅ、うちなーううてい 「しにひやー しにひやー」さーに 「うんな うぬ しにひやーに いちよーしや 最近の うちなーぐちるやる。ふんとーぬ うちなーぐちんでい いしえー 芝居ぬ なーかんかい あんどー」 言ったことがあります。

やいびーんどーやーたい。「しにひやー」んでい いしえー しぬるばすにどう 「しにひやー」んでい いーる。ぬーんち 「しにひやー じょーとーやー」、「しにひやー あぬー あれー しえーひやー」って言うような感じで、「ぬー ひやー ひやーが いちよーるばーてー。うれー なまーうれー はやりくとうばどう やつさーやー」って言ったことがあるんですが。

うちなーぐちんでいしえー むちかさー あいびーんよーやーたい。

あとう うぬ なまぬ あぬー ぬーんでいが この あぬー じつ 貞女ぐわーぬ なーかんかい、「ちゃーし ちゃー さびーが」んでい とぅくるぬ あいびーしが。「うぬ いみ わかいみ」んち(笑)、なま ちちゃぐとぅ わかいびらん。(笑) 「どうして どう

しましうか」んでい いる いみる やんどー っと。「あつそー」って 大体は分かりはするんだけど、なんか、あの一、こんなにして言うのは、あんまり、あの一 はっきり わからんば一なー。

あんさー うぬ くちぬ あぬー、わったーや、あぬー 劇ぬ ぼすに あぬー ゆぬ ゆぬ くとうばる やいびーしが、「わんねー つやー うむとーんどーやー、まぐるからわんねー つやー うむとーんどーやー」、「わんねー つやー うむとーんどー」、「わんねー つやー うむとーしえー ちかんばーい」[注:三つの調子を使い分ける]んでい いるぐとう。この言い方でぜんぜん感情を ちがいびーしがやーたい。

芝居んでい いしが、うりかーが うむさんでい うむやびーん。わねー 長年 芝居そーてい、わーが あぬー あぬー 子役 さるばすに いっぺー なちやーに よーたい。なー、むぬん あびーゆーさん、はなだいん 【がつていーてい?】、くいーん つんじらん なやーに、あぬー 芝居しえー ねーん、ちゃんとう すじえー とーちえー ねーびらん。あんさー なー 楽屋んかい いっち ちゃぐとう、先生んかい 「つやーや つやーが なちーどうん しえー、つんまー ちゃこー ちゃーつし うりが わかいが。あぬー うんぐとう しえー だめー。芝居んでい いしえー どうなーくる なちゆる ねーびつし みしてい、なー あぬー うちやく なけーしる ふんとーぬ、芸ぬ みちやんどー」って言われて、わんねー 疑問に うむやびたん。

わんねー 一生懸命に なち、いっぺー 真剣に そーる つんまなかい、「ぬーんちぬーんち ふみらんがやー、ぬらーりーがやー」って思っ、うむとーいびーたしが、最近なていから いるんな しぐとうん あぬー わじやんでー する くとう なていから「あは一、なちゆる なちゆる 感じぬ くいー つんじやさわる やつさー」っと思っ、わたし、勉強したことがあります。

ちゅーらー んーじーねー、「つやーとう わんとー うむとーる なーか やしが、うやぬ ゆるさん なーか なてい かんし わったーや わかりらんでー ならんばする やるい」と言うことば。「つやーとう わんとうよー うむとーるなーか やしが うやぬ 【いち・・・数音節聴取不能】 わったー わからんでー ならんば一」にとー。感情が じえん じえん 違いますよね。

こんなのに、だから うちなーしばいんでい いしえー 感情ぬ どうーぬ むちゅ むちゅ むちまえぬ 感情 つんじやしみちー とうくるんかいや、「あー、こんなって しぶつてい 言いなさい」。「つんまー はきだしさーに ぬられー」と、こんなのが、芝居の良さんでい いしが、あぬー うむこー ねーらんがやー。

んーじゆる がわ やていん、ちょーどう はんどーぐわー やていん わーが する はんどーぐわーとう、たま あぬー ぬーんでいが、あぬー 兼城道子さんが する わじやとう また 伊良波冴子さんが する あぬー はんどーぐわーとう むる ゆぬむん 同じ あぬー やりかたどうん やれー 「むる たーが しーゆーする むんどう やぐとう うむこー ねーらんさー」って わたしは思います。

だから 「ああ、あの人には、ああ、いいところがあつた」、「あの人のは、ああ、つんまぬ とうくるが、あれとー ちがとーたつさー」、「つんまー じょーとー やたつさー」んでい うむいし、んーじゆる つちゅ やていん 「ああ、くれー うむさたつさー」、「あれが むのー まー まし やたん」、「くれー まー まし やたん」でい、いやりーる くぬ 変化ぬ あし、大体 あぬー むちあじんでい いしが あいびーし やーたい。個人ぬ。芝居しーねー「ああ、これが 言い方、つんまー うむさつたつさー」んでい。

わったー 長年 しばいさる たみなかい、ちゃくぬ うつさ しみしえーる くとうばわったー ゆー かんげーる ばーが あいびーん。あいぐわーが、「えー あひぐわー あひぐわー」んでい いしとう、「えー あひぐわー あひぐわー ええー」んでい いしとう、

しぬびぬ じえんじえん ちがいびーしえーやー。

かくりとーてい、あぬー いちやいる くいーとう、また 吐き出しぬ くいーとう、「つやーとう わんとー うむとーるなーか、つやーが ぬーんでいち わったー でいか ひんぎら」、つというような感じになる。

あんとう しばいんでい いしえー、くぬ むちあじ する っちゅぬ 性格ぬ ありが っんじてい くーんがやーんでい わんねー うむとーいびーん。あんとう いち なんどう ち やていん 芝居しー、とー うぬ わじゃつし まーにんでい いーねー すぐ ならん とー ならんでい、わんねー やーんかい ううるばすにん トイレんかい いっちょーる ばすにん うた あびーるばーん あい。(笑)

とー、なまや はんどーぐわーぬ あぬー しんどーうーすーぬ くとぅば あびてい まーに。

<「伊江島ハントー小」より船頭主とハントー小の台詞>

船頭主： はんどーぐわーや あらに、あぬ いいきが いちやてい くぬ えーだぬ うむくとう ん かたてい くーいーんち うちや っんじたしが、くぬ しぎま すしが ぬが ぬーやが、いいきが いちやてい ぬーんでい つゆたが。

<つらね>

ハントー小：いちやてい かながなとう かたるさみ とうみば
うらみしや わみに いちやる いくとぅばや
いいぬん しなさきん さらざらとう ちりてい
んかし かたらたし じち とうむてい くいるな。
うりや ただ しばし たびぬ さびしさに
かりに ならびたる ていまくらる やたる。
まくとぅ しんじちぬ くくるから っんじてい
いちまでいん とうむてい むしだしや あらん。
なまからや いいぬん しなさきん ねらん
すみなさん さちぬ いいんとう あちらみてい
うみわしてい いきゆ ゆむ しらんでいちよてい
わんや ふりしていてい ぬぎてい っんじやん。

船頭主： さいむさてい ちくしょー あん つゆたる ばすい
いいなぐ あていなしぬ あがとー くんじやんぬ
まさちから ひちゆい うみやまん くいーてい
たずにちやる くくる あだに なす やから
ひとつに なてい ひとつぬ うん しらん むぬや
ちくしょーゆい ううとうる うにか じゃどう やゆる。
うちくるち していてい ぬぬ ちみぬ あゆが。
どうかし いーかきてい うちくるち とうらさ。

くぬ あたい うぬ いぎぬ ある とうくる、わんねー いちばん くぬ はんどーぐわーぬ うぬ 場面が いっぺー 好き やいびーん。

あぬ、【2、3音聴取不能】 くぬ うちなーんちゆぬ ふんとーぬ まぐるぬ あさやー。

うちなーんちゆぬ くぬ くくる いったーてい、かんし うぬ うりんかい うったいする 気持ちぬ あさやーんでい いしえー ふんとー うちなーぬ うりかーぬ 芝居ぬ うむさんでい いしえー うりかーんかい ねーらんがやーんでい いっぺー うむやびー

ん。ちゃー うむやびーが。(笑)(拍手)

やーたい。ふんとー うちなーぐちんでい いしえー 感情ぬ ある言い方とう、あつさりした言い方とう、なち なち いちよーる くとうばとう、ぜんぜん かわる、かわらんでないびらん。ただ うた うびとーぐとう ただ うた あびれー しむのー あり あらのー あらんがやーんでい うむとーいびーる。

わんにん 長年 主役 わんねー ずっと つし ちよーる くとう わん やいびーしが、なまー さいきのー ひじん ちきらつてい その他 大勢ぬ うとうむさい ぬーさい つし、うぬ ふーじー つんじーしん ていーちぬ わんねー あー、わんねー とうし とうていまでい くんとーる くとう ないぐとう あー わんねー たぬしみ やつさーんでい うむてい わんねー たぬしでい 芝居ん そーいびん。

どーか みなさん、うちなーぐちんでい いしえー、うちなー県だきどう あいびーんどー。やーたい。

<「つらね」のリズムで>

くぬ わったー しまぬ うただましーや いち いちまでいん とうむい ちじち、くぬ わったー しまぬ なみの うとうや つくわ つんまがまでいん ちじく ゆまでい、わしてー しまん うちなーぬ ちむぐくる いかな ゆぬなか うちかわてい やていん わしてー しまん うちなーぬ ちむぐくる けーてー なんん くくるぬ あゆみ。

わんねー かん いーぶさいびーん。(拍手) うれー あらんがやーんでい うむとーいびーん。ふんとーに くぬ うたんでいし よーたい、わんねー 最近 なていから わったー つんまが むーくぬ 北海道ぬ つちゆどう やいびーしが、「おばあちゃんに、この言葉、言わしたい。わたし、ライブやるから、おばあちゃん、歌ってちょーだい」つて。

「えー わんねー ライブんでいしえー わんねー んーちん んだんむんなかい、いったーが あぬー やまとうぐちさーに いったー うた うたいし わんねー なんんどー。わんねー うちなーぐちびかーんさーにどう そーぐとう」 つらねーんでい いしん

いーゆーさんあたいぬ やまとうんちゆ 北海道ぬ つちゆ やいびーしが、ええー、「おばあちゃんが、だったら、これ言える」んでい いやーに、くり かし むつつち ちえーしが、くぬ なまの くとうば やいびーん。

あい くれー わんねー んなんかい いーぶさる わん きむち やぐとう、あり うれー いち しむつさーと 思つて、なま、うんじゆなーんかい 披露そーいびーしが ふんとー やいびんどー やーたい。(拍手)

うちなーんちゆぬ くぬ なみぬ うとうんでい いしえー、いちまでいん かわらん つくわ つんまがぬちゃーが ゆぬなかぬ かわてい やていん うちなーんちゆぬ ちむぐくるんでいしえー けーてー なんんでい いる わん 気持ち、わん んなんかい ひるーさんでー なんんさーんでい。

また わったー うやぬ よーたい。わんにんかい いちやら、くーさいんしから 「しんや ていんじくに、ゆだや くに まるち、ひじや じぬ すくに、はていん みらん」。

うちなーんちゆぬ うんぐとーる なー うゆる つちゆんかい なてい くいりよーやーんでい いちよーる ちむが やら わからんしが、わんにんかい ちゃー うぬ はなし さびーたん。わんねー いみぬ わかいびらん。

ぬーがやーんでい、なま なまさら かんげーる ばーぬ あいびーん。

「しんや てんじくに」んでい いーねー、きーぬ しん やいびーさ やーたい。きーぬ しんや ていじくまでいん ちちゆるまでい、「ゆだや くに まるち」までい、くにまでい くにや まんだちゆるまでいぐらいに まぎく、「ひじえー じぬ すくに」んでい いーねー 地球 やいびーしえーやーたい。ひじんてい いしえー なー、地球までい まーまでい、

じーぬ はていぬ はていまでい はていぬ みーらん むんまでい、「うれー いるんな
くとう わったー あんまー いちよーっさー」んでい うむてい、わんねー 最近になっ
てから ன்னかい うり わんねー ちかちえーるばー。

わーが 85ぬ おいおいに うやに いしえーる[注:「うやぬ いみしえーる」の言い
誤りか] くとうば、くり うやぬ いぐんでい うむやーに ன்னかい ひるーさわる
やっさーんでい いち、うり わんねー 引き出物んかい かちやーに、うさぎたる くとう
ん あいびーしが。うり うちなーぬ くぬ 芝居 やていん、うぬ いちいちまでいん
とうむい ちじきんでい いち うちなーぬ くとうばー 世界中んかい ひるみーしどう
うちなーぬ つちゆぬ うれー あてーめー あらんがやーんでい うむとーいびーん。
うちなーぐちんでいしえー うちなーぬ しまびかーぬんかいしか うちなーぐちんでい
いしえー ねーびらん。世界んかい うぬ うちなーぐちえー まーんじ つやー うち
なーんちゆ やれー、とー あん する、うちなーぐち つし まーに。なー わからんでい
いーにからー はじ かちゆんどー わんねー つんまがぬちやーんかい うり いや
びーん。

うちなーんちゆどうん やらー、うちなーぐちえー まーんじん うちなーぐちねー、「あん
まーさい」、「わっさいびーたん」、「はいさい」、「ちゅーうがなびら」、「はいさい」、「元気
やみしえーびていー」、「はい がんじゅー やていー」、「はい、元気 やたんなー」、あんし
いしえー やーたい。

で、また なまぬ 「ありがとうございます」つて 「にふえーでーびる」、ええーまぬ く
とうばさーねー 「たんでいがーたんでい」[注:後ほど言い間違いを訂正]、あとう りゆ
んー あー[注:言い淀み] みやこー 「たんでいがーたんでい」、ええーまー また 「に
ふあいゆー」んでい、はー くぬ くとうば ன்னかい しりてい うちなーぬ くとうば
世界中んかい ひるみーしえー うれー わんねー ぬずみ やいびーん、やいびーる。
また、なーていーち、わんねー あぬー とうまいあーかーぬ

<「泊阿嘉」より乳母と樽金の歌の掛け合い>

乳母: ひるましむん めーゆる とうまいぬ たかはし かゆとーてい あきがた なるまでい な
ちあかする ひとや みじらしむん ぬー うむいぬ あら
ゆすながらん ちきば ちくぐとう ちむぐりさる あゆる つんじ んち はなしん し
ち くりわる なゆる あし はやみてい まーにが たっちょーら
えーたり えー うんじょー まーぬ なにがし やみせーが めーゆる くぬ はし
かゆとーてい なちあかする ぬが うんじょー ぬー うむいぬ あが
はじかさん しみそーらんぐとう うむいぬ あみせーらー かくしん さんぐとう い
ち ちかしみそーれー ちかりーらー ちちとうどうきやびら

樽金: えー あんまー なーや いさぬ うみちる あんまーが やんせーら

乳母: あん やいびさたり

樽金: わー つんまれー なーふあ くむじ あかぬ ちゃくし つんじやる さんぐわち あ
かちらうてい んちやる うみんぞが しがたぬ なままでい
わしららん めーゆる くぬ はし かゆとーてい なちあかちん くくる しる むぬ
ちちとう ふたい くぬ うちゆ かんしん あわりが
えー あんまー うんじや いちむ ちじに かみゆぐとう につたー ぐしゅじん う
みんぐわー うみちるに くぬ ふみゆ わたち くいんそーり

乳母: ないびらんさたり

えーたり えー うんじょー くちにん ぎーらん むぬいーかた わったー うみん

ぐわー ちゃーねーる っちゅ やぐとう あん いみせーが
 ないびらんさたり うむどうみしえーぶり

樽金： えー あんまー たんち はらだち きがぬ むとうていんどー わかさからる とうし
 ん とうんそーちやる うり あんまー たしきてい くいんそーり

乳母： いみせーせー ちむぐりさる ある うりだき やしはていていん じふいとうん うむ
 いや とうじゆる うくるざし うまちみそーり そーだん あいびーさ
 くぬ ふみどうん わったー うみんぐわ うみちる あぎていぬ あとう うんじょー
 くぬ はし かゆてー めんそーらに ゆしあしや ちかしみせーぶり

樽金： さてい あんまー なーが くぬ ふみ わたちぬ あとうからや わんねー くぬ は
 し ちゆふいさん かゆらんどー うり あんまー たしきてい くいみそーり

乳母： んだたり んだ うたびみせーぶり なま つんじ ちゃーびら

んじ あれが ってうた いっちょーやびーん。(拍手) むる うびとーん。

あんすぐとう うちなーぬ うたんでい いしん うむさいびん やーたい。ゆー せん
 ばい(先輩)がたや いるんな くとうんが くぬ きょく(曲)んかい あていてい う
 ぬ うたぬ 文句 あぬー ならびてい 詞 ぬくち くいーみせーさやーんでい うむい
 しが ふんとー 先輩がたんかい わんねー ちゃー めーなち ていー うさーちょーい
 びーん。わんねー 先輩がたんかい いっぺー うまーつてい あんし つし あぬー
 先輩がたの まぎさる 先輩がた やいびーしが わんねー くーさいに やいびーてーぐ
 とう ぬー むのー うまーん、トイレんかい いちゆる ばすに 先生がた うくち
 「そーてい つんじ くいみそーれー」んでい いち まじゅん つんじたい、あんしーねー な
 まから かんげーいねー あきさみよーなー わんねー なー ぬーん うまーん むぬ
 ん うまーん うーまく やてーさやー、と思って、いつも先生がたに ていー うさーち、
 「なー うんにーねー むぬん わからんどう あいびーてーくとう ゆるち くいみそーり
 よー」んでい いち ていー うさーする あたい やいびーん。

やいびーしが、うちなーぐちねー わからん とうくん あいびーがやー。わーが い
 ちえーしなーかい わからん とうくぬ ありば、ぬーがな 質問 あいる あいる しー
 どうん やれー、ぬーがな ちち くいみしえーぶり。

ねーびらん。お、たーん あびらん。あびみそーらん。

やーたい。うちなーぐちえー 世界中んかい ひるみりーんでいしえー まし やいびー
 んどー。

<音曲 嘉手久(カーディーク)>

あんすぐとう わ うり、なー うわり やいびーん もーりんでい いし。
 なー なーひん あびーぶさー あいびーしが、もーてい うわいびらやー。
 やさーさ、はい。あいえーなー みじぐわー ぬむん。(三線の音)

司 会： やさーさ はっはっはっは。わたし マイク もってますが。わーさっさっさ。ということ
 で えー、瀬名波先生 どうもありがとうございます。

瀬名波： なーひん わんねー あびーぶさいびーしが、あぬー 孝子は よーたい。めーなち
 運動そーいびーん

司 会： うん。

瀬名波： やぐとう とうし とうとーぐとうんでい いやーに ふゆーしえー ないびらんどー。わ

んねー めーなち すぐ うきーるばーに くり 十回なー すん。めーんかい 十回
なーっし ひさん ぱたーぱたーっし 二十回、ゴキブリ体操んでい わんねー いちよー
いびん。くび ぱたぱたさがなー 【よーがーからてー?】 しーしー あんしから はい
じゅっけー(十回) 【やびら?】。

あんすとう また ひる ないねー 四時半 ないねー あぬー あぬー 映画 あ
ぬー テレビ んじゃーに あい くんな じかん なとーんでい いやーに、めーなち
くり すん。拍手。(指笛の音・太鼓の音 ドドン)

だー 十回なー。

また おふろ いーるばーに いっつい 【聴取不能】 あんすぐとう ふゆーしえー
ないびらん。人間 ふゆーしーねー なま わかむんぬちやーとう まじゅん わんねー
しばいん そーぐとう うったーんかい まきていん ないみひやーんでい うむやーに、
いじ つんじてい (笑) そーる ちむ。意欲ぬ わんねー ちゅーさいびーんやー。うー
まーく やいびーんやー。

あんすぐとう 人間でい いしえー あぬー ただ いいちよーちーねー ぬーでい い
が 筋肉ぬ かたまいんでいやりたい。あんすぐとう 先生からぬ おねがい やたぐとう、
「あはー うれー あん やさやー」と思って なま 体操ん そーいびーぐとう どうーが
んじゅーさ するたまなかいや つんじゅち くいみそーり。わんねー あんた はちじゅー
ご(85) なるまでい えー、ぬー やていん しむぐとう、しばい つんじゃち くいれー。

おねがい おねがいさーに わんねー つんじてい いちゃびーん。あんすぐとう 元気
やらんでい うむとーいびーる。どうか皆さんも頑張ってください。(笑)

司 会： 瀬名波先生、ありがとうございます。あの、質問、質問コーナーを、ちょっと、はい。

瀬名波： うちなーぐち わかみしえーん。勉強 ないん しーどうん やれー、ねー、たかこー し
やわし やいびーん。ありがとうございます。

司 会： ありがとうございます。あの一 この機会ですので、ぜひ、あの一、会場から質問をいく
つかいただきたいなと思うんですが、えー、先ほど、あの一、孝子先生、「うちなーぐちっ
し 質問 あいびーがやー」と言っていたので、分からなかった方もいらっしやるのかなと
思ってますね、やまとぐちっし、大丈夫でございます。えー、質問を、あれば…

瀬名波： そう。何でも聞いてください。

司 会： はい、うちなーしばい、あの一、本当に沖縄芸能の生き字引でございます。あの一、おっ
きい先生方、玉城盛義先生とか、

瀬名波： 玉城盛義先生。

司 会： もう、平安山英太郎先生とか、もう私達が神様と仰いでいるような人たちと、いつ、同じ
場所にいて、呼吸を一緒にしていたと、はー、すごいです。

瀬名波： 先生がた、よーたい、ていー とうってい、あんし しえーんでいし ならーしみそーらん
たん。えーたい、わんねー いいつちやーぬ うぬ わじゃ つんじゃしー しみしえーし
が、「わんねー いいつちやーんしえー なてー んじゃびらん。ちゃー さびーがやー」ん
ち、比嘉正義先生んかい いちやぐとう、「みちんかい たちゃーに、いいつちやーが あっ
ちゅし んーでー」んでいち。とー わんねー ゆなか なー にーぶいさーに みーいん
ぐとう うんぐとう くぬさい にーぶいそーてい んーじ、「あい ちゅー いいつちやー
ううらん」でい いやーに、また なーちゃん ふか また いいつちやーが あっちゅし
みーちきたくとう、「あはー、うぬ いいつちやーが あっちゅし、びん むちゃーに かん
し かんし あっち っち、あはー、くり やっさ」。(笑) あはー いいつちやーち うんぐ
とうっし あっちゅしえー。ひつ、しゃつくり。[注：このあたり、マイクにあまり拾われてお
らず聞き取りにくい]

あの一 ぬーんでい いが(笑) なんか、戻したりなんかすると、ひつつんでい しー

しーっし。さっこー びん すしえーやー。「あはー あー、くり やたん」、うんじゅ、っやー
ひゃー しーじゅーさん なって(笑)。っやー いいなぐ やぐとう、うり まだ いりらん
ちむり っやったるばーぬ あたるむん。いいぎがー うんぐとう、っへって しんしえー
ぐとう、あー わんにん うとう すさやーんでい さぐとう、はー、うれー、っし さんてー
しむん (笑) って言われたことがあります。

司 会： すばらしい。

瀬名波： やっぱしー、あのー 人間でいしや 勉強 勉強 やいびーさやー。んーじゅる うっ
ぺー、わんねー むる 勉強。あのー テレビ んじゃがしー、「あい うれー うちなー
むぬんかい ぬーがな ちかーりっさー」とうか。ぬーがな こーいむんしーが いちゆる
ばーにん、おもちゃていん ぬーていん んじ、「あい、くれー うちなぬ おもちやぐわー
んかい ちかーりーっさー」とうか。むる 芝居ぬ くとうびかーじが かんげーてー うう
いびら。

やいびーくとう、みなさん わーが 芝居するえーか、んーちよーてい くいみそーりよー。(拍
手) いちばん 芝居ぬ っちゅぬ よーたい、くぬ かつ はくしゅ。(拍手 ぱち ぱち)
なー うり さりーねー いちばん 【もーけざけもち?】やいびんやー。げんき つんじや
びん。んじみしえーる ちゅぬちやーが ううらんあいねー しばやーん はねーかんでい
いしえーやーたい。いきらさる ばーねー えー むる はねーかんさー、んじゅる ちゅ
ぬちやー ううらんなー はねーかんさー って。やっぱし見る人がいて 舞台ん はねー
ちゅる くとう ないびーぐとう。どんな 舞台でも あのー えー うちなーんちゅぬ
芝居 そーんどー って言うことは んなさーに もりあぎてい 芝居の 応援ぬん っ
し くいみそーり。お願いします。

司 会： はい。いかがでしょうか。なんかご質問はないですか。ないですか。それか、あのー、
瀬名波先生とお話してみたいとか。えー、ないでしょうかね。

瀬名波： いいっちよーみしえーる っちゅぬ めんしえーびーん(笑)。むる しばい ずっと んちよー
みしえーる ちゅぬちやー めんしえーん。とー わーが ぬーとうんでい いちん わかみ
しえーるはじ やしが(笑)。ぬーがな いち くいみそーれー。うれー ぬーやか ねーん。

会 場： 満足です。

瀬名波： 大丈夫? 大丈夫って。

司 会： ありがとうございます。満足いただきました。

瀬名波： やまとうぐち うへー ないびんどー、わんねー。

司 会： あのー、日本語も大丈夫です。(笑) はい。あー、どうぞどうぞ。ちょっと、あのー、マイ
クがですねー、真ん中のほうにしかないので、えーと。

瀬名波： はい。はい。なにか。

司 会： はい。どうぞどうぞ。

質問者： あのー、よーさい、ちかりーみさい。

瀬名波： あい。実は あのー、芸大の このー わんねー 大学ん つんじてー うういびらん
しが、大学んかえー つんまんかい ちゅーんでい いしよー はらはらする。

司 会： はいはいはい。どうぞ。真ん中のほうの男性ですね。

瀬名波： いずみさんとのね、出会いがありますよ。

司 会： と、途中まで、ちょっと、いま、ちょっと。

瀬名波： はい。なにか聞いてください。わんねー うへーやーたい、あのー、はちじゅーごー な
いぐとう みめー うへー わるく なんとーいびーん。なまー あのー 補聴器 ちょっ
と はいっています。(笑) うれー なー かくしん さんぐとうやー。(笑)

司 会： しんしーさい、なー、みじぐわーも 飲んでください。

瀬名波： あー みじぐわーん ぬみんでい いる。(笑)

- 質問者： あ、あのー わんねー ○○○○んでい いちよーいびんよーさい。ちかりーみさい。
- 瀬名波： あー、はい。
- 質問者： わんねー ○○○○んでい いちよーいびーしが、ちかりーみさい。
- 瀬名波： はい。うん。ええーまぬ うかた。
- 質問者： あらん。あいびらん わんねー うちなーぬ。
- 瀬名波： あーあー、そっか、すばに ううる っちゅ、ごめん あい。
- 質問者： ちかりーんなーさい。だー ぬーがら 補聴器 ちかとーんでい いみしえーぐとうよーさい。ちかりーんなーさい。あぬー、うちなーんかいや うちなー歌劇んち あいびーしえーやーさい。
- 瀬名波： 歌劇。はい。
- 質問者： なま うんじゅが だー あぬー いーじまはん いーじまはんどーぐわーぬ はなし セリフ さびーたしえーやーさい。
- 瀬名波： そう、歌、歌う、そう、そう、そう。
- 質問者： あんさーに またー おくやまのぼたんぬ はなしん あいびたしえーやーさい。
- 瀬名波： はい、はい、はい。
- 質問者： あんさーに またー やくしどーとうか よーさい。
- 瀬名波： はい。
- 質問者： あのー 四大歌劇んでい いしえー、なーていーち、ぬー やたがやー。わんねー あつたに あび、うんじゅが だー。
- 瀬名波： はんどーぐわー やくしどー とうまいあーかー
- 質問者： あ、とうまいあーかー とうまいあーかーぬ なまぬ さちぬ セリフ、はなし あいびたしが やーさい。たかはしの むんが あいびーたしが。うんじゅが よーさい、いちばん しちな 歌劇んでい いしえー ぬー やいびーが。また うんじょー あのー なま さちぬ あのー とうまいあーかー やていんてー なま あんまーぬ はなしー さびたしが、あぬー
- 瀬名波： うん、とうまいあーかーびかーん・・・
- 質問者： いさぬ いさぬ うみちるん あぬー しばいさーに そーいびーしえー。
- 瀬名波： はい。
- 質問者： わかさる とうちねー あのー いさぬ うみちる。あんし いへー とうし とういねー あんまーやく そーいびーしえーやーさい。ちーあんまーぬ やく そーいびーしえー。やぐとう うんじゅから しーねー、四大歌劇んち あいびーしがてー。
- 瀬名波： はい。
- 質問者： うぬ なーかううてー ぬーぬ 芝居が しち やっさー、あんさーに うぬ しばいなーかううてい よーさい、あのー ぬーんでい いが、ぬーぬ やくがよー いちばんまし やたんとうか、うぬ はなし わんにんかい ちかしみしえーびらんが やーさい。
- 瀬名波： はい。だから、いま、やったとおりに、あぬー ぬーんでい いが、あぬー はんどーぐわー はんどーぐわー っていうのは あぬー いいなぐぬ なーかなかいが はんどーぐわー なー しーくなしえーから あぬー 役者とうし 女優とうし もうこれがいちばん じょーとー やさって、言われたことがあります。
- だから あぬー はんどーぐわー やくしどう とうまいあーかー 全部 わたしは やってきますから、全部 全部 うびてー うういびらんしが、あぬー くぬ たーちえー絶対に わしてー うういびらん。
- だから あぬー 歌劇んでい いしえー よーたい、あぬー やっぱり 声が出ないと だめだし、あのー 最近 声 声の さんしんの たかさんかい ぬえーうーさん ちゅぬちやーが ううるばーが あるばーよーたい。

うりん うりん くぬ くぬ 芸大の さちぬ あのー ていじょぐわーっし うり わんねー んじゃーに、さんしん さんなー よんなー あぎてい あびーっし んーじーねー あー わんねー わかさいに いいきがぬちゃーとう すーぶそーてい あびーたん。「つやーが なな あびーる、わんねー あびーんどー」っていうような感じで あのー戦いながら、特に いいなぐとう いいいきがとうんでい いしえー キーぬ たかさがちがいびーんやー。

あんすぐとう うりんかい あていてい すんでい いしが、あのー 役者とうしぬ じるん、どうーぬ やってきたのは あい くれー わんねー てーげーねー あぬー くーい あてーさやー と思う、誇りに思います。はい。

司 会： はい、しまびーがやーさい。

瀬名波： どっちでも。とうまいあーかー ぬーていん 全部わたしは歌劇は好きです。

司 会： はい。ありがとうございます。

瀬名波： はい。

司 会： にへーでーびる。

瀬名波： あぬー、また いいなぐやくん すき やいびーしが いちばん(一番)ねー わんねー いいきが気性 やいびーぐとう いいきが いいきがむぬん すき やいびーん。(笑) ゆーくー やいびーがやー。

司 会： しまびーがやーさい。

司 会： ゆーくー。にへーでーびたん。えー あと三分ほど時間ございますので、もうひとかたぐらい、えー、感想でも、えー、かまいませんので。もちろん、あのー、うちなぐちっし、あのー、でも、大丈夫ですし、あと、それから、やまとぐちっし あのー しゃべる、しまびーんどー。

瀬名波： やまとぐちっし やていん しまびーん。ちかりやびーぐとう。(笑)

司 会： はい。あの、どちらでもいいです。あの、やっぱり、質問も、あのー、しまくとうばで来たので、たいへんうれしかったです。〇〇〇〇〇さん、どうも、ありがとうございました。他にもうひとかたぐらい。どうですかね。

瀬名波： はい。

司 会： じゃあ、こちらから名指しで、名指しでやってもいいですか。えーとですね、今日、あのー、実は、あのー、早稲田大学から、えーまあ、数名いらしてまして、勝方先生のところでね、えー、どなたか、あのー、代表して、なにかご感想いただければ、あの、字幕が、字幕がこの辺に出てたと思うんですね、話してるときに。(笑) なんとなくは、あのー、分かってらっしゃるかなとは思いますが、えー、どうでしょうか。なにか。

瀬名波： うちなーぐち。

司 会： はい。あのー、なかなかですね、あのー、この瀬名波先生が、こう芝居以外に、こうやって、お一人で座ってしゃべる、あのー、お話をするということが、なかなかないんですね。えー、もうそれを、うちなーぐちっし、ね、いちゃんだ。いちゃんだで、聞きに来てますよ。(笑) なかなかないことでございます。

感想者： はい、えー、早稲田大学国際教養学部、えー、4年の〇〇〇〇〇〇〇と申します。えー、まあ、初めて自分は、自分自身、初めて昨日、沖縄に来て、で、こういう、えー、舞台とか、言葉っていうのを初めて、あのー、聞いて、うーん、やっぱり率直な感想として、言葉の美しさっていうものに、あのー、っていうのを 素直に感じました。でー、ほんとに何言っているか、全く分からないし、あのー。(会場、笑)

司 会： ありがとうございます。

瀬名波： (笑) ごめんね。

感想者： いえいえ。ただ、あのー、素晴らしい、あのー なんだろう、やっぱり、言葉って、素晴

らしいものだと思うので、あの一、それを、まあ、失くしてはいけないと思いますし、それを
をどんどん、あの一、さらに、え一、なん、なん、どういう形でかは分かんねーですけど、
広めて広げていってほしいなっていうのは、すごい個人的には思いました。え一、このような、
え一、貴重な場にいられたことを、え一、に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

司 会： どうもありがとうございました。

瀬名波： ありがとうございました。

司 会： はい。え一、先生、ちょうどお時間でございます。

瀬名波： うん。

司 会： え一

瀬名波： 歌劇というのはね、声がないとだめですよ。声がある、あると訴えですから。舞台、舞台
から、この、や、なー、あの一、芝居やりながら、この訴えが分からないと、聞こえない
とだめと思う気持ちがあります。

自分なんかは、マイクの無い時代に大声で、あの一、くしまでい ちかりーるぐとう っ
しよーやー というようなことを、わたしたちは先生方に言われてるから、あの一、だから
マイクのとことか、あんまり大きすぎてからに、叱られたこともあります。(笑)

え一、マイクんかい、もっと離れなさいって言われたことが。あんすぐとう、やっぱし、あ
の一、声を出すというのは芝居の宝ですね、声は。声がなければ、もうどうしようもない。

だから、声の、あの、いつも朝も自分うがいたり、この、あの、声の、たい、大事
にしますよ。のど飴食べたりね。

また 孝子が するばーに 芝居するばーに かなんじ んじーが めんそーりよー。

司 会： はい。あの、今のは、ちょっと、日本語で訳しますと、あの一、日本、あの、やまとか
ら 来てますからね、ちょっと、日本語で最後いいですか。

瀬名波： あ、あ一、わざわざ日本から来て。

司 会： 日本から。

瀬名波： 沖縄の芝居見て、あつと、どう思いますか。沖縄のちむぐくる。沖縄の人は、やっぱし、
あの一、芝居の中に入ってくるんですよ。わんねー なにか知らないんだけど、あの一、
沖縄の人っていうのは、なんか情(じょう)深い、なんか、し、あの一、あい、この人が困っ
てたら、助けてあげようっていう、その気持ちがあるんじゃないかなーと、わたしは思います。
生まれながらに、やっぱ、貧困に、やっぱし、あの一、貧乏で、みんな、あの一、戦争
に追われて、なにもない時代から、もう、こうしてやってる、あの一、芝居ですから、ちゅーどう、
あの一、戦後、化粧品もなかったんですよ。だから、あの、病院の先生から、「あへん」[注：「亜
鉛華」のことであろう] っていうのをもらってきて、こう付けてから、しろ、白くなればいいって。
それから、まゆは、あいねー マッチつけて、これを消してから、それをまいて、そのあと
からは、なべ、なべ、燃えて、火、燃やしたら、なべ、なーびひんぐー って言うてから、
これを取って油に混ぜて つわーあんだー って。豚の油。

司 会： 豚の油ですね。

瀬名波： (笑) 豚の油と混ぜてね、まゆ墨、作ったりして。で、ほお紅は無いから、あの一、屋根瓦、
沖縄に屋根瓦がありますが、赤い、この朱ドー [注：朱色のドーランのこと] 代わりにほお紅
付けて、あの一、芝居やったところもあります。また、あっちこっち、あの一、なー わん
ねー、余興とかなんとか行くときは、国頭とかなんとか行くときは、あの一 いじやいびー、つ
たらなんねー、やまとうぐち。

司 会： え一と、たいまつ、いざり、いざり

瀬名波： たいまつ、たいまつ って言ったかな。

司 会： てーびー。

瀬名波： 燃えて、たいまつ付けながら、舞台のほうに置いて、幕は しみられない。こっちに提げ

てからに、芝居したこともあります。で、終わるまでには鼻のなかー、全部、まっくーるーに なてい、真っ黒くなつてからに、みんな、お互いに見ながら笑ったこともあります。あんたの鼻よー、あんたの鼻よー、って見たら、とつたら、みな、まっくーるー。

司 会： (笑)。

瀬名波： まっくるけー(笑)。って、なつたこともありますね。こんな芝居もやりながら、自分はもう、この85年、あの芸歴は75周年です。やって、やっぱし、あの一、わたしは面白いですよ。楽しんでます。やるだけは。わたしは芝居やるだけ。自分の足の立つあいだは、絶対にやる、決めてます。(拍手)

司 会： はい、えー、先生、どうもありがとうございました。

瀬名波： ありがとうございました。

司 会： えー、今一度、大きな拍手、よろしくお願いいたします。

瀬名波： いいですか。もーらさんばーい。

＜三線の音・アッチャメー小＞

司 会： これをもちまして、本日の講演は終了いたします。お忘れ物のないよう、お気を付けてお帰りください。またのご来場を心よりお待ち申し上げます。

8-2 八木政男先生のしまくとうば講演会(2018年2月11日)

翻刻 平良 徹也(沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員)

分かち書きチェック 西岡 敏

翻刻チェック 事典作成部会

- ・本稿は平成29年度県芸大しまくとうば実践教育事業／2018(平成30)年2月11日第2回講演会 八木政男先生による講演会の録音音声进行を翻刻したものである。
- ・講話は大枠では4段構成で展開されているが、枠組みを作る為に各段の区切りとして2行の間を入れた。(講話自体は途切れることなく進行しているので、これは翻刻者の判断によるものである)
- ・本編にかぎり、[ji](ヤ行のイ)の発音表記については、部会で使用している「いい」と「ゐ」を併用した。これは本講演内で、八木先生が「ゐ」と書く字であると指摘されていることによる。

事務局女性： それではこれより第2部の始まりとなります。第2部は八木政男先生の講話をお聞きいただきます。講師の八木政男先生は1930年那覇市泊のご出身で、1943年に大阪で戎座大宜見朝良舞踊団に入団。戦後、公営竹劇団を経て、大宜見小太郎が座長を務める大伸座へ創立とともに入団されました。現在、沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者でいらつしやいます。それでは、八木政男先生にご登場していただきましよう。

ご来場の皆さん、拍手でお迎え下さい。

—— 「丘の一本松」のテーマで八木政男先生登壇 (以後、八木と表示) ——

八 木： はいさい ぐすーよー、ちゅーがなびら。

なま 「丘の一本松」の テーマソングぬ つんじたぐとう、ちゅらーさ、ぐわんくーすー
ぐわーる ないがやー、りょーすける ないがやーんち、とうぬーまーぬー、そーいびーた
しが、あーはー、ちゅーや にへーでーびる。わん ちゅいが たみに、うさきーなー

めんそーち くいみそーち。にへーでーびたん。

あー ささやかな拍手。(会場反応して、笑い拍手)・・

かんる あいびーぐとうよー、うふえー ちぶ たらーんる あいびーぐとう、つふ(笑い)。

あー、ちゅーや、えー、くぬー うー、鈴木先生 うりから 池宮君でい いやーに、あぬ、舞台監督そーいびーしが、国立劇場ううとーてい まじゅん しぐとうん っし、

「ええー、じちえー 政男さんよー、かんかん やしが、かんかん っし とうらさんなー」

「やんー んだ、あんせー かんかん さな」でい いやーに、ひっひっ(笑い)、あんさーに かん なとーいびーん。はっ、はっ、はっ・・(会場反応して、笑い拍手)

んああー、りっぱな ステージ、舞台 やいびーん やーさい。んーじやつさいびーらやー、つわーびから かんしっし。(会場反応して、笑い)あー、めー、めーぬ ちょー また、くりっし われーしが。はっはっ(笑い)。

あー りっぱな 舞台ぬ でいきてい、うー。あー、わんにん いっぺー しやわしんでいうむとーいびーん。ぬーがどうん やれー、くぬ、芸大ぬ でいきたぐとうよーさい。あっさまよー、いっぺー なー ていー うっち、くるぬ なー いっぺー うっさいびーたん。

ぬーがどうん やれー、だーさい、うぬ、せんごー、やくしゃ(役者)ん だてーん、わんから わんからっし、あぬ、役者 ないしん まんろーいびーたしが、あー、なー、なかなか みー つんじてい くーんよーさい、わかむんぬちゃーが。

「うん とー くれー なー、しばやー、役者ん、わかむんぬちゃーが、つんじてい くーんあれー、なげー むたんしが、ちゃー ないがやー」んち、いっぺー しわ そーいびーたしが、芸大ぬ でいきてい、はー なー、くんとーる なー うっさぐとー ねーやびらんたん。

あんさーに、わんにん、うんじょー、あの一、当時、えー、課長 やみしえーたる 大城學先生んかい、「あの一、かんかん っし とうらさんなー」でい いちやぐとう、「あん やいびーみ、かんかん」んふっ[注:言い淀みか。聴取不能]。また、かんかん、はじまとーいびーしが・・・

あんさーに、国立劇場ぬ、こけら落としかから、「はんろーぐわー」「とうまいあーかー」「やくしどー」「おくやまのぼたん」 うりから 「なかぐすくじょーわ」、これも 名作五大歌劇。まっ、三大歌劇んでい うんぬきーるんせー、「はんろーぐわー」「おくやまのぼたん」「とうまいあーかー」、これ、まー、三大歌劇んでい いちよーいびーしが、この、五大歌劇んでい いーねー、まー、「なかぐすくじょーわ」、うりから、新しく、あー、くれー、新しくんでいちん、んかし、戦前、つんまりとーる 芝居 やいびーしが、あの一、「そめやのこいうた」んでいーる、これっ、高江洲紅矢さんが ちゆくとーみしえーし、ちゆく、ちゆくみそーちやる しばい やいびーしが、くりん、いっぺー、あの一、もー 名作 あらんがやーんでい、わんねー うむてい、あんさーに くぬ しばやん、国立劇場ぬ わかむんぬちゃーんかい、しみやびたしが、おほー。まー かんしっし 歌劇ん よーさい、あの一、いっぺーでいきてい、なまー なー、くぬ 国立劇場ぬ わかむんぬちゃー、あー、いっぺー、まっ、かーぎしがたぬ うちやてい、たきふどう うちやてい、ふどうぬ はなし しーねー、わーが うふえー へっへー(笑う)いふーなー やいびーしが、とにかく、あー、りっぱな、あの一、役者さん、芸人ぬ つんまりやびたん。

うたさんしん、古典、くみうどうい、うちなーしばいから、かりくり、はー、いっぺー、なまー、なー、じょーとー なとーいびーん やーさい。んな、うみーかなさっし むいすだていていうたびみしえーびりよー、うにげーさびら。

あー、ちゅーや よーさい、かんし とうんじてい ちょーしえー、まー、うぬ タイトルぬ、「ふくらしやや しまくとぅば」んでい、いっぺー、ぬーんでい いやびーが、ちびらーしー、タイトル やっさーんでい、わんねー うむいびーたしが、しまくとぅば、くれー なー う

ちなーぬ しまくとうばんでいしえー「うちなーんちゅぬ ちむぐくる やら」んでい うむい
びーんでー、おー。わんにん あんすぐとう よーさい、「ちゅくとうば、たくとうば、しまくとう
ば」んでい いやーに、これ、平成4年から はじまいびたん。なー、だーさい、さんみんつ
しんじみそーれー。「いっばちが かんぱち、やーじぐわーぬ つわーぐわー きっちやりば、
ぐー。うりつ」。26年目 ないびーん。あーはー。しづちゅくとうば、たくとうば、しまくとうば」。

うぬかわい よーさい、くぬ えーていする あの一 女子アナウンサー。あー、まー、「ア
ナウンサーんでいしえー、まーぬ くとうばん わかりわる しぐとうぬ たみ やくとう」
んでいやーに、ぱっ(唇を鳴らす音)、あんさーに、あの一、女子、若い女子アナウンサー、
あー、に、まー、えーていっし、うちなーぐち ならーすんでい、うぬ むつていさーに、そー
いびーしが、なまー、仲村美涼(なかむらみず)ちゃんでいやーに、新人アナウンサー や
いびーしがよーさい、ぐすーよー、だー、テレビん うみかきみそーち、うわかみせーる
はじ やいびーしが、あぬー、くぬ 美涼ちゃんしーていー 8にんめ かわやびーん。26
ねんちかく、8名。伊佐【マリコ】(いさまりこ)から はじめてい、なー しぐ、あんさーに だー
さい、あぬー、めーいいなぐぬ かたー、とうしぐる ないるん しえー、にーびちん しわる、う
うとうん むつち、にーびちん しわる やいびーんさい。あんすぐとう、とうしぐる ないど
うん しえー、なー、にーびちし、はいる さびーんでー。(会場笑い) あんすぐとう、ちゅら
さ、8にん かわとーいびーん。8にんめ やいびーしが、おー。

あんしん よーさい、いっぺー ぬーんでい いやびーが、やり甲斐んでい いやびーみ、
わんにん、あの一、逆に うぬ わかむんぬちゃーから、おー、いっぺー 元気をいただ
いて・・・うふうふう(笑う)。あんすぐとう、わかさいびーらやー、わんねー(会場笑いと拍手)
えー、うふふふー(八木笑う)。どうーくる いれー ちゃー すがやーんでい うむいしが、
うん、どうーくるん わかさんでい うむとーいびーん。あんすぐとう、わんねー いちにちに、
うんじょー、いくけーん かがん んじゃびーぐとう。ひつちーゆつちー かがんどう、んちょ
いびーる。うふーん。

あぬー、わかさんでい うむいるん しえー、わかく ないびーん、ちゅにんじの一。あー
なー、わんねー とうし とうとーさー、ええー、かがん んじゅしん うとうるさつさー
うむいねー、たつた、とうし とうやびーぐとうよー、わんねー なー、前向きに、うー、とう
ち、なー、しぐ、かがの一、ひつちーゆつちー、かがん んーち、あー、そーいびーしが。

くとうばん よーさい、だてーん うちかわてい ちょーびーんろー。うーん。

なまー なー、わかむんぬちゃーや 新しい くとうばん、どんどん、あの一、っんまりてい
る ちゃーびーぐとう よーさい。うー、うりん じょーとーうやいびーしが、あんしが
なー うぬ じょーとーうがやら やなーがやら、わからん なてー しーしーする ばー
ぬ あいびーん、ふつふつ(笑い)。ぬーがどうん やれー、わかむんぬちゃーが ちかとー
る くとうばー、あたとーる ふーじーが あたらん、んんーんー、んでい いやびーみ、
いふーな ばっぺーひっぺーぬ あいびーんやーさい。

あの一、んー、ラジオ番組、すつ、しつ、うんなげー そーし、あー、しーるん しえー、
いるいるな くとうばぬ ちかりやびーしえー、ラジオから。

あぬー、民謡ぬ 歌い手さん やいびーしが よーさい。うれー だー、たーんでー なー
や いー、んやーな、いる わきねー いちやびらんしが、あの一、例えば、あの一、うー、
くれー、じーぬ ねーん なやーに、じゃーふえー なとーらんり うむいびーしが、「ゐ」
[注:本部会では「いい」と表記] ンでいる じー(字)ぬ なまー ねーやびらん。「いいー」
や 「いー」んかい なとーいびーしえー。「いいー」は「いー」。だから、「えん(縁)」という
のは、うちなーぐちさーねー「いいん」でい いりわる やいびーせー。「いいんぬ ふかさん」
とうか、「いいんぬ あつてい[注:言い間違い]、あたぐとうる いちやたの一 あらに」。「い
いん」「つやーとう ありとー いい、いっぺー いいんぬ あんろー」とうか。あの一「いいん」

でい、いやびーしえー。

うり よーさい。あの一、歌い手さんたちが、実際に、ラジオ ちちよーびーいしが、「なーたいや、“いぬん”、“いん ちりてい わかりやー”“な一、いぬん ちりとーぐとう、いん、な一、いん ちりてい わかりらやー”」り いる くだり、実際に うたとーいびーん。あーあ。は一、な一、うん とー でーじ なたん。は一、「いいー」んでい いしが、なかなか いーゆーさんさーやーでい うむてい、「ぬがっ、いん(犬) ちりてい わかりーる。まやー そーらんれーさん」。はっはー(八木、会場の皆さんとともに笑う)・・・、

「いん ちりてい わかりらやー」んでい【・・・音声不明瞭につき判別不能】れー。

ほー な一、うぬ 「いいー」んでい いしが、いつペー よーさい、うちな一ぐちえー、「いいー」や、うふく ちかいびーん。「っんまんかい いいーちよーれー」とうか やーさい、「っんまんかい いいーれー、っやーや たちくんぱいし ぬー やが」、「いいーれー」、「座りなさい」んでいち、「いいちよーぎ」、「っんまんかい いいちよーけー」、「いいー」というのがなくなっている。

かんねるーぐわーし(指で“ぬ”の字を描く所作をする)、むちかしー じーや やいびーんてー(会場どよめく)・・・あんしが、うりが むる “いー” なやーい。

くねーだ、東京から よーさい、あの一、わんにん はじみている いちやいびーしが、東京ううてい、くんどー 9月に、あの一、ぬんか(不明瞭) むゆーしむんぬ あんでいやーに、くりが パンフ んちやぐとう、“いな”・・・“いー”と 書いてある よーさい。ひらがなの “いー”。“いなぐのかい”でいち なとーいびーるばーてー。あんさーに、うりうぬまま わんにんかい、ゆり ちかちよーいびーん。

あんすぐとう(不明瞭) わんねー また、「あー とーとー、うれー あの一 ぐぶりーやしがやー、あの一、くれー、もう “ぬー”が ないから、まー、っやーや、いらびいらび “いー”んでいち かちえーしが、“いー”と書いても 「いいー」と 発音してちよーだいねー」んでい、わんねー いち よーさい、

だーさい、“いなぐのかい”んでい いーねー、わったーが ちちねー、ちゃーしん 納得ぬ いかん。おー、あの一、いらびいらび、うぬ、“女(おんな)”という じー 書いて「いいなぐのかい」んでい いれー、うふえー、わかいやつさいびーさ。すぐ、ひらがなさーに “いなぐのかい”んち、かかっとういびーぐとうよー、「うれー あんし かからわん しむぐとう、なまー なー じーや ねーんる なとーぐとう、うぬ かわい、はっおの一 ちゃんと 「いいー」んでい いりよー」でいち、いやびーたしが、うおふおー、まっ、うぬ ふーじーし よーさい、くとうばぬ、あ一、なまの一 わかむぬちやーや、なかなか、あぬ、むちかざる ぐとーやびん。

あんすぐとう、あの一、これ 実際に また あたる はなし やいびーしが、よーさい。

なぐうとーてい、くぬ、にーしえー たい、っんじやーに、ある 篤農家んかい っんじ、おばーさぬんかい

「うんじゅなーや、あの一 ひーじゃーん、めんしえーびーみ」んでい いちやんでい。

ひーじゃーんかい、敬語 ちかてい・・・。

あんさー、うぬ おばーさの一、また、あぬー、てーふあんり うむやーに、

「うー。あぬ やーぬ くしんかい、だてーん、めんしえーびーんどー」んでい いたんでい。はっはっ(笑い)、あんさー あとうから、「とーとー、くぬ にーしえーや そーむにーやてーっさー」と、おもっ・・・、あの一 うむてーる ふーじ やいびーしが。

まー、かんしっし よーさい、うちな一ぐちん、ばっペーひっペーぬ あいびーん。

はまちどりぬ うたぬ あいびーしえー。「はまちどり(浜千鳥)は、はま(浜)で ちゅいちゅいと なく」、ちぢゅやー。まー 「ちどりは ちぢゅやー」んでい いやびーしえー、うちな一ぐちさーに。

「ちぢゅやーうどうい、ちぢゅやー。はまちぢゅやー」んでい いんでー。

うり、あの、はま「ううてい」でい いーねー、はま「で」。はま「で」でい いーねー、はま「ううてい」 なりわる やいびーる。うり よーさい、実際に うたー、はま 「うてい」 ちゅいちゅいなーんし、うたとーん。

あー、はま 「うたん(売たん)」。っやー あの ゆなばるぬ はまー、むる っやー むんどう やていー、ふっふっふっ(笑い、会場からも笑い)、ちゃっさっし 「うた」が・・・でいる くとうんかい ないん。はま 「うてい」 ちゅいちゅいなー、はま「ううてい」、「うう」なりわる やいびーしが よーさい。はま 「うてい」 ちゅいちゅいなー んでいいちよー。うおー・・・。

ちよーどう、なー うれー、しまにゆつてい くとうばん、またー、くとうなてい ちゃーびーぐとうよー。いちまんどーん やれー「ちゅーしんかい、くーん。くーんしんかい、くーん」[注：糸満方言の否定形には「くーらん」もあるという研究もある]でいる、まー、うぬ ふーじぬ はなしん あいびーしが、うおー。まー、かんしし あぬー、ちがてい ちゃーびーん。

くれー また、実際に まーぬ 放送局んでい いる わきに いちやびらんしがー、くぬ ふーじーが あいびーたん。ふんとーぬ はなし やいびーんどー、うおー。わんにん、上原直彦ー まじゅーん ちちゃーに よーさい、うーわれー さびたしが、くわーし(菓子)ぬ 宣伝 やいびーん。くわーしぬ コマーシャルぬ ちむえー やいびーしが、うぬ くとうばん、あぬ、つわーびんかい、ぬーがな、くつつ、くとうば ちきれー、ぬーん あいびらんしが、「おいしい」んでい いし、うちなーぐちさーに、わかみしえーびーらやー。「まーさん」んでい いやびーしえー。

「まーさん」 平板に くぬ 「まーさん」んでい いれー しむしが、「まーさん(下降調)、まーさん(下降調)」んでい いぐ・・・(会場笑う) くわーしぬ 宣伝 やいびーん。・・・「まーさん(下降調)、まーさん(下降調)」でい いぐとう、「とーなー、いちよー」(会場笑う)・・・「やたんー」でい いる くとうんかい。はい。

あんさーに 「まーさん(下降調)」でいる、こういうイントネーション、くれー、糸満やれーあぬー、うぬまま やいびーんやー。「まーさん、まーさん」んでい、糸満ぬ はつおのー、あの、ううー いーよーや、うぬ ふーじー やいびーしえー。

「はんもーげー、まーさんとうわえー」、「まーさん あっぴーたーよー」。うぬ、そういう節まーし(回し) やいびーんやー。あんすぐとう、いとうまんどーん やれー、ふしまーしえー 「まーさん(下降調)」でい いらわん しむしが、「はんまおー」が はいりますね、うえに。はんまお「まーさん」とうわえー。かん ないねー、びちに 問題 ぬーやびらん。ただ 「まーさん(下降調)、まーさん(下降調)」んでい いぐとう、「いちよー」んでいいる くとうんかい ないびーん・・・うふふふー。(笑う)。

あんすぐとう よーさい、うちなーぐちん いーばっぺーいねー、じんとー いちでーじな くとう ないん わき やいびーしが、くりん よーさい、うちなーぐち、また、うちなーうとーてい ちかれー しむしが・・・また、たび、くににゆつてい ちがいびーぐとう、くり、ブラジルんかい つんじやる はなし やいびーしが よーさい、ふんとーに あたる はなし。

だい1かい、はじみてい ブラジル サンパウロ すっとうくんかれ[注：音声不明瞭だがこのように聞こえる。「～んかい」か。]、つんじよーいびんてー。あまんじ 芝居そーいびーん。

うぬ 芝居ぬ 内容や、あー、大宜見小太郎、大宜見静子 奥さんの 主役 やいびーん。あんさーに、あの一、大宜見静子は 大宜見小太郎の おかあさん役 やん、あんまーぬ 役。時代劇 やいびーくとうぬ、あんさーに うやっくわ むんろーし、うやっくわ むんろーさーに、くぬ やーから とうびつんじーる 場面、うぬ 息子が。あんさー、やー

から とぅびつんじーねー、いいなぐぬ うやー、「えー たら」。

うりが よーさい、うちなーうとーてい “太郎は、たらー”になります。時代劇の たら、
“たらー”や。あー、まー、現代の “太郎は、たらー”、“次郎は、じらー” “三郎は、さんらー”
うぬ なかなかい、「かみじやー」「まちやー」とうか あいびーしが、ま、かんしっし、かわ
てい いちやびーんてー、時代劇とう 現代劇は。

あんさーに、うぬ “たらー”、時代劇 やいびーでーぐ・・・、やいびーてーくとう、“た
らー”や 大宜見小太郎の 役 やいびーたん。あんさー、うぬ 大宜見小太郎が、“たらー”
が やーから つんじてい いちゆる 場面。いいなぐぬ うやー、なちよーてい とぅみ
やびん。

「えー たらーよー、つやーが ちねーから つんじてい いちどうん しえー、くぬ やー
や、ちゃー ないが。えー たらー」んでい いち、あびたぐとう よーさい。ブラジルぬ ちゃ
こー、わらとーいびん、わらとーいびん。

わんねー また、あぬ、まくみちやー そーいびーてーぐとう、すばんかい。あんさーに、
わったーが やどう とぅつとーる 山田さんち めんしえーたん、ブラジルぬ っちゅ。

あんさー、わんねー うぬ っちゅんかい、

「えーさい 山田さん、ぬーんち つんまー、ちゃこー わらとーいびーが。つんまー
わらいつ、われーつとくろー あらん。うんじょー つんまー、うちなーうとーてい しー
ねー、ちよつと しんみりした 場面や しが、うーうつ、うちやこー わらとーいびーしが、
ぬー、ぬーんち わらとーいびーが」んでい ちちやぐとう、

「政男くん、つんまーひやー、あぬ、なま、“たらー”んでい いちやぐとーる わらとーしが」

「ふー、ぬーがさい “たらー”んでい いしや、うんじょー、ちゅぬ なーどう やいびー
しが」 いちよーいびーんてー。

「いやいや、うちなーうとーてー、ちゅぬ なー やる はじ やしが、くぬ サンパウ
ルうとーてー、つやーや、“たらー”んりーし、ちゅぬ なーや あらん ないん」

「うう？、ぬーが あんしーねー くまうとーてー、ぬーんでい いちよーる いみ やい
びーが」でい いちやくとう、

「はっあ、“たらー”んでいしえーひやー “すけべー”んでい、いちよーる いみる やし
が…（笑い、会場も笑い）“いーらー”とうか、“すけべー”とうか、うぬ いみ やるぐとう。
んちや、うれー われーしる ふんとー やさ」んち。

いいなぐぬ うやぬ うんじょー、どうーぬ つくわんかい 「えー、すけべーよー」でい
ち あびたる ちゅぬ まーなかい ううが。あんさー、わらとーる ちむ やいびーしが、
あんさー わんねー しぐ 座長んかい、小太郎んかい、

「えーさい あんしる わらとーいびーしが、なー けーやびら、なー けーやびら」でい
ち、

「やさやー、“じらー”んかい なちよーけー、“じらー”んかい」、

あんさー、ちゅいや “じらー”んでいち せつかく のーち いちよーるむんぬ、また
ちゅいぬ むんぬ “たらー”でいち あびてー しーしーっし、（会場笑い）、なー ぬー
が くーいーがやら、むる わからん なてい（笑い）。

あんすぐとう よーさい、「はー なー しばやーっしん、あぬ、ゆすぬ くになかい
いちゆる ばすねー、くまんじえー、ぬーんでい いがんでいち、とぅーていからる ないっ
さーやー」んでいち、はなしん さびたしが。

ちーでいに、わんねー うぬ 山田さぬんかい

「えーさい、山田さん。あの、あんしーねー、くまうとーてー “おじいさぬ”んかいや、ぬー
んでい いちよーいびーが」

「“おじいさん”なー、おじいさぬんかいや “ぼーぼー”んでい いーさ」んでい。（会場

笑い)

「ほー。あんしえー うんじょー “ぼーぼー”んでいしえー、うちなーうとーてー、あかんぐわんかい “ぼーぼー”んでい いやびーん。ぼーぼー?、うんじょー てーふあー あいびらに。」

「んーんー、そーむにーろー、てーふあー あらん。」

「ふー、ふんとーぬ くと。あんしえー、おじいさんぬかいや “ぼーぼー”。あんしーねー ぼーぼーんかいや ぬーんでい いやびーが。」

「ぼーぼーんかいや “ねーねー”。」(会場笑い)

「うんじょー わんる うしえーとーるい。」 さー、とー、

ほんとの話なの。うー。

まー、かんしっし よーさい、あの一“ところ変われば品変わる”んでい いやびーる。くとうばん かんしっし かわてい いちやびーん。また、かわいつとうくるぬ うむさ あいびーぐとう ちゅーや よーさい、わんにん、あの一、ぐすーよーんかい、な一、あの一、くぬ ふーじぬ くとうばん あたんろーやーんでい いち、ぜひ、うびーんじゃち けーんじゃしっし、えー、くいんしえーびり。

あの一、ひるいあとうみてい、あちみてい ちょーいびーしが よーさい、うちなーぐちなかいや、まー、「かさねことば」んでいしが あいびーんやー。まー、わんねー、えー、「畳(たたみ)」という字を書いて、えー、「畳語(じょうご)」んでい いちよーいびーしが、くぬ うー、うちなーぐちぬ うー、重ね言葉、はー かんし、な一ひん だてーん ある はじ やいびーしが、わーが よーさい、くつさ、あちみてーいびーしが、まじ、うんぬかてい くいみせーびり。

あの一、うみーあたいる くとうばん、「うん、わったー しまんじん あん つゆんろー」んでいち、あの一、うびんじゃしみせーる はじ やいびーしが。

まじえー、えー、うちなーぐち かさにくとうば。

「あまはいくまはい」「政男よー、まーが あつちゆら。あまはいくまはいっし」

「あまはいくまはい」、「あまみーくまみー」、「あんいーかんいー」、「あぐいひぐい」。

「あぐいひぐい」んでいいしえー、あの一、道のくねった道のことを言いますね。あー。あぐい、「くぬ みちえー、あぐいひぐいっし」 もうもう、死語になっていますね。こういう言葉は、「あぐいひぐい」。

「あんないかんない」。「いっちやいつんじたい」。うんー、あー、「いちやいはんちやい」。「いったーわったー」。

「うんぶいこーぶい」。これも、幼児語ですね。「うんぶいこーぶい」。

「ゆったいくわったい」、「うていんちからん」、「たっちやいいいちやい」。「おーやーていーやー」「あまぬ みーとうんだよー、とーうち おーやーていーやー」。

「とーうち ちちゃんばんちゃん」。「きつつやきひつつやき」。「くるびんけーりん」。「くんちやいしかたい」。「ごーぐちひやーぐち」。「ひったくまったく」。「びりんばらん」。「ゆんたくひんたく」。「しんばいかーぱい」。「とるばいかーぱい」。「みーひちはなひち」。「ちくんぶちくん」。

「ちくんぶちくん」でいし うむっさいびーんやー、「きこん」ですよ。おー、「きこん」。「ぶちくん」でいしーねー、ぶちげー ないし やいびーしがよー……。すー(息を吸う)、んー。「なんじさーよーがらー」、「ていーよーひさよー」、「うんなくんな」、「いーなぬふえーな一」、「いっさんばーえー」、「にーぶいかーぶい」、「ふいつちーゆつつちー」、「うーやーからからー」。

くーさいねー わらばーたーや、とーうち、あぬ、「うーやーからからー」っし よーさい、うん、おー、うやのー な一、しぐ、うやぬ すばからー はなりららん[注:「はなりりやらん」とも聞こえる]、うー。「うーやーからからー」 さびーしえー。なんくる あんしが、な一、うふつちゅ ないねー、うー、うーいんどうくろー あいびらん。もー、おー、小学校ん 高学

年 ないねー、やーさい、うやからー はなりている いちゃびーぐとう、うん。「うーやーからからー」。

「ちゃーしんかーしん」、「からくいまちぶい」、「くーへーぶーぶー」、「じやーふえーていーふえー」、「とうんくいーはんくいー」、「ぶつとういふいつとうい」、「かんちりがんちり」、「ぐーとうみーとう」、「ぬーにんくいーにん」、「うっちゃいたたちやい」、「うっちゃえーふいつちえー」。(紙をめくる音)

「のーくとうくとうー」(会場笑い)、「のーとつとろー」(会場笑い増える)。

「ちゅぶろーがながん」、「みーひちゅひちゅー」、「みーじんじん」、「みーじーなー」。

「みーじーなー」んち、おー、「目からホタルが出て来い来い」んてい。「みーじーなー」。あの、ホタルのことを「じーなー」と言いますからね、ホタルのこと、「じーなー」。うん、あんとう、「みーじんじん とうぶん」でいれー、こー、おー、なんて言いますか、目が、ねー、うおー、うおー、うぬ、「みーちやかちやかーし」、くぬ、「みーじんじん」。ちょーど、なまちぶるやんさーに、うん、気分が悪くなつてねー、「みーじんじん とうぶん」、「みーじーなー」。

「みーちやかちやかー」、「みーぱちぱちー」、「みーなだそーそー」、「みーはぎちよんちよん」、「みーくらがん」、「みーこーがー」、「あかみんだらー」、「みーぐるぐる」、「はなぷちぷち」、「はなくんくん」。はなん、あー、「はなむにー」「はなはんち」、「はなむじゅむじゅー」。「くちえー、がん」[注：言い間違い]、がくがく、「くちがんすい」。(会場笑い)

「くちがんすい」と言うの、はい、んおー、がら、おい(口ごもり)、表現が 面白いですね。あの、かみすりに…、「かみそり」のように「口がかなう」。おー、「口がたつ」、やいびーっさやー。おー、かんすいぬ ぐとう。かみそりには、「かんすい」と いうんですがねっ。あー、「かんすいぬぐとう、くちん かなゆん」でいーる ぐとう やいびーっさやー。

「くちひんけーていーひんけー」。「くちぶーち」。「くちびんさ」。「はーぶちぷちー」。「はーぎしぎしー」。「つわーしばふとうふとうー」。「はーがちがちー」。

んー。「みみぐすい」。「みみがくむん」。「ていーぱちぱちー」。「ていーよーふいさよー」。「ちぶどんどん」。「ちぶわさわさー」。「んにふとうふとうー」。「わたくわちやくわちー」。「わたごろごろー」。「わたぼんぼん、「あいすぼんぼん」(会場笑う)。

「ふいさしりしりー」。「ふいさだーかー」。

「ふいさだーかー」は面白いですね。こー、ねー、あの一、ひっ、「ひさだーかー」。こー、足先で、こー 立つのを 「ひさだーかー」と言いますね。「ひさだーかー」。

「ふいさしりしりー」。「ふいさまんちゅー」。正座することですね、「ひさまんちゅー」。

「ちびふいふい」ち。(紙をめくる音)

んかしえー、「やまとう うくさん あ、ちびぬ まぎさぬ あっ ぶったぶったぶった」んでーる うたん あいびーたしが、「ちびふいふい」。

「いっすいかっすい」。「たんかーまんかー」。

「いったーとう わったーや、たんかーまんかー やたんろー」、あー、「たんかーまんかー」。

「しったいくわったい」、「どうるぶったー」。

「たつくわいむつくわい」。「たっちきむっちき」。「くーしーかーしー」。すー(うるつときて、鼻水をすすする音)

「くーしーかーしー」んてい いーねー、わんねー、くーさる ぐとう うびんじゃさびーん。だーさい、ふいんすー たきちきてい、とうーち、「くーしーかーしー」る、ちちよーいびーてーぐとうよー ほっ(笑い)、わったー いいなぐぬうやぬ。あの一、そーぐわちちん、うりから そーぐわちズボン、くつぐわー。そーぐわ…、しちぐわちそーぐわちねー、みーむん こーてい くしやびーたんてー。あぎじゃびよー、あしじゃんれーん、そーぐわしあしじゃんていやーに、かつ、あーの…、くまんばーろー、んん、しぐ、ゆーろー まっくわぬんかい うちきてい…いひっ(笑う)、あんしかるる、くまいびーたる、おー。そー、あぬ、「そーぐわ

ちあしじゃ、やーさい。おー。

あー、「たっちきむっちき」。「くーしーかーしー」。

あんすぐとう、いいなぐぬうやぬ、ズボン こーていん よーさい、わったー いいなぐぬうやー、うんじょー てーげー やりていからる くーさびーっさい。つつ、つげたし、やりらんばーる くーしえーびーたる。(会場、爆笑)「やりていからー まに おーらん」りやーに、「どうせ つんまー、つや、つやーや、やいぐとう」んでいやー、つんまー くーし、はっ、はっ。(笑い)

かんしのー しみそーんなけー。「あはー」んでいやーに…(笑い)、はっーはー、はー、はー、(高笑い)・・・。うーん、

「よーげーひーげー」、「まんちゃーふいんちゃー」、「とうんじやいはにたい」、

「あんでいらくわんでいら」。

「あんでいらくわんでいら」んでーる、なー、「死語」なとーいびーんやー。「あんでいらくわんでいら たーぐぬ みじ、ゆったいくわったい」んでい、おー、「あんでいらくわんでいら」。「いっぱいかつぱい」、

「えー、うちや、ちゃーんでい むのー、あー、しちぶびけーん、ななぶびけーんりちじゅんち ある。つやーや いなー、いっぱいかつぱい。ぬーが、わんねー つやーがー、いしじえーくーんでい うむとーるい」て、こういう言い方がありましたねー。えー、えー「あんでいらくわんでいら」、「いっぱいかつぱい」とうかねー。

「ゆったいくわったい たーぐぬ みじ」ですよ。

「かしーかしー あっけー」、「あくたちくた」、「うちかさびかさび」、「いちむどういけーむどうい」。(紙をめくる音)

うっさん あいびーるやーさい、(会場ざわつく) うー。

まー かんしっし よーさい、んおー。あの一、ぬーんでい いやびーが、なー ちゃっさがら わかいびらんしが、ほーおお… うちなーぐちぬ まー、複合語んでい いやびー…、重ねくとうばんりーし いやびーしが、おー、こつ、言葉遊びですね。ぐすーよーん、やーんかい むどうみそーち くとうばあそびっし いったい…、んーじみそーれー、いつペータのしみ やいびーん。

あんさーに よーさい 「まーたるだーかー」んでいし、わかみしえーびーがやー。

「まーたるだーかー」・・・(会場からの答えに)・・・あいつ、ぴんぽーん。ゆー わかとーみしえーる つちゅん めんしえーびーさ。はい。くぬ 「かたぐるま」のことですね。あちみてい ちゃーびたん。ぐすーよーんかい、ちゅー 披露すんでい いやーに よーさい、政男や わじゃわじゃ、うん 「かたぐるま」。

なーひん だてーん ある はじ やいびーしが、ある うっさ、ちちなーてい、あぬ、あちみてい ちゃーびたんてー。

まじ、なーふあー、「ぶーとうるくわー」んでい いやびーんやー。

「あじんぼんぼん」、「かたぐるま」のことですよ。あー、わったーが くーさいねー、うんどーくわい んーじゅんでい いやーに、だーさい、しぐ、いいきがぬうやんかい、かたんかいぬしらりやーに、かんし、んーじゃびーたしが、かたぐるま。「ぶーとうるくわーん」。

あの一、垣花、「かたかたうーふあー」。

安里は、「まーちだんかー」。

しゅい(首里)は、「まっただんかー」、「まーたかだーかー」。

小禄は、「かたかたつんまー」。

浦添市は、「かたかたー」。「とーるんまー」。で、浦添市でも、沢峠ですね、えー、「とーるんまー」。

うりから、とみぐすく(豊見城)、「かたしんぶー」。

糸満、「まーすだーかー」。

東風平たかはら[注:「高良」のことか?]、「たかつちゅー」。

大里村めどりま(目取真)、「ていんがーみー」。

あつ、めどりまんでいちゃぐとう、うびんじゃちょーいびーさ。

大宜見小太郎、大伸座、旗揚げさつとうくろー、めどりま やいびーん。あの 大里村の目取真。みどうるまんでい いやびーしが、うちなーぐちえー、みどうるま。はるぬ うーじばたきぬ まんなかんかい、劇場 ちゆくてい よーさい。もちろん露天ですよ。やーや ねーらん、むる。あんさーに たんかーや、むい なとーいびーんてー。あんすぐとう、むいから いちゃんら、んーらりやびーしえー。(会場笑い)

むいや 劇場ぬ うちんかい、いらんどう あいびーぐとう。

あんすぐとう、むいから むる いちゃんら、んーち よーさい。とーじえー(当時えー)

なー、あんしがなー、あぬー、いっぺー あり やいびーん やーさい。つんまぬ こやぬしえー、ひーじゃー しぐ くるち よーさい、ひーじゃーぐすい しみてい、役者ぬちやーんかい。あんしつし かんげー(歓迎) さりやびたん。めどりまですよ、みどうるま。

具志頭村、かーたつ、かー[注:言い淀み]、「かーたがーみー」。

玉城村、「かたがーみー」。

与那原町、「まーたるだんかー」。

佐敷町、「かたぬしー」。

知念村、「かたぐわーぬしー」。

えー、西原町、「まーじんぼんぼん」。

「にしはらがーじゃ、ていんぷらーじょーぐー」。えつ、あひやーへつへー(笑う) ぬらーりやびーさ。

あれー にしはらんちゆぬ、ていんぷらーじょーぐー やるむのー あらん ぐとーいびーんろー。あぬ、うとうすいから ちちゃぐとう よーさい、あまー ちょーどう、あの、なまー、なにになにに駅、なにに駅んでい あいびーしえー、駅ぬ くとぅばぬ ちちゃーに、休憩所 みたいな。

あんし、にしばるん あーし方面から、くじゃー方面から、今の沖縄市、ありかーからちゅーる、うぬ、ばしや むっち ちゅーる ちゆぬちやー、まー、にしはら ちーねー、かなじ つんまぬ まちやんかい ゆくてい、ていんぷらー かまびーたんでい。あんさーに、うん だー うりーる むんる あんでー、つんまー ていんぷらー商売つし あちねーさーに よーさい、あんさーに ふかぬ つちゆぬ、つんま かなじ とうーいる ちゆぬちやーが、ていんぷらーじょーぐー なやーい、あんさーに、「にしばるがーじゃー ていんぷらーじょーぐー」んでい んーぬ ちちえーる ぐとーやびーん。うん、「にしばるがーじゃ」。うん。

佐敷町、「かたぬしー」。

知念村、「かたぐわーぬしー」。うん。

ええー、「はるよーけんけん」、にしばるがーじゃ(西原我謝)、「はるよーけんけん」。

「かたぬじー」ん ていーちんちょー いらん、おー、くとぅばぬ いっぺー あいびーんやーさい。くれー、はやしことば やる はじ やいびーん。うん。

「かたつんまー」。これも「かたぐるま」んでい、かたぬ じーぬ いっちょーいびーぐとう。

中城村、「かたつんまー」。

中城村伊集すつとうくる、「まーちだんかー」んでい いやびーん。

北中城屋宜原、「かたぼんぼん」。きつさぬ 「あいすぼんぼん」ぬ ぐとうる ある。

北中城和仁屋すつとうくる、「ちょんだらー」んでい いやびーん、「ちょんだらー」。

北谷町、「まったらがーみー」。

平安座、「まったかさー」。

嘉手納町、「まっただーかー」。

読谷村、「かたっんまー」。

くれー にちょーいびーたん やーさい。あいびーたんやーさい。「かたっんまー」。

沖縄市泡瀬、「どーどーっんまー」。くれー わかいんねー さびーん。あー、

えー、沖縄市ぬ 登川すつとくろ、「ちゃんちゃらくらーく」んでい いやびーん、なんか、つんまかー、中国んかい つんじょーる ぐとうる あいびーる。

与那城町屋慶名、「まーさるけんけん」でい いやびーん。

平安座、「つんまにーぐわー」と言いますね。「つんまにーぐわー」。

「つんまにー」んでいーねー、わかみしえーびーらやー。「おねえさん」のこと、「つんまにー」と言いますね。「おにいさん」のこと、「やっちー」、あるいは、「やちめー」とか言います。「やっちー」、「ううばまー」とか。あの一、「つんまにーぐわー」ですねー。へんぎー、「つんまにーぐわー」。

石川市東恩納、「みーみーどーどー」。

くれー よーさい、あぬー、たーから ちちやがどうん やれー、わねー、あぬー、んかし よーさい、メモしえーびーたしが、登川誠仁、せーぐわー、民謡のベテラン。せーぐわーから聞いた、あー、くとう やいびーん。うん、石川市ひがおんな（東恩納）。あれー、ひじゃうんなぬ っちゅ やいびーぐとうよー、せーぐわーや。「みーみーどーどー」。おー。

金武町中川、「かたまーみー」、「とーるんつまー」。

恩納村名嘉真、「かーもーもー」、「ぶっちょーぎちぎちー」んでいる。

宜野座松田区、「ぶっちょー」。

「まーらんちゅー」、東村。

うりから よーさい、だてーん あいびんどー。宮古 八重山、あの一、与那国まで あいびーん。（紙をめくる音）

名護市。くれー、名護市役所んかい 電話さーに、わんねー とぅーてい、あの一 さびたしが よーさい、うむっさいびーん、また。名護、「うーくい」。（会場笑い）

「ぬーがさい、しちぐわちる やいびーるい」でいちゃんであるむん。「かたぐるま」ですよ、「かたぐるま」のことを、「うーくい」。うん。

今帰仁村兼次、「うんぬかやー」と言いますね。

呉我山、「みーこんこん」。

屋我地、「いんとーまー」。

本部町、「ちびらんかん」。

本部の、おー、お。「ていんぶとうきー」んでい いっとうくるん あいびーん。本部町で、「ていんぶとうきー」。

崎本部、「まーろーろー」。

伊平屋、「さーじめーぐわー」。

大宜味村津波、「まるちゃおーらしえー」でいるむんぬ、な一。

な一、「まるちゃ」でいる くとうばん、な一、わかむんぬちやー わかいびらん やーさい。お一、「まるちゃ」、「まないた」、お一、「まるちゃ」。

「びんだれー」ん わかやびらんどー、なま一。「びんだれー」。「せんめんき」。

んかしえー わったーが くーさいに、うんじょー、あの一、うとうすいぬ 「びんだれー」んかい 「さふん」とう、「さふん」、わかみしえーびーらやー、「せつけん」。「さふん」とうていーさーじ、「びんだれー」んかい いっちょーいねー、

「おじいさん、ゆーふるやーかいる めんしえーびーるい」 くいー かきーたんでい。お一。

くいー かぎーんでいる くー 会話するということ。「ゆーふるやーかいる めんしえー
びーるい」。「びんだれー」 むっち、ていーさーじとう 「さふん」ぬ いっちょーいねー、ゆー
ふるやーかいる。なまーなー、ゆーふるやーん ねーやびらんしえー、むる 家庭風呂んでき
しが あぐとう、うん、あんすぐとう、くとうばん ねーん なてい いちゃびーん。「びんだれー」
ん ねーん なてい いちゃびーさ。もちろん、「さふん」でいしん、なー、わからん なとー
る はじ やいびーん。うん、うん、「まるちゃーおーらしえー」。うーん。

久米島、具志川西銘すつとくる やいびーしが、つまー うむっさいびんーやー、「ほー
よいぽつぽ」。

囃子言葉だそうですね。「ほーよいぽつぽ」。ほー、「かたぐるま」さーに、「ほーよいぽつぽ、
ほーよいぽつぽ」んでいち あっちゆるばーてーさい、わらばーたー かたぐるまさーに、そ
の囃子言葉 なとーる はじ やいびーん。「ほーよいぽつぽ、ほーよいぽつぽ」。やーさい、
うん、はー。

あの、いへつ、伊江島、あー、「とうんぬくらんまー」と言いますね。そして、若い人たちは、
「とろこつんま」と言うそうです。若い人たちに聞いたら、「とろこつんま」。

宮古、「がーなしう」。「ゆーさ」。「がーなしう」とうか 「ゆーさ」とうか言う。

で、伊良部佐良浜すつとくる、「かたむすー」。

八重山、「あっちなー」。八重山ぬ かた めんそーらに、・・・めんそーらん。「あっ
ちなー」と言うそうです。

ふん、あたていが うういびーらやー。えーあい、うり、たしかに ちゃんとう しらびてい
る あいびーぐとう、うー。

与那国、「かたうたい」。「かたうたい」、かたぬ じーぬ いっちょーいびーぐとう、わか
いんねー さびーん やーさい。

大東島、「ていんぐるまー」と言うそうです。

てん(天)のくるま(車)と書いて、「ていんぐるまー」。うん。

粟国村、「ていんちょーばーやー」。粟国村、「ていんちょーばーやー」。おー。

まー、かんしっし よーさい、かたぐるま ていーち とうていん、かんし うちなー
じゅー、あぬ、かわいる ちむえー やいびーさ。

あぬ、くとうばでいーしえー うむさいびーんやー。しまぬ かわれー かわいるぐとう、
くとうばぬ かわてい いちゃーびーぐとう、くりが また 特徴んでい いやびーみ。えー
あぬ、むらぬ やーさい、特徴 やいびーん。

まー あの一、宮古八重山、おー、与那国、だてーん かわいびーぐとう やーさい。

“ありがとうございます” ていーち とうていん、うんじょー、あぬー、まー うちなーう
うとーてー、「にふえーでーびる」、「にふえーやいびーたん」。「にふえーでーびる」は「ありが
とうございます」。「にふえーでーびたん」は、「ありがとうございました」。ま、過去形になる
わけですね。「ありがとうございました」。うん。だから、なまー、「めんそーれー」でいーしえー、
たーがん わかいみしえーびーしが、「めんそーれー」。

「いめんしえーびり」んでいしが あいびーん。あんしから、「うちえーんしえーびり」でいし
ん あいびーん。これ、あの一、あー、時代、史劇するばすに、ゆー ちかいる まー 「う
ぐしくことば」でい、まー わったー いちよーいびーしが。「うちえーんしえーびり、いめん
しえーびり、うさがみそーれー、かめー、みそーれー、みしょーりんしょーれー」。こういう
言い方があるわけです。

うり、あの一、「うわーがんしえーびり」というのがありますね。もう、つうえーかたび なれー
から、「かめー、うさがれー、みそーれー」んでい いーねー いちでーじやぐとう、「うわー

かんしえーぶり、うちえーんしえーぶり、いめんしえーぶり」。

かんしっし、まー うちなーぐちん よーさい、あの一、かわてい いちゃびーん。あぬー、時代劇とうか やーさい、あの一、現代語時代くとうば。

あんすぐとう、わったーばーねー よーさい、な一、なまー ほんとに、きつさー、あぬ、うどういたる 学生さんたち、芸大の。な一 しぐ ちゅらさいびーしえー。かーぎしがた うちやてい。また あぬ、しなむぬん でいきてい。なまー な一、あぬ、jeeふあー、かみさしん そーむん やいびーしえー、なんじゃjeeふあー。かみさし やていん やーさい、うしぎしかみさし やていん、なんじゃですよ。

終戦後や、あきさみよー、ごっすんくぎ(五寸釘)。(会場笑う)。うしぎし、ごっすんくぎんかい ビール瓶ぬ ふたぐわー。(会場笑い)

かつら よーさい、ぬー、ちゃーつし ちゅくてーん。かつらんでい いしん、だーさい、あの一、日本復帰っしから一、やまとういちむどうやーん ないびーぐとう、やまとから、あー、すぐ 注文っし、じょーとうー。

テレビの ゆめなか なたぐとう、な一、役者ん、と一 かんしえー ならん、だーさい、終戦とーじえー、むる トウタン、ブリキ。ブリキさーにる かつらん ちゅくてい よーさい、なまー じょーとうー やいびーんでー。

なまー、わったー しんかぬ 仲嶺眞永んでい いやーに、小道具店 そーいびーしが。あい、伸吾さんぬ きつさ ちょーんねー すたしが、息子の長男の伸吾さん。

あの一、なまー、あの一、くぬ、うちなーうとーていん よーさい、なまー、ぬーんでいーが、ちゃんと あぎ、あみぐわーなてい、もー わからん。テレビでもわからない。やまとう ぬーん かわやびらん。うん。

あー、仲嶺眞永さんが、なまー、手作りっし よーさい、ちゅくとーいびーしが、小道具店。な一ふあ(那覇)ぬ あまんじ そーいびーしが、あつさみよー jeeふあー、かりくり、うしぎし、むる そーむんどう やっさい。

むかしえー、あぬ、あー、日本復帰 ならん めーに、わんねー ハワイかい つんじやるくとうぬ あいびーしが、8かげつ うういびーたしが、ハワイんかい。あんさーに、ハワイぬ 1ドル銀貨 よーさい、あり むっち ちゃーに よーさい、あぬ、うしぎし、jeeふあー かみさし ちゅくらち よーさい、3ドル くいやーに、あー、てーげー 2ドル もーきたがやーんでい うむいぬあたい…えっへっへっ(八木笑う)。あんしっし ちゅくいびーたしが、おー。

まー、戦後 いろいろ あいびーたん。まー あぬー、わったーん やまとうから けーてい ちゃーに、昭和21年に ひきあぎてい っち。あんし、あの一、戦後の しばやー、あー、まー。三劇団しか、ないびらん、松竹梅んでい いやーま。

ハンナ少佐んでい いみしえーる っちゅぬ、あぬ、うちなーぬ 文化人でい いやびーみ、あぬー、文化部諮詢会でい いし ちゅくてい、あんさーに、あぬ、三劇団、松竹梅、そーいびーしが。わんねー 竹劇団ぬんかい、大宜見小太郎一派 うぬまま 配属さつてい、あまんじ そーいびーたしが。な一、あぬ、だー あんしえー、わったーや やまとうから むっち っち、しなむぬん うふえー あいびーたんでー、おしろいぬやー、衣装 かりくり。だー あんしえー、うちなーんかい めんしえーる っちょー、もー、ないないが、なんにもない。やぎ、もー、やつかてい ねーんどう あいびーぐとう。おー。

あんすぐとう 衣装ん、ぬー そーたがでい うむれー、なんくる よーさい、じんぶぬん つんじてい ちゃーびーん。ねーんあれー ねーんぐとうでい いやーに よーさい、じんぶぬん つんじてい ちゃーびーさ。

アメリカぬ うーどうぬ カバー、ふとんカバー ですよ。うれー ちゃんと 縦模様っし よーさい、模様ぬ いっちょーいびーたん。あんすぐとう、しぐ、衣装んかい したてい

てい よーさい、うん、あんさーに、うり ちやーに、うぬ かわいい、うみんぐわマジルー
 つんじていん、百姓ナバー つんじていん、むる ゆぬむん。(会場笑う) だー、うれー
 ていーちる あいびーぐとう。うぬ かわいい ちゃくん よーさい、文句 ていーちん
 いやびらん。だーさい、ゆぬなか じしー(時勢)る やいびーぐとう、なー なんくる
 うちやくん わかてい よーさい、おー、文句 ていーち いやびらん。よー んーち、ていー
 ぱちぱちーつし、をー、あんしつし そーいびーたしが、もう ないないがしら、衣装や
 うんぐとう。

あんさー、なー、かつらん、なー しぐ、手作りですよ。馬糞紙。

馬糞紙でい いーねー わかいみしえーびーらやー。うー。馬ぬ 紙んち かちやーに、
 馬糞紙んでい いやびーん。あんさーに、あちがみてーさい、ぼー、なまー ぬーんでい
 いやびーが、うりんかい、おー、・・・ぬーんくいーん しなむぬん いってい ちゅー
 る はくんかい、ぬーんでい いやびーが(会場から「ダンボール」の声)。ダンボール、とー
 とー うりが あちー、うりさーに、うりんかい しぐ パーマやーから からじぬ きー
 いいーてい ちやーに よーさい、あんさーに、さんしんぬ いとうんかい ぬち、あんさー
 に、うり ちきてい さびーたしが。

あぎじゃびよー、ばふんしえー じょーとうー やいびーんてー。しぐ、芝居ぬ うわいねー
 たたまーに、ふちゆるんかい いりやーに、やーかい いちやびーてーぐとう。うぬ か
 わい、なー、ばふんしぬ めーや よーさい、トゥータンる やいびーる。あー、飛行機ぬ
 ジュラルミンとうか いう・・・、うん、あんすぐとう、なー、しぐ、かんじーねー なー
 かた いっち よーさい、やり、やり ふしがらん、つんまー かた いっち よーさい。
 なー うんぐとーる くとう やいびーたしが、うんなくんなつし、試行錯誤して、あー、もー、
 紆余曲折 でーじ やいびーたん。いるいるぬ くとうぬ あてい、なー、今があるんです
 からね。

あんさー、いちばん くまたしえー ぬーんでいちん、おしろい やいびーさ。

おしろいぬ ねーらん。とー くれー なー、ちやー されー しむが。

なかぐすくんかい よーさい、文化劇場んち、あいびーたんてー。

わったーや、なー、テント小屋る あっちょーいびーぐとう。露天劇場る。あみ ふいねー
 【うふさーら?】 ないびーんてー。なー、休演。あんさー、露天劇場、カバヤーる あっちょー
 いびーぐとう。

「あちやーやーひやー」 座長さんが、しぐ、「文化劇場かいどー、文化劇場かいどー、あ
 ちやーや」んでい、

「ほー、あっさみよー、文化劇場。ちゃんぐとーる 劇場がやー」んち、んーな、もう、いつ
 ペー うっさーくわったーし、つんじ んちやぐとう。なかぐすくんかい あいびーたんてー。

文化劇場。すばー、むる かや。すすき。ぐしちさーに かゆてい[注：次の語で言い
 換えている]、かくてい よーさい、あんさーに ちんぶち(見物)は もちろん、露天 で
 すよ。うん

「あー、いいー ちち やっさーやー」んでい いやーに、セリホー しぐ、アドリブ たっ
 くわーち ちちぬ、えっへへー(八木笑う)ふしぬん ぴかぴかそーい、

「あいー、ふしばりてい、えー、いいー つわーちち やんやー」 ぬーぬーんち、しぐ、わー
 あったに ちゆくてい、セリフん ぬーん、あんしつし さびーたしが、

あーなーなー、おしろいぬやー、あんさーに、つんまぬ 劇場主んかい、よーさい あの一、
 タマイ先生んでい いやーに、診療所ぬ 医者ぬ めんしえーびーたん。あんさー、わん
 ねー、うぬ 先生とう、ゆー そーいびーてーぐとう。

「えーさい、しんしー、おしろいぬ ねーらん、くまとーいびーしが ぬーがな うんじゆ
 なー 診療所 病院ぬんかい、あぬ、おしろい 代用 ないしえー、ねーやびらに」んち、

「あー、政男くん、わったー 診療所んかい、とういが、くーわ。じょーとうーが あさ。」「やいびーんっ」。

わんねー しぐ、なーちゃー、座長んかい いやーに、とういが つんじょーいびんてー。
「とーとー うり。うりうりっ、うり しぐ、みじさーに あーちゃー、ちぎれー、うれー、まっしーら ないさ。ちぎれー」。「ぬーがさい」。。「うり ちぎーるん しえー、じょーとうー やさ。にーぶたーん のーいさひゃー」んでい いたん。「ほー、にーぶたーん、のーいん よーさい。ぬーがさい、うれー ぬーでいーし、やいびーが」。「うれーひゃー、あえんかー(亜鉛華)んでい、いちよーさ」。「あえんかー。ぬーがさい」。「うちなーぐちんかい のーしーねー、こーしぐすい やさ」んでい いみしえーたん。疥癬の薬。

だーさい 戦後 やぐとう、わらばーたー、ぶつぶつ つんじたい ぬーさい さびーしえー。あんすぐとう、診療所んかいや、あるわけ。うん。

あんすぐとう わんねー とういが つんじやーに、あー、ふんとー じょーとうー やいびーん。ちぎたぐとう、いんねーすんねー まっしーら ちちやびーん。

とー、うりびけー ちちーねー、まっしーら なやーに、うぬ、ゆーりー ないびーぐとう。とー、ゆーりー なてー ならん。うれー べにん ありわる やしが。べねー ちゃーさがどうん やれー、かーらぬ わりー。瓦の欠けら。これをすつてですね、うり ちぎやびーたん。

あんしが、男優はいいんですけども、女優さん、皮膚の弱い人は、荒れるんですね。ぶつぶつーが、つんじーん。あんしが 「ぶつぶつぬ つんじとーさー」でい いしが、つんじていん、また、うぬ こーしぐすい なしーぐとう、のーてー しーしーっし。(八木笑う)うまい具合に出来てるんですね。また うりさーに、「ええー、なおつ、治っているさー」ぬーぬーんち、おー。

まー おしろいとか、うんな むのー しまびーしが、くんどー、まゆぬ ねーらん。まゆ かちゆる、くぬ、ええんぴつ、くりん ねーらん。まゆずみんでい いしん ねーらんどー あいびーぐとう。うん、ちゃー さが、どうん やれー、あっさよー、なーびぬ ひんぐ。

「あちゃーや、んーな、なーびぬ ひんぐ、あちみてい くーよー」んち、座長さんくとうば。あんさーに、しぐ、あの、鍋の煤ですね。あの、ひー めーさーに、なーびぬ すす あちみてい、あんさーに、うりさーに、ちぎやびーたんてー。

えー、けっこー付くんですね。あんさーに、つうえーかたび つんじていん、ひじぬん くわーち よーさい。

うぬ かわい でーじ やしえー、だーさい なまぬ ぐとうっし、冷房完備ん ねーやびらんしえー。あいえーなー なちぬ あちさ。コザ、行くと、新興館[注:旧美里村にあった劇場]ち あいびーたんてー、劇場ぬ。つんまー 唯一の、あの一、やーぬ なーか やいびーたん。だーさい、コンセットどう やいびーぐとう、軍の払い下げ、かまぼこみtainなコンセット。

うりが なーか、はんぶの一、あの一、はんぶんわきやーに よーさい、はんぶの一 ちゃくば、客席、はんぶの一 舞台。あんし、唯一の やーぬ なーか やいびーたん。

うぬ かわい、コンセットる やいびーっさい。あぎじゃびよー、おーあみ ふいねー、しぐ、「ちからんどー」っし、ちゃこー。「だてーんなー あびれー、ちからんしが」。

「あんし、あみぬる ふいるむんぬ。うれー ちゃーん ならん。」うーん、だーさい、なまぬ ぐとうっし かんし、マイク あれー じょーとうー やいびーんてー。マイクでいしん ねーらんる あいびーっさい、あぎじゃびよー、しぐ、あみぬ ふいねー、しぐ、だてーんなー。

あんさーに、あぬ じぶの一 役者ん 「くいー わてい くーよー、くいーづくり っし

よー」でい ちゅーく いらりやびーたさ。あんさー、しぐ、うみんかい つんじやい ぬー
さいっし、ガマン いっちやいっし、あー、声づくりしてですね、くいー つんじやしえー 【な
いみ？なーびてい？】、あんしっし やくしゃー さびーたしが。

まー、あぬ とーじえー あり やいびーてん やーさい。くいーづくりびけーのー あ
いびらん。

「みー ちゅーらしよー。みみ ちゅーらしよー」。

なー、耳にタコが出来るくらい、とーち あん いらりーやびーたん。

だー、あんしえー、うれー あん いらりーしえー、むつとうんな くとう やいびーん。ぬー
がどうん やれー、なまぬ ぐとうっし 脚本がない。口立て芝居。

かげけー あいびーんでー。歌劇ぬ ばそー、うたー、かきわる やいびーぐとう、うれー、
あ、座長さんが、うた かちやーに わたさびーぐとう。

うぬ かわい セリフ、くれー むる 口立て芝居。

あんすぐとう うびらんでー、どうーぬ すん(損)どう やいびーぐとう。

「みみ ちゅーらしよー、みー ちゅーらしよー」。かんし いやびーたん。

「みー ちゅーらしよーや、人のもの、見なさい。先輩のを、んーなが しばや んーち、
うびり」、こういうことですね。

ちゆけーのー、わんねー でーじ なたる くとうぬ あいびーん。いち なていん わし
らん。かまはら(嘉間原)、コザぬ嘉間原劇場んち あいびーたん。これっ、あの、今の桑
江さん、議員さんがいらっしやいますね。この人のお父さん、桑江朝幸さんでい めんしえーびー
しえー、くんちゆが はじめてい、クジャーううとーてい 劇場 ちゆくみそーちゃん。もちろ
ん最初はもう、むがい(無蓋)ですよ。露天劇場。あんさー ちゃくばー、くいー うっち よー
さい、なー かんし 傾斜 なやーに、なまぬ ぐとうっし、ぐすーよーぬ、くぬ 客席とー い
いぬむん、傾斜 やいびーぐとう、うーあみぬ ふいねー、なー 舞台んかい みじぬ な
がりてい ちゅーるあたい。

「ぬー、うれー 水害る やるむんなー」でい いやーに、あんさぐとう、桑江朝幸さんが、
あとうからー、劇場、おー、ちゃんと ちゆくみそーちゃしが、家付きの屋根付きの劇場。
うーん、くぬ 嘉間原劇場ううとーてい やいびーたしが。

ある とうち よーさい、あぬ、わったーや 駆け出し やいびーぐとう、にーしえーぐわー
じぶん。宇根伸三郎んでい いやーに、七扇会のこの家元。で、この人は、大伸座の副
座長 やいびーたん。あんさーに、あぬ、まー、顔立ちから たきふどう、戦前から、大
正劇場、真楽座の、あー、に おられて、玉城ぬ 盛義先生のお弟子さんでもある。小太郎、
大宜見小太郎とは弟子兄弟なんです。あんさーに、くぬ っちゆが、とーち 二枚目。もー、
ぬー つんじらわん むる 二枚目。

あんさー わったーや、とーち、ちらりやー(会場笑う) これも、あの、

「はーなー、くぬ っちよー なー、いふえー ちゃーがら しえー しむるむんぬ。か
じ(風邪)んでー ひち、にちんでー つんじれー しむるむんぬ。まるけーてー、あんし
んでー しーねー、わったーが すしがやー」んでいち、「あんしえー、わんねー うぬ っ
ちゆが たちまーいん、わーが やれー、かんし すしがやー」んでい いやーに、映画
んーち ちゃーに ぬーさい さーに、ねーびっし よーさい。嵐寛寿郎、市川右太衛
門、おー、片岡千恵蔵、ぬーぬーんち、むる 映画俳優、むかしぬ。あんさーに んーち、
あの、かんねー、たちまーいん ねーびっし、「わーが やれー かんし すしがやー」んでい
ち、そーいびーたん。

あんさー あるとうち よーさい。時代劇 やいびーたしが、チャンバラもの。あんさー
うぬ 伸三郎さんが、「にちんでー つんじれー しむるむんぬ、わーが かわい するむ
んぬ」でいち、うむとーたるむんぬ、いんねーすんねー、40度あまい にち つんじてい よー

さい、くぬ 宇根伸三郎さんが。

あんさーに、座長や しぐ、わんにんかい 「まさおー、すがれー。すがれー」、と言ったんですよ。とー、うんにんに わんねー「はっ、待っていました。」でい いやーに、すがれーぬーん あらんとんむんぬ。

「わーが ないびーがやー」。ちゅらーさ あん いち ねーらん。

さぐとう、小太郎 ぬーんでい いちやがでいねー、「いいーつ、あんしえー しむさ。」でい いやーに、しぐ、前田幸三郎んかい、うぬ やこー。(観客悲鳴)

またん、ちりりやー。(観客笑う)

あさぬ 8じまでい、泣きました。なー、ていん うらみてい よーさい。うつへえ(八木咳ひとつ)あー ごめんさい。はーつ、ちょーでーる やるむんぬ、なー ちゅけーのー「つやーがー ないさ。すがれー。しえー。」でい いち くいれー、「うー」んでいち、さびーたるむんぬ。

「わーが ないびーがーやー」んでいち、うふえー 謙遜さん。

「あんしえー しむさ」でい いやーに、しぐ。

はー、あぬ くとー よーさい いち なていん、わんねー なま ちきてい わしりらん。

なー、あとうからー、わったー 後輩んかい、わんねー しぐ、「あんすぐとう、むかしんちゅぬ 『みー ちゅーらしよー、みみ ちゅーらしよー』んでいし、わしんなよー。しぐできるように。かわいや しぐ 『はいつ、わんにんかい しみてい くいみそーり』。どうーくる かつて出るくらい、あんし さんねー ならんどー」でい いち、なま ちきてい わんねー 反省そーいびーん。

80 あまるか、とうーち 反省そーん。(観客笑う)

はい。なー いるいる 芝居ぬ はなしん さびたしが、うぬ 池宮さのー あちらん、えーじえーさんしが、なーひん あびりんでいが いちよーいびーら。

しばやん よーさい、やつぱり ぬーんでい いやびーが、まー、うちなーしばいんでいーしえー、うちなーぐちさーにる さびーぐとう よーさい、うちなぐちえー たから やいびーん。

一泉知永(いちいずみちえい)先生んでい、明治大学の名誉教授で、くぬ っちゅが うちなーんかい めんそーちやるばすに、琉球新報、わんねー んーちょーいびーたん。あんさーに、さぐとう、うぬ 知永先生が かちえーる くとー、ぬーんでい いちよーびーが。

「うちなーぐちえー、首里城よりも重いものである」 いちよーみしえーん。あんさーに 「うちなーぐちえー、やまとうぐちの、日本語の古形、古い言葉」でい いちよーいびーん。あんすぐとう、船越義彰先生は、亡くなられた義彰先生、「政男くん、つやーや、ほーげん ほーげんでい いしが、いったーがー ちかいる くとーばー、うれー ほーげん あらんろー、うれー 琉球語んでいしどう やる」でい いちよーみしえーびーたん。おー。「あんすぐとう、まーんかい つんじん いっぱーが ちかいる しばいぐちんでいしん、通用すん。わかいん。あんすぐとう なちやい、わらたい、ちゃこー しみしえーん。くとーばぬ 通じらんあれー、泣くにも泣けない。笑うにも笑えない。あんすぐとう いっぱー むのー、うれー てーしちに さんれー くとーばー」んでい いみしえーたん。

あんすぐとう 一泉知永先生ぬ いる くとーば 「大和の古形」でい いちよーん。古い言葉。古語と言ってますねっ、日本の。例えば、うちなーぐちえー、「ふに ぬてい いちゅん」、「ふに」で「『ふに』から『ふね』に変わった」と言いますね。この先生いわく。で、「昔は『ふに』と言っていた。で、今は『ふね』になつてる」。「ふいー」も そう、「ふいー」。「ふいー」、「あふいー」、お兄さんのこと、「あふいー」と言いますね。「この『ふいー』、燃える『ふいー』、これも今は『ひー』

になってる。『ひー』じゃない。元は『ふいー』だ」と、こう言うみたい。

で、「うちなーなかいや、素晴らしい、うちなーぐちぬ あん。これは、もうたいへん美しい言葉。はーべーるー、はべる」と言っている。くみおどり(組踊)にも使いますね、はべるは。んで、うちなー、こう話し言葉では、はーべーらー、はーべーるーとか、地域によってちょっと異なるんですが、まー 普通は、はーべーらー、はーべーるー、と言っていますね。

で、うたことばにもありますね。「はんたんやまぬ あかぎ あかむしやが」、はんたんやま、首里の。

はんたんやまぬ あかぎ あかむしやが はべる なてい とぅばわ

まちし うんがーぬ いにん とぅむり

と、こういううたがありますね。この「はべる」。

はべる なてい とぶ。(ここで終了予告の太鼓の音入る)

この「はべる」は、あの、インドのサンスクリット語と言われていますね、この一泉先生は。だから、「このハベルの語源は『ピル』、『ピル』はフィラフィラとひらぐ」と、こういうふうにおしゃっておられる。「だから、琉球、うちなーぬ芝居で、『はべる』という言葉を使っている。これは素晴らしい」と、この先生は言っておられる。ありがたく思いました。

「で、うちなーぐちで、生まれ育った、うちなーぐちで、最初から最後まで芝居できるのは、関西弁、大阪と、うりから、京都、京都弁、で、うちなー。くぬ みーちどう やんろー。」と言われましたね。はい、あー、いっぺー うっさいびーたん。んちゃ くれー てーしちに、しまくとぅばー てーしちに さんねー ならんむんなー、と思いました。どーぞ ぐすーよーん、うちなーぐち、しまくとぅば てーしちに っし いちゃびら やーさい。ゆたしく うにげーさびら。(会場から一斉に大きな拍手)

はい、どうも にふえーでーびーたん。ありがとうございました。

鈴 木： 八木先生、いっぺー にへーでーびる。とうんじたる わんや、えー、県立芸術大学ううとーてい、くみうどうい びんちょー、やっております 鈴木耕太 ゆーし やいびーん。ゆたさるぐとう うにげー うんぬきやびら。

えー、ということで、えー、とてもおもしろいお話で、なまから やまとうぐちっし 失礼いたします。えー、えー、おもしろいお話だったんですけども、ちょっとですね、えー、すみません、途中で止めました。たぶん11時ぐらいまでかかるのかなーと思っちゃったんですね。えーえー、先生の(八木氏笑みを浮かべて聞いている)お話を聞きながらですね。

この研究会、実は2回目、えー、前回もお芝居の話を瀬名波孝子先生からいただきました。今回は、八木先生ということで、

八木先生、おんとし、、くとうしえー、とーかち やいびーみ?

八 木： わんねー、1930年。昭和5年生。

鈴 木： 昭和5年。

八 木： つんまぬ っちゅ やいびーん。

鈴 木： うまぬちゅ。ということで、えー、もう、芝居から、もう、始まって、えー、ほんとにオフレコですね、えー、はじまる前は「ういぬ しばい、しちゃぬ しばい」の話までうかがっていきました。

八 木： あーあ、はいはい。

鈴 木： えー、ということで、えーと、会場からもし感想やら、あー、えー、質問等があれば、ぜひ、一つ二つくらい、えー、5分ぐらいお時間をいただいて、えー、聞いてみようかなと思うんですが。

ぜひ、今日、八木先生にうちの地元は「かたんまー」じゃないですね。「かたぐるま」はこうやって言うんだというところでもよろしいですし、ございましたら、ぜひお教えいただければ

なーと思いますが、いかがでしょうか。・・・(会場で挙手：以後女性Aと表記)・・・
どうぞ。えーと、今、マイクお持ちしますので・・・。

女性A： すみません、教えてください。

八 木： はい。

女性A： えっとー、たーんむ料理に「どうるわかしー」ってあるんですけど、

八 木： はい、はい、

女性A： このどうるわかしーの語源。語源っていうんですか。この、どうして「どうるわかしー」って、

八 木： あーあ、むつかしいですね、

女性A： どこから、

八 木： 僕も大好きですよ、「どうるわかしー」、

女性A： はい、うん

八 木： 「どうるわかしー」

女性A： うーん、これがもし、いつか分かりましたら、芸大にお伝えして、教えていただきたいなー、と、

鈴 木： 芸大が「どうるわかしー」を、

女性A： と、思っておりますが、あの一、琉球料理の先生も、あの、まだ分からないっておっしゃるんです。

八 木： あーあ、そうですか。

女性A： はい、ですので、博物館に聞こうかなーと思っていたんですけど、いつか、あの一、分かりましたら、

八 木： あー、うれー、ぐぶりー やいびーしが、わんにん わかやびらんさー。どうるわかしー、あれー うふえー どうるんかい、にちえー うういびんどーやーさい。

女性A： そう、ネットで、

八 木： いるも にているし、

女性A： 色も・・・はい・・・、ネットで探すと、そういう泥がプクプクと煮立っている様子っていうのがあるんですが、あの一、琉球料理の先生、琉球料理の専門の方は、「まだはつきりしたことはわからない」とおっしゃっていましたので、それが分かりましたたら、どなたか教えていただきたいな、と思っております。

八 木： とー くれー、

鈴 木： ありがとうございます。

八 木： ちち なーてい なーびーん、うとうすいんかいや、やー。うん、うん、うん、わんにん なー、なまや、ふいじん しーゆーさびらん。うーん、くとうに 料理ぬ くとー わんねー 疎い。あんまり わからん。唯一、わーが わかいしえー 玉子焼きびけーんる やる。(会場笑う)

鈴 木： はい あの一、「どうるわかしー」の語源ですね。あの一、一応、会場に研究会のメンバーいますので、後でちょっと聞いてみます。はい、えー、「どうるわかしー」。そうですね、おいしいというのだけは分かりますので、

八 木： はい、はい

鈴 木： その時は、先生

八 木： たーつんむ だからね。あれー、おいしいですよ。

鈴 木： まーさん(下降調)、まーさん(下降調)して。たーつんむ まーさん(下降調) して、

八 木： えー、つゆなよー。つゆなよー。へっへっへっー・・・

鈴 木： まーさいびーぐとう・・・・・・・・。

もうひとかたくらい、どうですかねー。えー、せっかく・・・あー、せっかくですので・・・
はい、前の黄色のお召しものの方(以後、女性Bと表記)・・・・・・・・。

女性B： こんばんは。

八 木： はい

女性B： 先生、今日はたいへんありがとうございました。豊見城（とみぐすく）から、

八 木： おーう、はい。

女性B： 参りました。〇〇と申します。

わたし、平成4年にですね、病院に入院してました。半年ぐらい入っていたんですけど、その時に主人が持ってきたのがね、「丘の一本松」。大宜見小太郎さんと先生の、あの一、お芝居のテープだったんですね。

八 木： あー、そうですか。

女性B： それをねー。3時になるとねー、おばあちゃんやら、いつもいっぱいいらしてねー、「大宜見小太郎、聞かして、『丘の一本松』、聞かして」って言って、おいでになってたんですね。

八 木： あー、やたんーなーさい。

女性B： で、主人が、あの一、退院するとき、わたしが退院するとき、それをテープに全部とって、あの一、みなさんにプレゼントしたんですねー。その中のお一人がね、ブラジルからお母さんの、あの一、なんていうの、看護にきた方がいらしたんですねー。もうその方が、もう、それをもらうと、とっても泣いてね、「これをもう、ブラジル帰ったらね、みんなに聞かせたいんだ」ってゆってね、もうほんとに、毎日毎日3時になるとね、それを聞きに来ました。

八 木： あー

女性B： で、今回も「丘の一本松」を上映[注：「上演」]されますね。

八 木： あーはい。

女性B： それを、またこんど見に行きたいと思うんですけど、もうね、大宜見小太郎さんとね、八木政男さんのこの演技、「目にいつも焼き付いてね、たまらないなー」と思いました。今日も方言を聞いたらねー、とっても嬉しくなりました。

どうぞこれからもお元気で、わたしたちにいいお芝居を見せて、教えて下さい。

今日はたいへんありがとうございました。

八 木： にふえーでーびる。にふえーでーびる。

鈴 木： …いっぺー にふえーでーびる。…なんか、あの、今の言葉で、すべてがきれいに締まったような感じですので、

「とうちえー みちとーいびーぐとう、しんしーさい。ういとうまぎびら」。・・・

八 木： あんすか。はい、あんしえー ぐぶりーさびら。

鈴 木： ぐぶりーさびら。ちゅーや いっぺー にへーでーびたん。

八 木： からだがふーつし うたびみしえーびり。

（「丘の一本松」のテーマ曲流れ出す。先生の退場に合わせ、手拍子も次第に大きくなる）

事務局女性： これを持ちまして、本日の講演は終了いたしました。お忘れ物の無いよう、お気を付けてお帰り下さい。またのご来場をお待ち申し上げます。

9 事業報告会概要・アンケート結果

9-1 事業報告会概要

平成31年2月16日、沖縄県立芸術大学附属研究所3階小講堂博物館において開催した。事業報告会は多くの一般市民に来て頂きたいと思い、「しまくとうばで学ぶ“踊り・うた・三線”」というテーマで開催した。今年度の「沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育プログラム開発事業」で行った事業を研究会員が報告した。昨年度同様、実践授業を行った琉球芸能専攻の仲嶺伸吾、比嘉いずみ、阿嘉修の3名の教員からの報告は、事業風景をビデオで紹介しながら行い、会場からも反応が良かった。

今年度行ったハワイ調査の報告は高良則子・西岡敏が行い、ハワイでの琉球語教育の高さや、ハワイ語学習のためのカリキュラムについて、参加者からは驚きの声も寄せられた。

また、琉球語を専門にしている仲原穰によって「授業で使える『しまくとうば』文例集」の報告では、音声と本書のデータを提示して、実際の授業内における会話をていねいに報告していた。

最後に、鈴木と比嘉いずみによって、琉球舞踊の実践教育における副教材の導入について報告がなされた。現状の実技指導だけでなく、より舞踊における「専門的なしまくとうば」を理解するためのツール作りについて動きと画像を用いて説明し、今後も修正しながら副教材を完成させていく事が報告された。最後は会場からも意見をいただき、次年度以降の取り組みへの関心の高さがうかがえた報告会となった。

平成30年度 沖縄県立芸術大学「しまくとうば実践教育開発プログラム」事業報告会

しまくとうばで学ぶ “踊り・うた・三線”



沖縄県立芸術大学では平成30年度「沖縄県立芸術大学しまくとうば実践教育開発プログラム事業」として、平成30年度前期・後期（平成30年4月～平成31年1月）、琉球芸能専攻の実技教育（舞踊・歌三線・組踊）において「しまくとうば」を活用した事業実践を行ってきました。その事業報告と大学教育における「しまくとうば」の活用についての提案および報告を行います。

ープログラムー

【総司会：麻生 伸一（沖縄県立芸術大学 全学教育センター 准教授）】

14:00～14:20 **事業概要報告**：鈴木 耕太（沖縄県立芸術大学附属研究所 専任講師）

14:20～15:20 **実践授業報告** — 授業実践と教材について —
仲嶺 伸吾（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 教授）
阿嘉 修（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 准教授）
比嘉 いずみ（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 准教授）

15:30～15:50 **授業で使える「しまくとうば」文例集について**（報告）
仲原 穰（沖縄県立芸術大学 附属研究所共同研究員）

16:00～16:40 **ハワイ調査報告**（ヒロ・マノア校）
西岡 敏（沖縄国際大学 教授）・高良 則子（沖縄県立芸術大学 教授）

16:40～17:00 **琉球舞踊しまくとうば副教材について**（報告）
比嘉 いずみ・鈴木 耕太

日時：平成31年2月16日(土) 14時～17時
場所：沖縄県立芸術大学附属研究所3階小講堂
主催：沖縄県立芸術大学 附属研究所

お問い合わせ：沖縄県立芸術大学附属研究所
〒903-0815 那覇市重里金城町3-6 TEL：098-882-5615（担当：幸地）

事業報告会チラシ

- 99 -

9-2 アンケート結果

実施日時：平成 31 年 2 月 16 日 場所：沖縄県立芸術大学附属研究所 小講堂
対 象：一般市民

I. 来場者数とアンケート回収枚数

来場者合計 18 名、うちアンケート回収枚数 10 枚（回収率 56%）

II. 質問と結果

1. あなたについて該当するところを○で囲んでください。

①年齢 ②性別 ③地域 ④これまでに本事業のイベントに来場したことはありますか

質問 1-①

年齢	人数	割合
30 代	2	20%
50 代	2	20%
60 代	5	50%
無回答	1	10%
計	10	100%

質問 1-②

性別	人数	割合
男	7	70%
女	3	30%
計	10	100%

質問 1-③

地域	人数	割合
那覇市	6	60%
中部	3	30%
無回答	1	10%
計	10	100%

質問 1-④

回答	人数	割合
ある	6	60%
ない	2	20%
無回答	2	20%
計	10	100%

2. このイベントをどのようにして知りましたか。（複数回答可）

媒体	新聞	チラシ	知人	その他
人数	6 名	3 名	1 名	1 名

3. 今回のイベントについて該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 本日の報告の内容はいかがでしたか。
(2) 特に興味深いと感じたのはどの報告でしたか。
(3) 報告会の長さはいかがでしたか。

質問 1- (1)

回答	人数	割合
とても興味がある	6	60%
興味がある	4	40%
計	10	100%

質問 1- (2)

回答	人数	割合
実践授業	5	29%
文例集・副教材	6	35%
ハワイ調査	4	24%
無回答	2	12%
計	17	100%

質問 3- (3)

10 名全員が「ちょうどいい」と回答。

4. 本学におけるしまくとうば実践授業について

(1) どのようにお考えでしょうか。→ 10名全員が「必要である」と回答。

(2) 今回の報告会および本事業についてのご意見や感想、次回への要望

- ・将来、どこまでしまくとうばを普及させるのですか？
- ・これからも期待しています。頑張ってください。
- ・ハワイでの沖縄語教育システムの充実ぶりにびっくりしました。言葉は地域のアイデンティティの中核をなすものであり、県立芸大の中で「しまくとうば実践教育プログラム」をスタートさせたことは大きな意義があると思います。ますますの充実・拡大を期待しています。
- ・しまくとうばを学ぶには、沖縄文化（舞踊・三線など）と一体的な取組が必要だと強く感じた。ハワイ大学の取組をより知りたいと思った。
- ・芸大でのしまくとうば実践教育はとても必要だと思う。
- ・とても素晴らしい報告会ありがとうございました。文例集も発行されるとのことで素晴らしいです。

10 資料（当事業の新聞掲載、平成30年度のしまくとぅば事業関連資料など）

10-1 新聞掲載記事

(当事業の新聞掲載)

- | | | | |
|---------------|-----------|---------------|-----------|
| ①2018年 7月 6日付 | 琉球新報9面 | ⑤2018年11月18日付 | 沖縄タイムス25面 |
| ②2018年 7月15日付 | 沖縄タイムス25面 | ⑥2019年 2月14日付 | 琉球新報29面 |
| ③2018年 7月17日付 | 琉球新報21面 | ⑦2019年 2月24日付 | 沖縄タイムス29面 |
| ④2018年11月 6日付 | 琉球新報21面 | ⑧2019年 3月 1日付 | 琉球新報13面 |

①

「まへ」といって、多くの先生と出会い、若くして、一般市民の皆さんにも「まへ」といって、その魅力を伝えることが、この講演の目的である。講演は午後7時開始。入場無料。問い合わせは同研究所0908(8882)5015。

②

③

しまくとぅば
「世界に誇れる」
人間国宝、照喜名さん強調
県立芸術大学付属研究所
は13日、那覇市首里の同大
学音楽堂で、第3回講演会
「芸能から受け継ぐ『誇ら
し』しまくとぅば」を
開いた。国指定重要無形文
化財「琉球古典音楽」保持
者の照喜名朝一さん、写真
IIが講演した。照喜名さん
は「沖縄の言葉は世界に誇
れるもの。しっかりと継承し
てほしい」と訴えた。

講演は同大学琉球芸能専
攻卒業生の金城裕幸さんを
聞き手に、しまくとぅばで
語る対談形式で行われた。
照喜名さんは、父親が空
き缶で作ってくれたおもち
やの三線を弾き始めた幼少
時代から、知人に勧められ
古典音楽を始めた経緯を語
り、「三線は愛しくかわい
いもの。子や孫に触れるよ
うに音を出せば、美しい音
が出る」と語った。しまくと
ぅばについて「本当に残し
たいと思うのなら、子や孫
特に孫へしっかりと教えるこ
とが大切な」と強調した。
幕開けには琉球芸能専攻
の学生、教員が語り組踊「二
章敵討」などを披露した。



④

第4回しまくとぅば
講演会に寄せて
県立芸術大学准教授 麻生 伸一

11月9日に「誇らし
しまくとぅば講演会」が県
立芸術大学で開催され
た。昨年度から始められ
たこの講演会は、これま
で瀬名波孝子氏、八木政男
氏、照喜名朝一氏にご登壇
いただいた。

4回目となる今回は、重
要無形文化財「組踊」保持
者である眞境名正憲氏を講
師に迎えて「組踊に息づく
しまくとぅば」を演題にお
話していただく。眞境名正
憲氏に伺った。

組踊に息づく
琉球舞踊は「しまくと
ぅば」でしか伝えないこと
が、できない技法やわざ、所作
などがある。これら先人の
教えが実際にどのように伝
承されたのかを眞境名氏に
「しまくとぅば」で講演し
てもらう点に本講演の意義
がある。

本講演を主催する県立芸
大しまくとぅば実践教育フ
ロラム開発研究会では、
「しまくとぅば」での歌三
線・琉球舞踊・組踊の講義
実践や教科書作成などを通
じて、「しまくとぅば」を
教育現場で活用する方法を
研究している。この事業の
一部に本講演会は位置づけ
られているが、本講演を通
じて学生のみならず多くの
方に「しまくとぅば」の持
つ魅力やエネルギーを感じ
てほしい。

なお、講演に先立ち、県
立芸大の教員・卒業生・学
生による組踊「女物狂」が
である（豊見山和行「琉球
言葉と天和言葉をめぐる外
交と交流」）。

政治的に日本に伝説的な
立場にあるなか、王府が意
図的に琉球言葉の使用を選
択した点は注目すべきであ
ろう。王府が琉球言葉の使
用に込めた思いが「しま
くとぅば」を見直そうとして
いるわれわれに示唆するも
のは大きい。「しまくと
ぅば」で語られ、語られ、演
じられる本講演および組踊
上演が、沖縄に住む人びと
にとって言葉の意味を考え
直す場となれば幸いであ
る。

◆ 第4回「誇らし」しま
くとぅば講演会 は9日
(金)午後7時、県立芸大
音楽堂で開かれる。入場無
料。問い合わせは098
(800)5615、芸大
付属研究所。

王府が込めた思い

⑤

組踊に息づく
言葉の奥深さ
眞境名さん芸大講演
しまくとぅばでの伝統芸
能の指導法開発に取り組む
県立芸大は、重要無形文化
財「組踊」保持者の眞境名
正憲さん、写真IIを招いた
講演会を9日、同大音楽堂
で開いた。「組踊に息づく
しまくとぅば」と題して話
した眞境名さん。幼少の戦
争体験や組踊の言葉の魅力
について、しまくとぅばで聴
衆に語りかけた。

琉球芸能の先達を招き、
しまくとぅばで語ってもら
う講演会「誇らし」しま
くとぅば」は今回で4度目
の開催。

「組踊の言葉は、首里の
言葉やヤマトクチ。当時の
話し言葉がまじったもので
あり、それが台本として整
理されて残っている」と話
した。また組踊から派生し
た芝居や歌劇も全て「すい
くとぅば」が基本であると
説明。

台詞である唱え、歌の
唱えは「三八六」と呼ばれ
る30音のつながりであり、
それがしまくとぅばでも
「やーや、まーかい、いち
ゆが」のように自然と同じ
リズムとなっていると指摘
した。

国立劇場が創立されるま
での歩み、上演されること
なく忘れられつつあった演
目などを復活させる努力に
ついて話した。



⑥



**しまくとぅば事業
説明会に寄せて**

県立芸大付属研究所専任講師
鈴木 耕太

沖縄県立芸術大学では、平成28年度から「しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」を付属研究所が中心となり取り組んでいる。この事業は、現在、沖縄県で取り組んでいる「しまくとぅば普及プロジェクト」とも連携しながら行われ、大学という高等教育において、どのようにしまくとぅばを用いて教育活動ができるのか、という基本的な問いを念頭に置き、実践教育を行う、というものである。

周知の通り「しまくとぅば」は琉球列島において話されていることばの総称であり、新しいことばである。我々の事業では、その中でも「首里・那覇」のことばを中心に琉球古典芸能を教授する際に用い、琉球古典芸能の表現力を伸ばすカリキュラムを進めている。参考としたのは、ハワイ大学ヒロカ校におけるハワイ語の教育方法や、ハワイ大学マノア校で行われている「沖縄の文化」という科目の実践である。

ハワイ大学ヒロカ校では危機言語であるハワイ語を、保育園・小中学校・高校、そして大学で一貫して学ぶことができ、ハワイ語の学位を取得した者は高いレベルでハワイ語を扱え、しかもハワイの文化に明るい人材として社会に認められている。教育現場で危機言語を導入するには、言語そのもののだけでなく文化を同時に教えていくという教え方に感銘を受けた。

ハワイ大学マノア校では、沖縄の文化を年々行なうことを織り交ぜながら教え、さらにそこで「しまくとぅば」も教授している。日本語の読解力がある生徒なら、簡単な「しまくとぅば」を話せるようになるという。

本事業ではハワイの事例を参考に、県立芸大音楽学部琉球音楽専攻において、琉球古典音楽・琉球古典舞踊・組踊の講義（入場無料）実践教育の様子や、本年度の成果である、授業における学生と教員の会話集「しまくとぅば」文例集についても報告する。教育としてしまくとぅばについて語り合える報告会としたい。

今年度からは「琉球語の座学」とも連携し、実践教育をサポートするようなカリキュラムを実施した。実技を受講した学生からは、しまくとぅばを講義に用いることで「表現がわかりやすい」「体はすっと入ってくる」などの感想をもらった。

琉球王国時代、琉球は「しまくとぅば」で話し、芸能を指導するもの「しまくとぅば」であった。文化とともに言語も残していくことが今後の県の使命であると考えている。

本事業の報告会が16日午後2時から県立芸大付属研究所にて行われる（入場無料）。

⑦

**しまくとぅばが
芸能理解に 一助
県立芸大が指導報告会**

県立芸大がしまくとぅばで実技指導をするプログラムづくりの報告会「しまくとぅばで学ぶ『踊り・うた・三線』」が16日、同大であった。同大は2017年後期から「しまくとぅば実践教育開発プログラム」事業を始めた。

報告会では当初3講座だったしまくとぅばを用いた講座が6講座に増えたこと、言語復興に力を入れるハワイの大学と連携し、大学教育と言語を考えるシンポジウムを予定することなどが報告された。

仲嶺伸吾教授は、2年生向けの歌三線実技の講座内容を紹介。琉球古典音楽安富祖流絃舞の歌三線師範の大濱清之さんを招き、歌三線の指導で用いられたしまくとぅばを学んだ。

絃の扱いについて「わたる」「かぶる」など、身体感覚を具体的に示しながら指導する様子がビデオで紹介された。また指導で言及された「なーちるちる」なーたましまし（絃にはそれぞれの役割がある）というしまくとぅばの言い回しを通じて、より学生の理解が深まったと説明した。

講義 しまくとうばで 県芸大で実践教育報告会



しまくとうばでの講義の重要性について話す比嘉いずみ准教授。16日、那覇市の県立芸術大学付属研究所

県立芸術大学の2018年度しまくとうば実践教育開発プログラム事業の報告会「しまくとうばで学ぶ『踊り・うた・三線』」(同大付属研究所主催)が16日、那覇市の県立芸術大学付属研究所で開かれた。同事業は琉球芸能専攻の実技教育において「しまくとうば」を活用して講義する取り組みを行っている。教員たち

は「講師自身が日頃からしまくとうばを活用することで、学生に大きな糧となるし、技芸のステップアップにもつながる」と、しまくとうばでの講義の意義を強調した。

琉球舞踊の比嘉いずみ准教授は真踊流佳幸の会会主の宮城幸子さんを特別講師として迎え、しまくとうばで学生たちに基本姿勢や動作を教えた。比嘉准教授は「『めーほーやーならんぐとう、うぬまーまーうつちやかれー』前に倒れすぎず、そのまま前によりかかきな

さい』など、舞踊の基本的な姿勢や所作を宮城先生の生のしまくとうばによって、学生たちも自然と動作も言葉も習得していった」と話した。

また仲嶺伸吾教授や阿嘉修准教授が報告したほか、同研究所研究員の仲本穰さんが授業で利用できる「しまくとうば」の文例集について話し、高良則子教授と沖縄国際大学の西岡敏教授はハワイ大で行われているハワイ語教育や同大学マノア校の専攻課程である沖縄語教育について解説した。

10-2 平成30年度 しまくとぅば実践教育 授業録画日一覧（括弧内の数字は各講義の実施回）

平成30年度前期（授業実施回数：地謡13回、舞踊15回、組踊14回）

4月 9日 舞踊実技Ⅰ（1）
4月16日 舞踊実技Ⅰ（2）
4月19日 組踊実技Ⅰ（1）
4月23日 舞踊実技Ⅰ（3）、地謡実技Ⅲ（1）
4月30日 舞踊実技Ⅰ（4）・地謡実技Ⅲ（2）
5月 7日 舞踊実技Ⅰ（5）・地謡実技Ⅲ（3）
5月10日 組踊実技Ⅰ（2）
5月14日 舞踊実技Ⅰ（6）・地謡実技Ⅲ（4）
5月21日 舞踊実技Ⅰ（7）・地謡実技Ⅲ（5）
5月24日 組踊実技Ⅰ（3）
5月28日 舞踊実技Ⅰ（8）・地謡実技Ⅲ（6）
5月31日 組踊実技Ⅰ（4）
6月 4日 舞踊実技Ⅰ（9）・地謡実技Ⅲ（7）
6月11日 舞踊実技Ⅰ（10）・地謡実技Ⅲ（8）
6月13日 組踊実技Ⅲ（5）
6月14日 組踊実技Ⅰ（6）
6月18日 舞踊実技Ⅰ（11）・地謡実技Ⅲ（9）
6月20日 組踊実技Ⅲ（7）
6月21日 組踊実技Ⅰ（8）
6月25日 舞踊実技Ⅰ（12）・地謡実技Ⅲ（10）
6月27日 組踊実技Ⅲ（9）
6月28日 組踊実技Ⅰ（10）
7月 2日 舞踊実技Ⅰ（13）・地謡実技Ⅲ（11）
7月 4日 組踊実技Ⅲ（11）
7月 5日 組踊実技Ⅰ（12）
7月 9日 舞踊実技Ⅰ（13）、地謡実技Ⅲ（12）
7月11日 組踊実技Ⅲ（13）
7月18日 組踊実技Ⅲ（14）
7月23日 舞踊実技Ⅰ（15）・地謡実技Ⅲ（13）

平成30年度後期（授業実施回数：地謡13回、舞踊15回、組踊10回）

10月 1日 地謡実技Ⅳ（1）・舞踊実技Ⅳ（1）
10月 8日 地謡実技Ⅳ（2）

10月15日 組踊実技Ⅳ（1）・地謡実技Ⅳ（3）・舞踊実技Ⅳ（2）
10月22日 地謡実技Ⅳ（4）・舞踊実技Ⅳ（3）
10月29日 組踊実技Ⅳ（2）・地謡実技Ⅳ（5）・舞踊実技Ⅳ（4）
11月 5日 組踊実技Ⅳ（3）・地謡実技Ⅳ（6）・舞踊実技Ⅳ（5）
11月12日 地謡実技Ⅳ（7）・舞踊実技Ⅳ（6）
11月19日 組踊実技Ⅳ（4）・地謡実技Ⅳ（8）・舞踊実技Ⅳ（7）
11月26日 組踊実技Ⅳ（5）・地謡実技Ⅳ（9）・舞踊実技Ⅳ（8）
12月 3日 地謡実技Ⅳ（10）
12月 4日 舞踊実技Ⅳ（9）

12月10日 組踊実技Ⅳ(6)・地謡実技Ⅳ(11)・舞踊実技Ⅳ(10)
12月17日 組踊実技Ⅳ(7)・地謡実技Ⅳ(12)・舞踊実技Ⅳ(11)

平成31年

1月 7日 地謡実技Ⅳ(13)・舞踊実技Ⅳ(12)
1月 9日 琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組)(8)
1月16日 琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組)(9)
1月21日 舞踊実技Ⅳ(13)
1月23日 琉球舞踊組踊実技Ⅳ(組)(10)
1月28日 舞踊実技Ⅳ(14・15)

平成30年度しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

平成31年3月31日 発行

編 集 鈴木 耕太・麻生 伸一・幸地 夏希
発 行 沖縄県立芸術大学附属研究所
〒903-0815 沖縄県首里金城町3-6
電話098－882－5040
事業受託者 琉球新報社 担当 譜久元、池宮